

法学部に在籍する学生に対する法曹志望に関するアンケート調査結果

法 務 省
文部科学省

1. 目的・趣旨

法学部（法学系課程を含む。以下「法学部」という。）に在籍する学生を対象に志望動向等に関する意識調査を実施し、調査を通じて得たデータを収集・分析することによって、法曹志願者の減少に関する要因等を把握し、今後の施策の検討に活用することを目的とする。

2. 調査方法等

① 対象範囲

下記大学の学部 に在籍する学生 1 年生～4 年生

② 対象大学

平成30年度以降、入学者の募集を継続する法科大学院を設置する大学のうち、法学部を設置している38大学

1. 北海道大学（【1 年生】総合教育部（法学部）【2～4 年生】法学部）
2. 東北大学（法学部）
3. 筑波大学（【1～2 年生】社会・国際学群－社会学類
【3～4 年生】社会・国際学群－社会学類－法学主専攻）
4. 千葉大学（【1 年生】法政経学部【2～4 年生】法政経学部－法学コース）
5. 東京大学（【1～2 年生】教養学部文科一類【3～4 年生】法学部）
6. 一橋大学（法学部）
7. 金沢大学（人間社会学域－法学類）
8. 名古屋大学（法学部）
9. 京都大学（法学部）
10. 大阪大学（法学部）
11. 神戸大学（法学部）
12. 岡山大学（法学部）
13. 広島大学（法学部）
14. 九州大学（法学部）
15. 琉球大学（法文学部－総合社会システム学科－法律コース）
16. 首都大学東京（都市教養学部－都市教養学科－法学系）
17. 大阪市立大学（法学部）
18. 学習院大学（法学部）
19. 慶應義塾大学（法学部）
20. 駒澤大学（法学部）
21. 上智大学（法学部）
22. 専修大学（法学部）
23. 創価大学（法学部）
24. 中央大学（法学部）
25. 日本大学（法学部）
26. 法政大学（法学部）
27. 明治大学（法学部）
28. 早稲田大学（法学部）
29. 愛知大学（法学部）
30. 南山大学（法学部）
31. 同志社大学（法学部）
32. 立命館大学（法学部）
33. 関西大学（法学部）
34. 近畿大学（法学部）
35. 関西学院大学（法学部）
36. 甲南大学（法学部）
37. 西南学院大学（法学部）
38. 福岡大学（法学部）

③ 調査方法

ウェブアンケート

3.調査実施期間

平成 29 年 10 月 10 日(火)～11 月 10 日(金)

4. 調査結果

<回答率>

対象者数	有効回答数	回答率
79,801 人	9,658 人	12.1%

<学年別内訳>

全体	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次以上
9,658 人	3,114 人	2,451 人	2,205 人	1,888 人
100.0%	32.2%	25.4%	22.8%	19.5%

【参考】前回調査(平成 28 年9月 23 日～10 月9日実施)について

対象範囲: 下記大学の学部・に在籍する学生 1 年生～4 年生

対象大学: 平成 27 年司法試験合格者数上位 20 校の法科大学院を置く大学

・北海道大学（法学部）	・東北大学（法学部）	・東京大学（文科一類・法学部）
・一橋大学（法学部）	・名古屋大学（法学部）	・京都大学（法学部）
・大阪大学（法学部）	・神戸大学（法学部）	・九州大学（法学部）
・慶應義塾大学（法学部）	・上智大学（法学部）	・中央大学（法学部）
・法政大学（法学部）	・早稲田大学（法学部）	・明治大学（法学部）
・同志社大学（法学部）	・立命館大学（法学部）	・関西大学（法学部）
・首都大学東京（都市教養学部／都市教養学科（法学系））		
・大阪市立大学（法学部）		

対象者数: 41, 907 人

有効回答数: 5,071 人(回答率 12.1%)

※ 本調査については、対象大学・対象者数が前回調査とは大きく異なることから、調査結果の比較の際には注意を要する。

目次

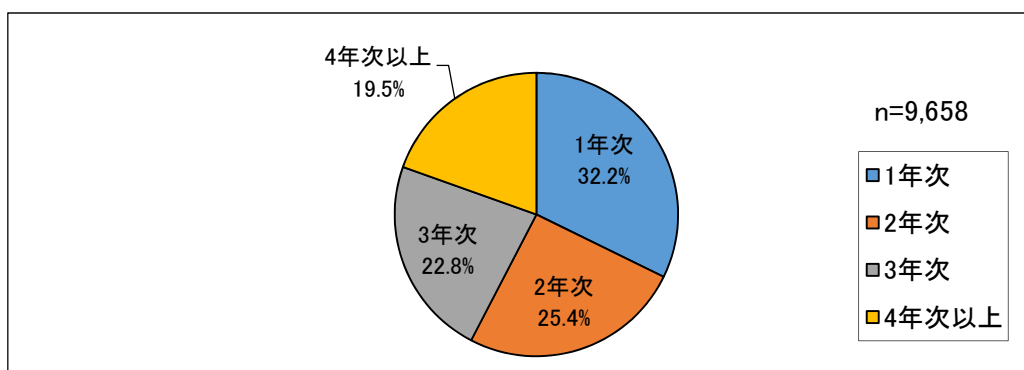
第1 回答者の属性.....	1
1. 学年	1
2. 年齢	1
3. 性別	1
第2 進路選択	2
1. 将来の職業.....	2
2. 職業選択に当たり重視すること(複数選択可).....	5
3. 法曹等志望の有無.....	7
第3 法曹等志望の時期・進路・契機, 法曹の魅力等	9
1. 法曹等を志望した時期	9
(1) 現在志望・選択肢の1つとして考えている学生.....	9
(2) 過去に志望・選択肢の1つとして考えていた学生.....	9
2. 法曹等としての進路(複数選択可).....	10
(1) 現在志望・選択肢の1つとして考えている学生.....	10
(2) 過去に志望・選択肢の1つとして考えていた学生.....	10
3. 法曹等志望の契機(複数選択可).....	11
(1) 現在志望・選択肢の1つとして考えている学生.....	11
(2) 過去志望・選択肢の1つとして考えていた学生	13
4. 法曹等の魅力(複数選択可).....	15
(1) 現在志望・選択肢の1つとして考えている学生.....	15
(2) 過去志望・選択肢の1つとして考えていた学生	17
5. 法曹有資格者の活動領域の拡大.....	19
(1) 法曹等の活動領域が拡大していることに対する現状認識.....	19
(2) 法曹等の活動領域が拡大している分野(海外, 企業, 国・自治体等)で働くことに対する興味・関心の有無	21
(3) 法曹等の活動領域が拡大している分野のうち興味・関心がある分野(複数選択可).....	23
6. 法学部教育に期待すること(上位3つまで選択/現在志望・選択肢の1つとして考えている学生).....	26
7. 司法試験予備校の利用の有無(現在志望・選択肢の1つとして考えている学生/複数選択可).....	29
8. 法曹等を志望するに当たっての不安や迷い, 断念の理由等	30
(1) 法曹等を志望するに当たっての不安や迷いについて(現在志望・選択肢の1つとして考えている学生)	30
(2) 現在志望・選択肢の1つとして考えている学生の不安や迷い(上位3つまで選択).....	31
(3) 過去に志望・選択肢の1つとして考えていた学生の不安や迷い(上位3つまで選択).....	34
(4) 法曹等を選択肢の1つとして考えたこともない学生の法曹等を志望しない理由(上位3つまで選択).....	37
(5) 法曹等の仕事に魅力を感じない理由について	40
9. 法科大学院への進学, 大学在学中の予備試験の受験.....	42
(1) 法科大学院への進学予定	42
(2) 法科大学院の選択において重視する点(上位3つまで選択/法科大学院に進学予定がある学生).....	44
(3) 大学在学中の予備試験の受験予定.....	47
(4) 法科大学院への進学予定・大学在学中の予備試験の受験予定	49
(5) 在学中の予備試験の受験理由(上位3つまで選択/在学中に予備試験を受ける予定がある学生)	50
(6) 在学中に予備試験に合格した場合の法科大学院への進学(在学中に予備試験を受験予定のある学生).....	53
(7) 大学4年次までに予備試験に合格しなかった場合の進路(在学中に予備試験を受験予定のある学生).....	55
参考資料(調査票)	58

第 1 回答者の属性

学年は「1 年次」が 32.2%で最も高く、年次が上がるほど低くなる傾向となっている。年齢は「19 歳」が 26.1%で最も高く、「20 歳」が 24.3%、「21 歳」が 20.4%の順となっている。性別は「男性」が 58.2%、「女性」が 41.0%で男性の割合が高い。

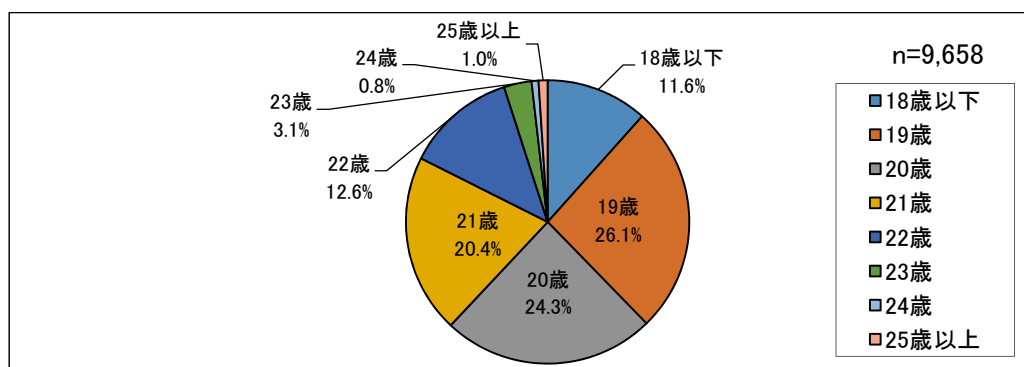
1. 学年

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次以上	回答者数
回答数(人)	3,114	2,451	2,205	1,888	9,658
割合(%)	32.2	25.4	22.8	19.5	100.0



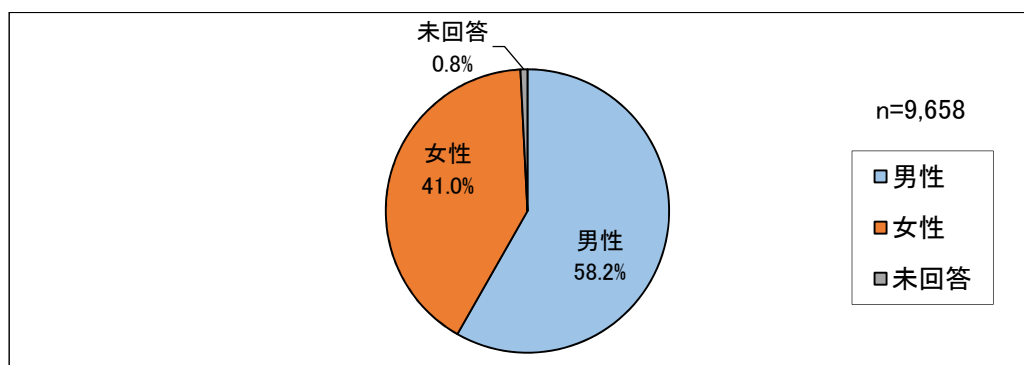
2. 年齢

	18 歳以下	19 歳	20 歳	21 歳	22 歳	23 歳	24 歳	25 歳以上	回答者数
回答数(人)	1,122	2,520	2,345	1,972	1,219	304	77	99	9,658
割合(%)	11.6	26.1	24.3	20.4	12.6	3.1	0.8	1.0	100.0



3. 性別

	男性	女性	未回答	回答者数
回答数(人)	5,625	3,957	76	9,658
割合(%)	58.2	41.0	0.8	100.0



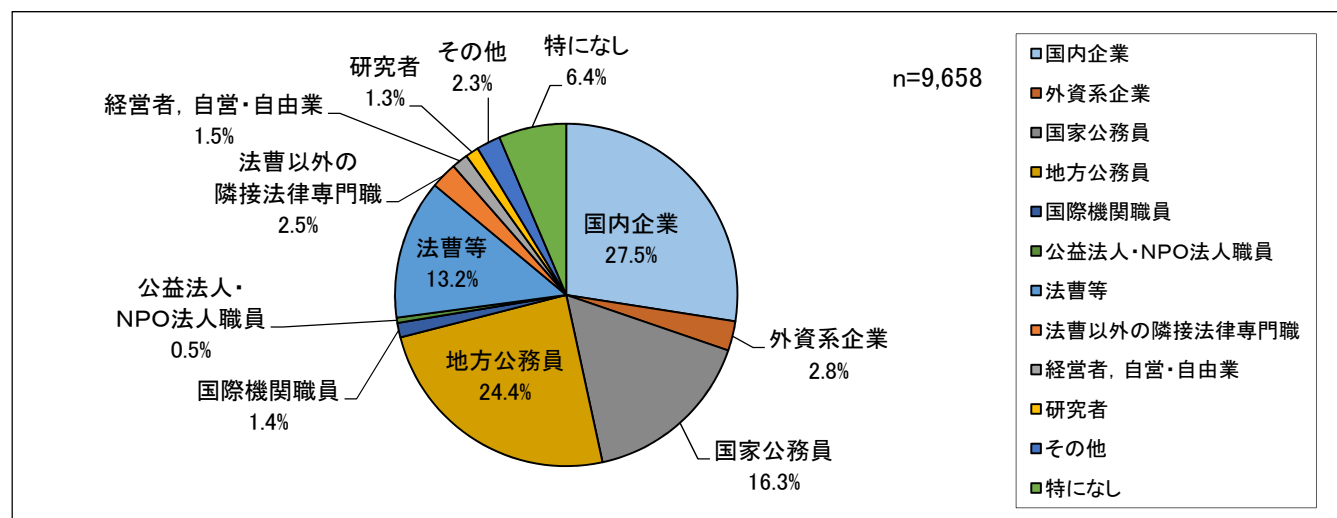
第 2 進路選択

1. 将来の職業

将来の職業については、「国内企業」が 27.5%で最も高く、次いで「地方公務員」の 24.4%、「国家公務員」の 16.3%が続いている。「法曹等」は 13.2%で 4 番目となっている。

	国内企業	外資系企業	国家公務員	地方公務員	国際機関職員	公益法人・NPO 法人職員	法曹等※	法曹以外の隣接法律専門職	経営者、自営・自由業	研究者	その他	特になし	回答者数
回答数(人)	2,653	269	1,578	2,358	132	49	1,273	240	149	121	219	617	9,658
割合(%)	27.5	2.8	16.3	24.4	1.4	0.5	13.2	2.5	1.5	1.3	2.3	6.4	100.0

※法曹(裁判官、検察官及び弁護士)のみならず、司法試験合格後法曹資格を取得せず活動する場合を含む。以下、同じ。



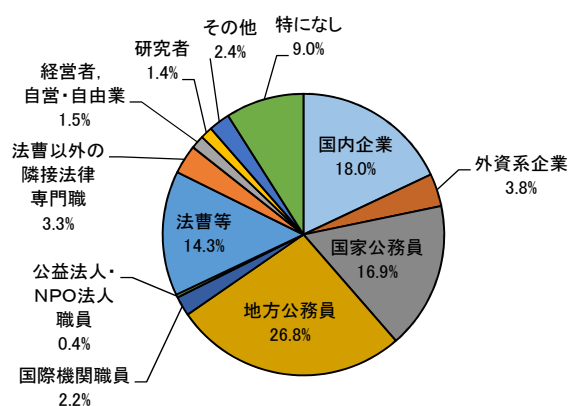
(参考) 学年別内訳【表・円グラフ】

(上段: 回答数・人/下段: 割合・%)

	国内企業	外資系企業	国家公務員	地方公務員	国際機関職員	公益法人・NPO 法人職員	法曹等	法曹以外の隣接法律専門職	経営者、 自営・自由業	研究者	その他	特になし	回答者数
1 年次	560 18.0	117 3.8	525 16.9	834 26.8	70 2.2	11 0.4	446 14.3	104 3.3	48 1.5	43 1.4	76 2.4	280 9.0	3,114 100.0
2 年次	611 24.9	77 3.1	418 17.1	655 26.7	29 1.2	7 0.3	311 12.7	63 2.6	37 1.5	22 0.9	51 2.1	170 6.9	2,451 100.0
3 年次	698 31.7	44 2.0	392 17.8	533 24.2	18 0.8	6 0.3	277 12.6	46 2.1	29 1.3	28 1.3	42 1.9	92 4.2	2,205 100.0
4 年次以上	784 41.5	31 1.6	243 12.9	336 17.8	15 0.8	25 1.3	239 12.7	27 1.4	35 1.9	28 1.5	50 2.6	75 4.0	1,888 100.0
全 体	2,653 27.5	269 2.8	1,578 16.3	2,358 24.4	132 1.4	49 0.5	1,273 13.2	240 2.5	149 1.5	121 1.3	219 2.3	617 6.4	9,658 100.0

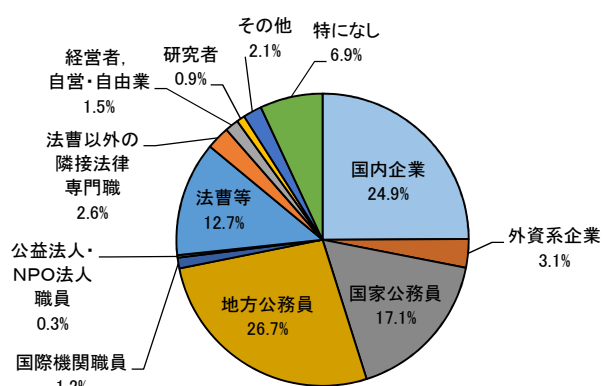
1 年次

n=3,114



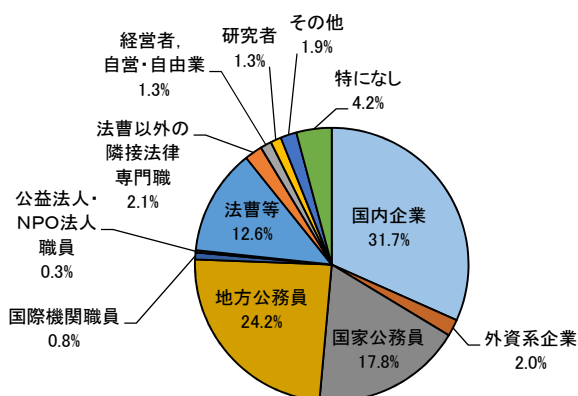
2 年次

n=2,451



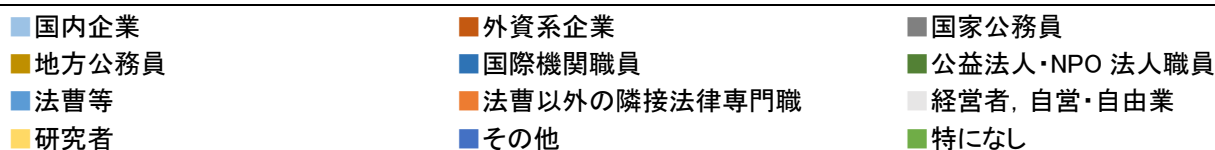
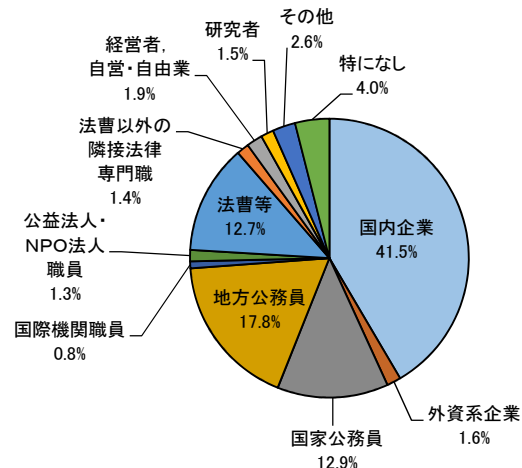
3 年次

n=2,205

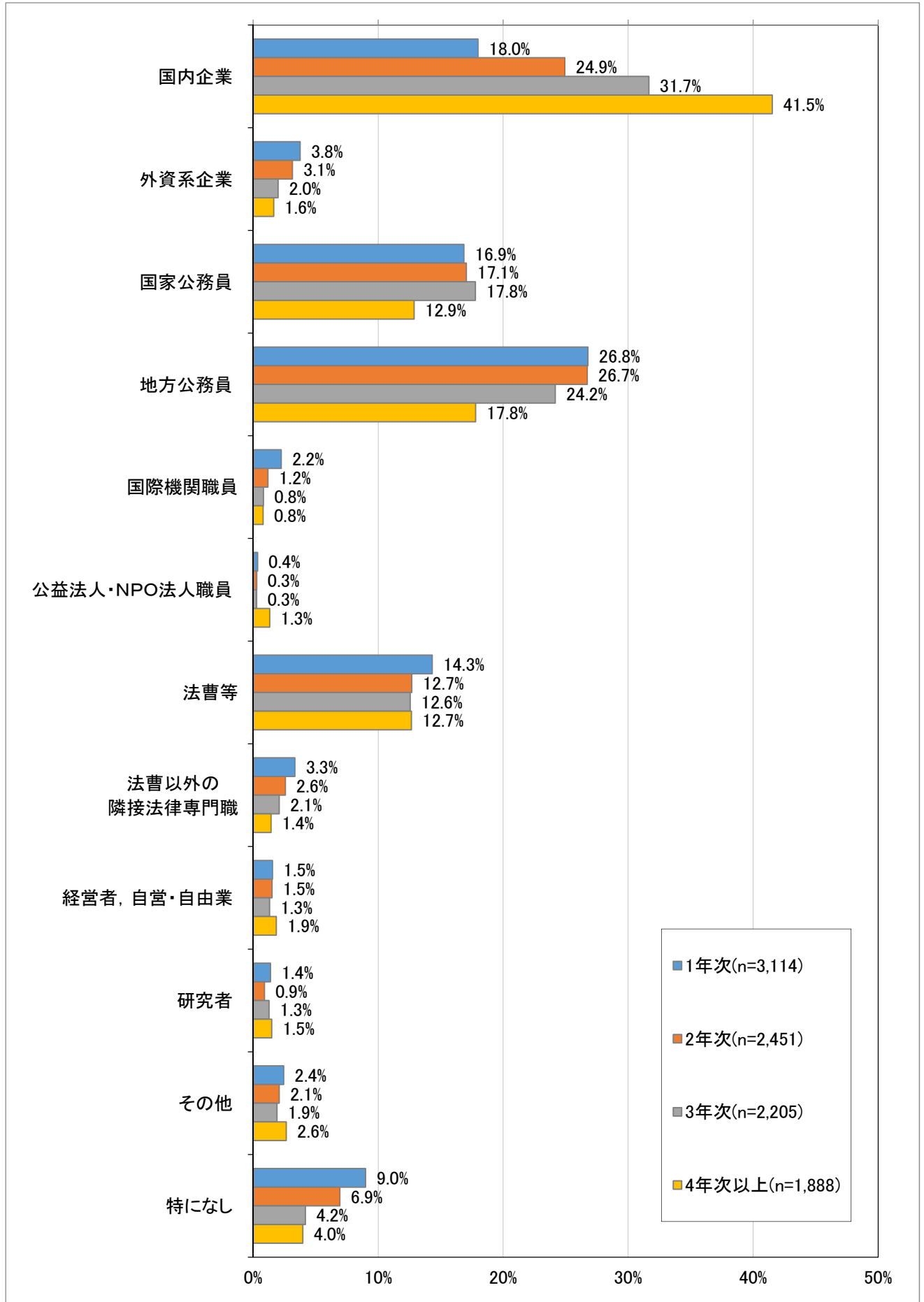


4 年次以上

n=1,888



(参考) 学年別内訳【横棒グラフ】

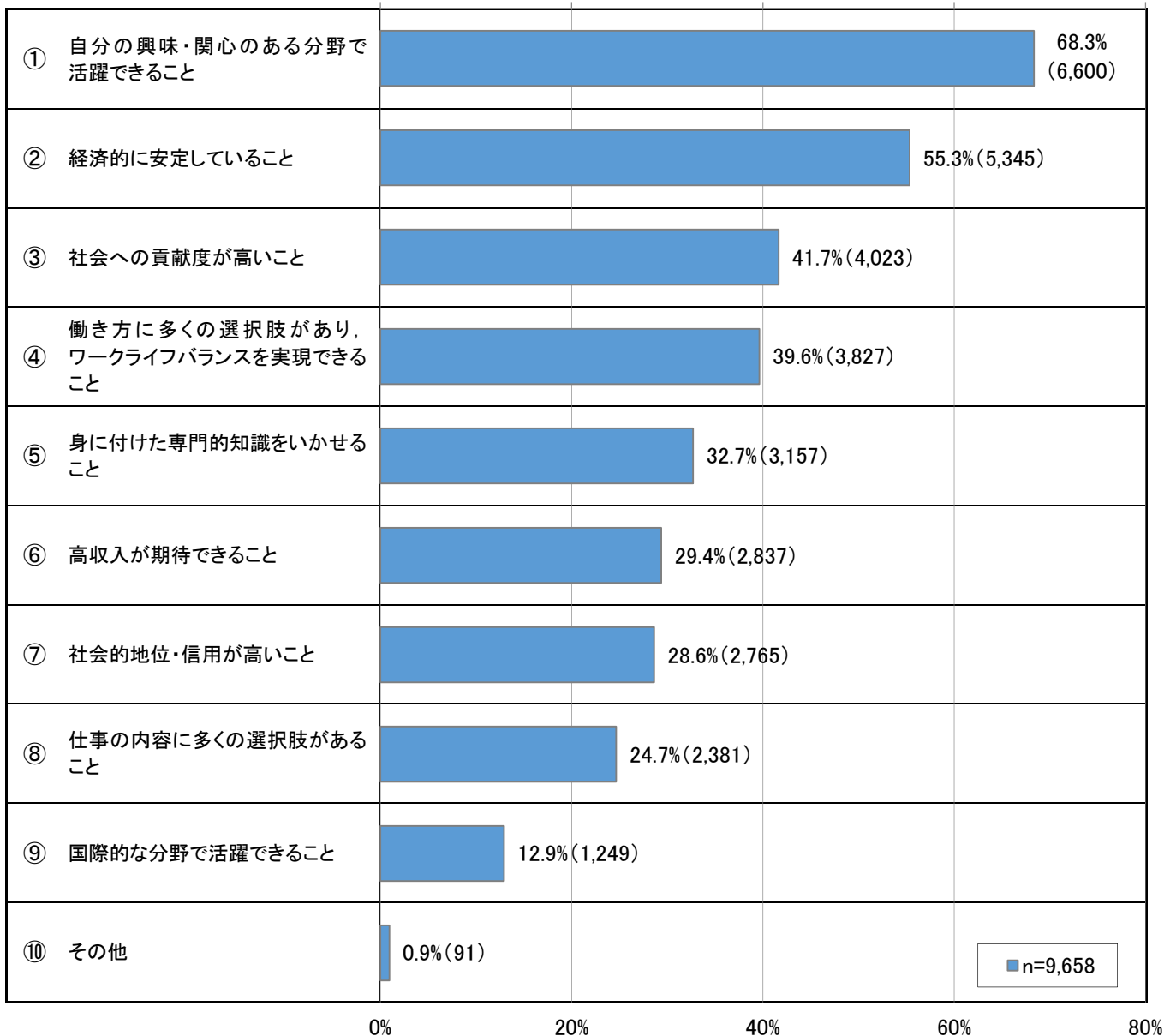


2.職業選択に当たり重視すること(複数選択可)

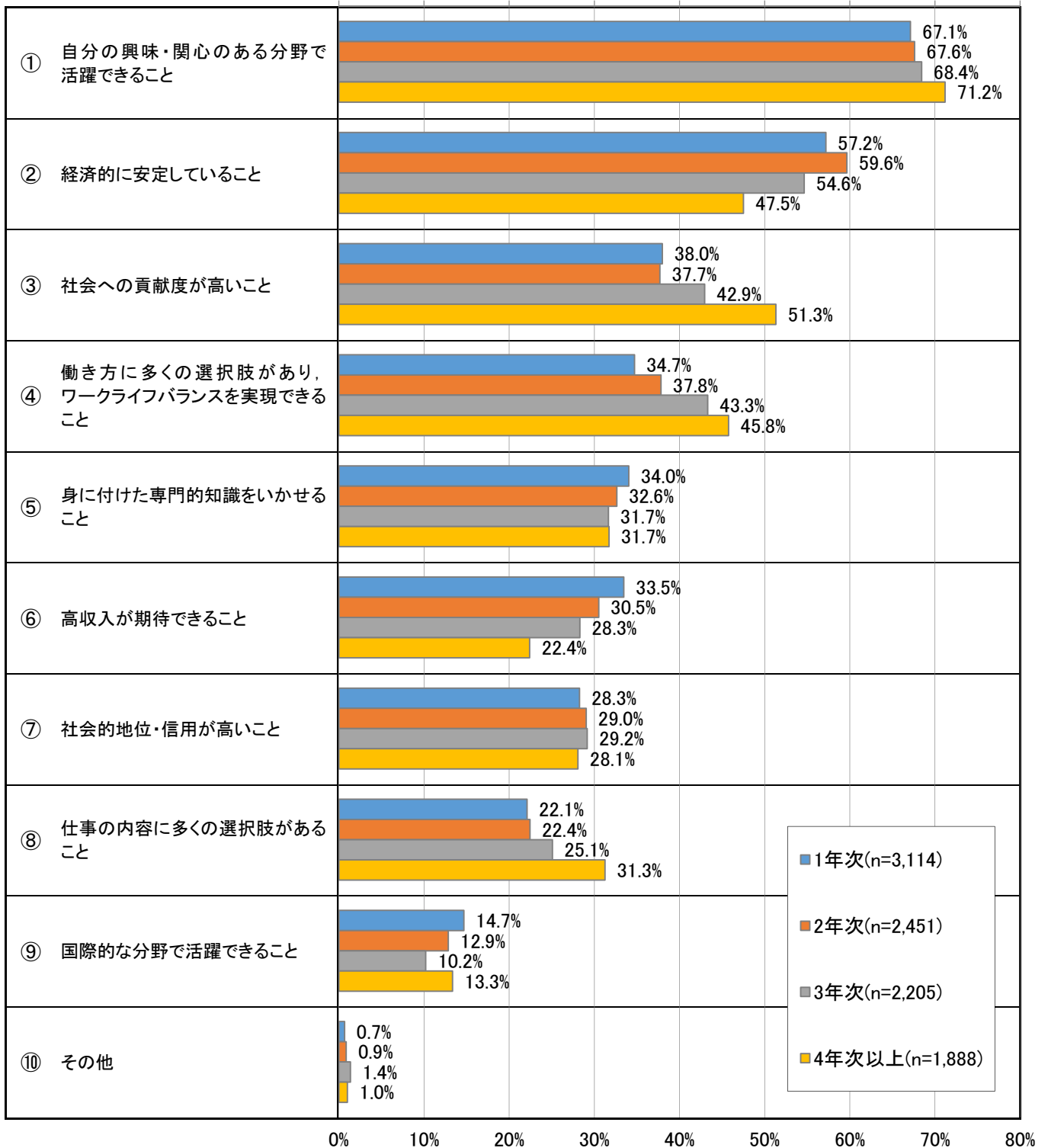
職業選択に当たり重視することは、「自分の興味・関心のある分野で活躍できること」が 68.3%で最も高く、次いで「経済的に安定していること」が 55.3%で続いている。この 2 項目が過半数となっている。

(上段:回答数・人/下段:割合・%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	回答者数
	自分の興味・関心のある分野で活躍できること	経済的に安定していること	社会への貢献度が高いこと	働き方に多くの選択肢があり、ワークライフバランスを実現できること	身に付けた専門的知識をいかせること	高収入が期待できること	社会的地位・信用が高いこと	仕事の内容に多くの選択肢があること	国際的な分野で活躍できること	その他	
1 年次	2,090 67.1	1,781 57.2	1,183 38.0	1,081 34.7	1,060 34.0	1,042 33.5	880 28.3	688 22.1	457 14.7	21 0.7	3,114 100.0
2 年次	1,657 67.6	1,462 59.6	924 37.7	927 37.8	800 32.6	748 30.5	712 29.0	550 22.4	315 12.9	21 0.9	2,451 100.0
3 年次	1,509 68.4	1,205 54.6	947 42.9	955 43.3	698 31.7	624 28.3	643 29.2	553 25.1	225 10.2	30 1.4	2,205 100.0
4 年次以上	1,344 71.2	897 47.5	969 51.3	864 45.8	599 31.7	423 22.4	530 28.1	590 31.3	252 13.3	19 1.0	1,888 100.0
全 体	6,600 68.3	5,345 55.3	4,023 41.7	3,827 39.6	3,157 32.7	2,837 29.4	2,765 28.6	2,381 24.7	1,249 12.9	91 0.9	9,658 100.0



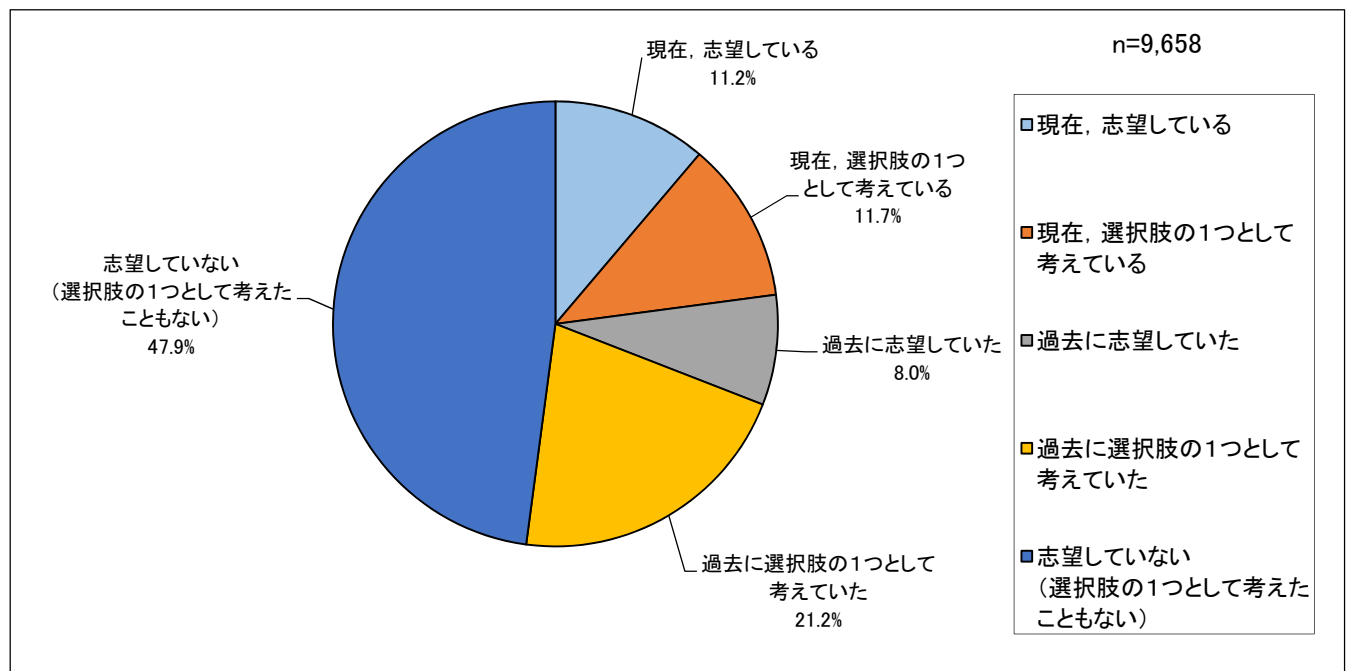
(参考)学年別内訳【横棒グラフ】



3.法曹等志望の有無

法曹等の志望の有無については、「現在、志望している」が11.2%、「現在、選択肢の1つとして考えている」が11.7%であり合計22.9%が現在志望または選択肢の1つとしている。これに対して「過去に志望していた」は8.0%、「過去に選択肢の1つとして考えていた」が21.2%であり合計29.2%が過去に志望・選択肢の1つとしていた。また「志望していない（選択肢の1つとして考えたこともない）」は47.9%と半数近くになっている。

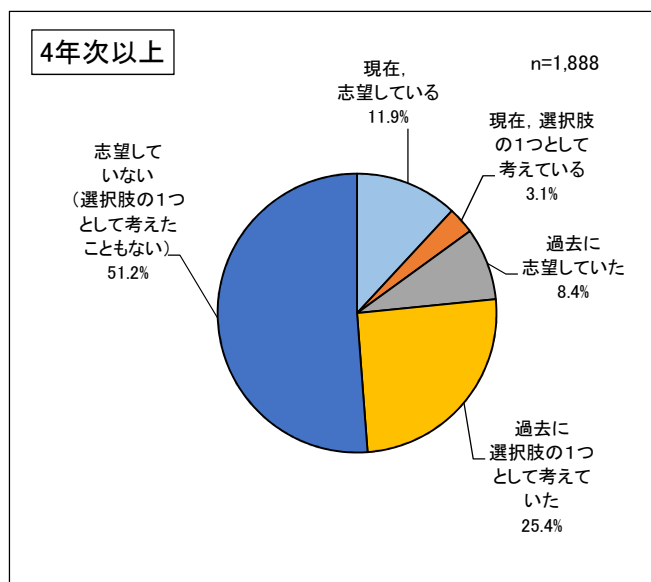
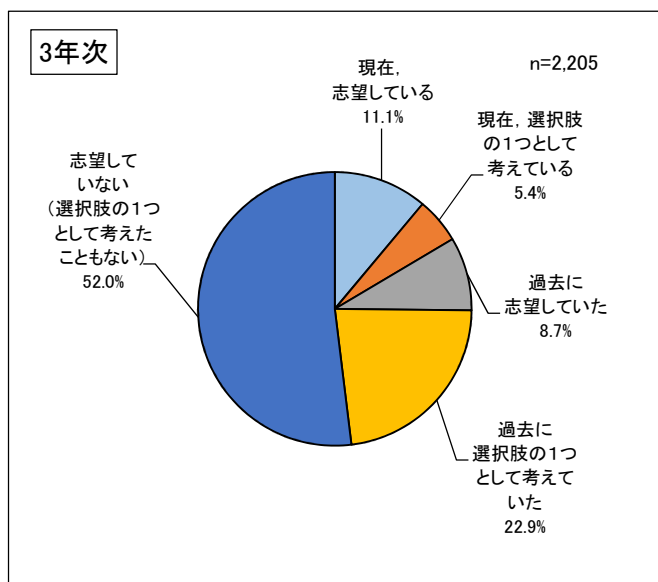
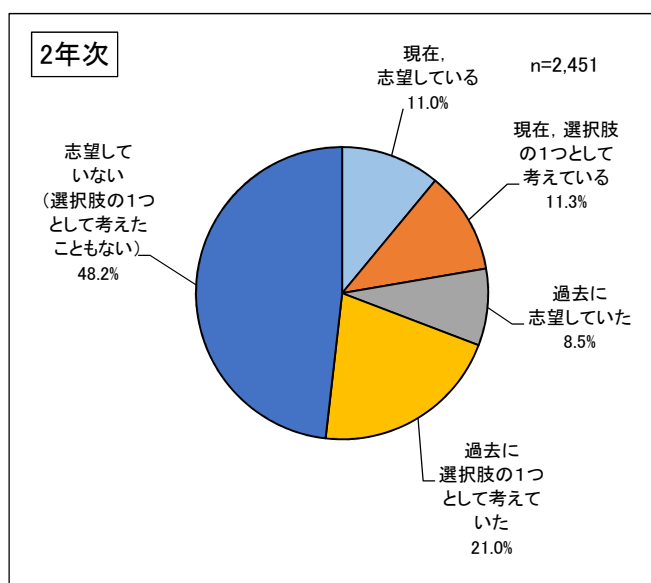
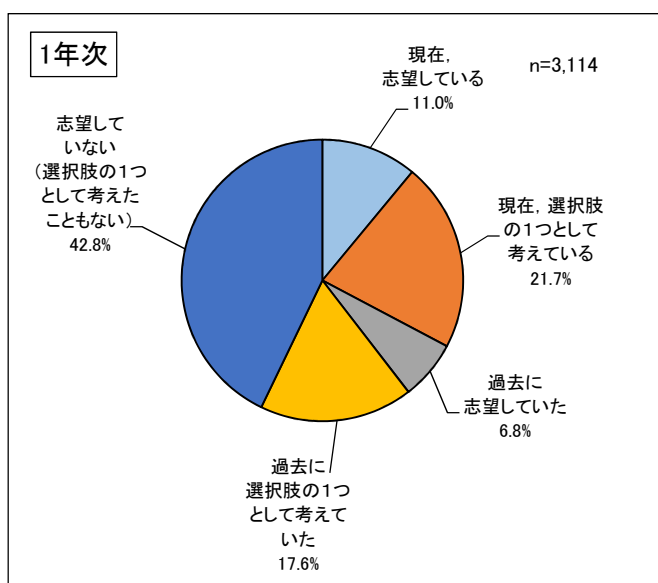
	現在、志望している	現在、選択肢の1つとして考えている	過去に志望していた	過去に選択肢の1つとして考えていた	志望していない（選択肢の1つとして考えたこともない）	回答者数
回答数(人)	1,081	1,131	771	2,048	4,627	9,658
割合(%)	11.2	11.7	8.0	21.2	47.9	100.0



【参考】学年別内訳【表・円グラフ】

(上段:回答数・人/下段:割合・%)

	現在, 志望している	現在, 選択肢の1つとして考えている	過去に志望していた	過去に選択肢の1つとして考えていた	志望していない (選択肢の1つとして考えたこともない)	回答者数
1 年次	342 11.0	676 21.7	213 6.8	549 17.6	1,334 42.8	3,114 100.0
2 年次	269 11.0	277 11.3	209 8.5	515 21.0	1,181 48.2	2,451 100.0
3 年次	245 11.1	119 5.4	191 8.7	504 22.9	1,146 52.0	2,205 100.0
4 年次以上	225 11.9	59 3.1	158 8.4	480 25.4	966 51.2	1,888 100.0
全 体	1,081 11.2	1,131 11.7	771 8.0	2,048 21.2	4,627 47.9	9,658 100.0



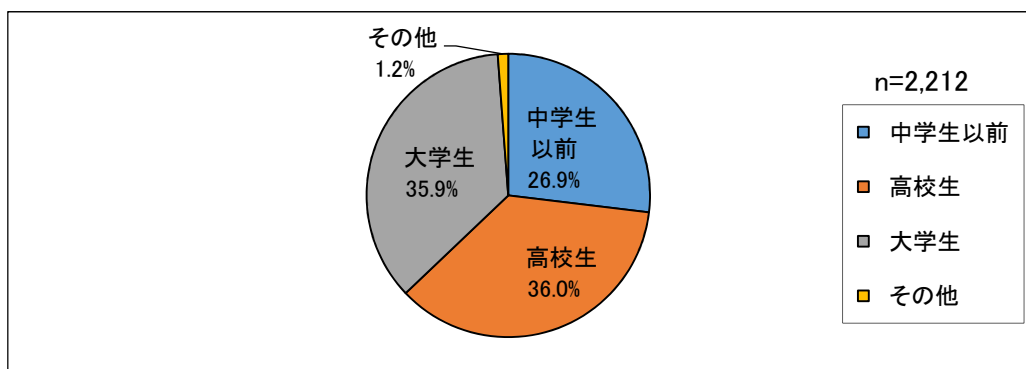
第 3 法曹等志望の時期・進路・契機，法曹の魅力等

1.法曹等を志望した時期

(1)現在志望・選択肢の1つとして考えている学生

現在法曹等を志望しているか，選択肢の1つとして考えている学生が，法曹等を志望した時期は「高校生」が36.0%，「大学生」が35.9%でほぼ同じ割合で高く，「中学生以前」は26.9%となっている。

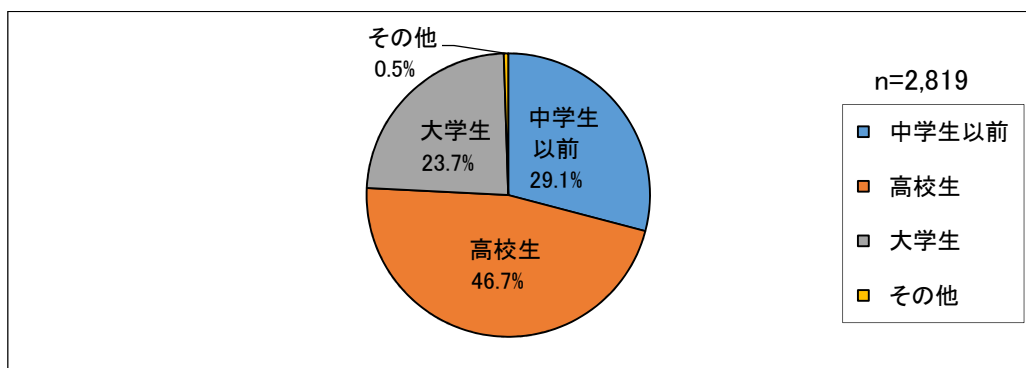
	中学生以前	高校生	大学生	その他	回答者数
回答数(人)	595	797	794	26	2,212
割合(%)	26.9	36.0	35.9	1.2	100.0



(2)過去に志望・選択肢の1つとして考えていた学生

過去に志望・選択肢の1つとして考えていた学生が，法曹等を志望した時期は「高校生」が46.7%で最も高く，次いで「中学生以前」が29.1%となっている。現在志望・選択肢の1つとして考えている学生と比較すると，「大学生」の割合が23.7%と低くなっている。

	中学生以前	高校生	大学生	その他	回答者数
回答数(人)	820	1,317	668	14	2,819
割合(%)	29.1	46.7	23.7	0.5	100.0

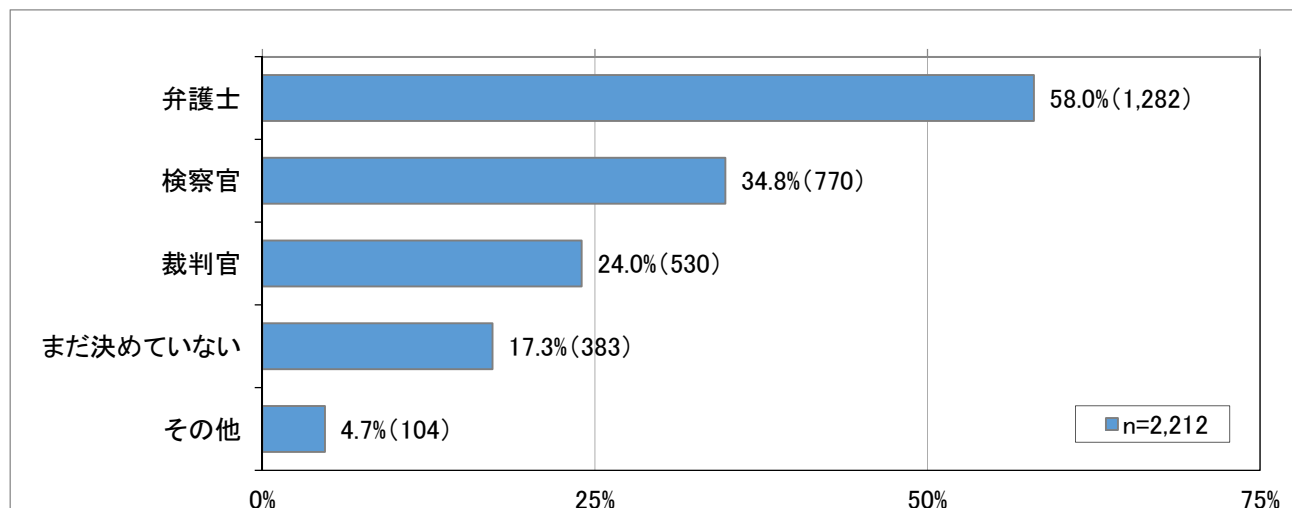


2.法曹等としての進路(複数選択可)

(1)現在志望・選択肢の1つとして考えている学生

現在法曹等を志望・選択肢の1つとして考えている学生の進路は、「弁護士」が58.0%で最も高く、過半数となっている。次いで「検察官」が34.8%、「裁判官」は24.0%である。なお「まだ決めていない」も17.3%と2割近い。

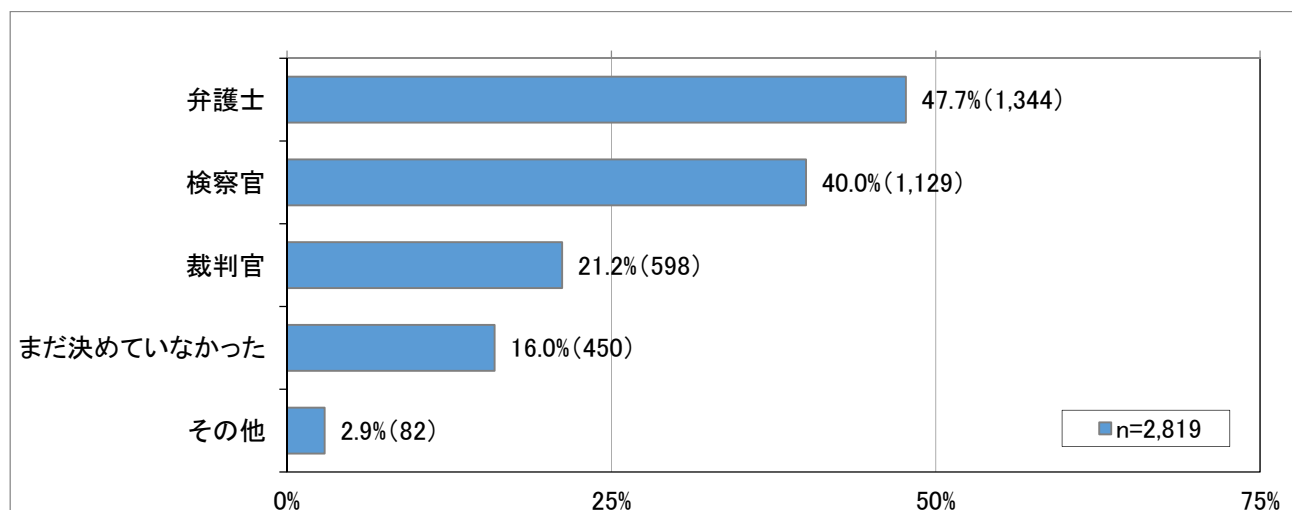
	弁護士	検察官	裁判官	まだ決めていない	その他	回答者数
回答数(人)	1,282	770	530	383	104	2,212
割合(%)	58.0	34.8	24.0	17.3	4.7	100.0



(2)過去に志望・選択肢の1つとして考えていた学生

過去に志望・選択肢の1つとして考えていた学生の進路は、「弁護士」が47.7%で最も高く、次いで「検察官」が40.0%、「裁判官」が21.2%、「まだ決めていなかった」が16.0%となっている。

	弁護士	検察官	裁判官	まだ決めていなかった	その他	回答者数
回答数(人)	1,344	1,129	598	450	82	2,819
割合(%)	47.7	40.0	21.2	16.0	2.9	100.0



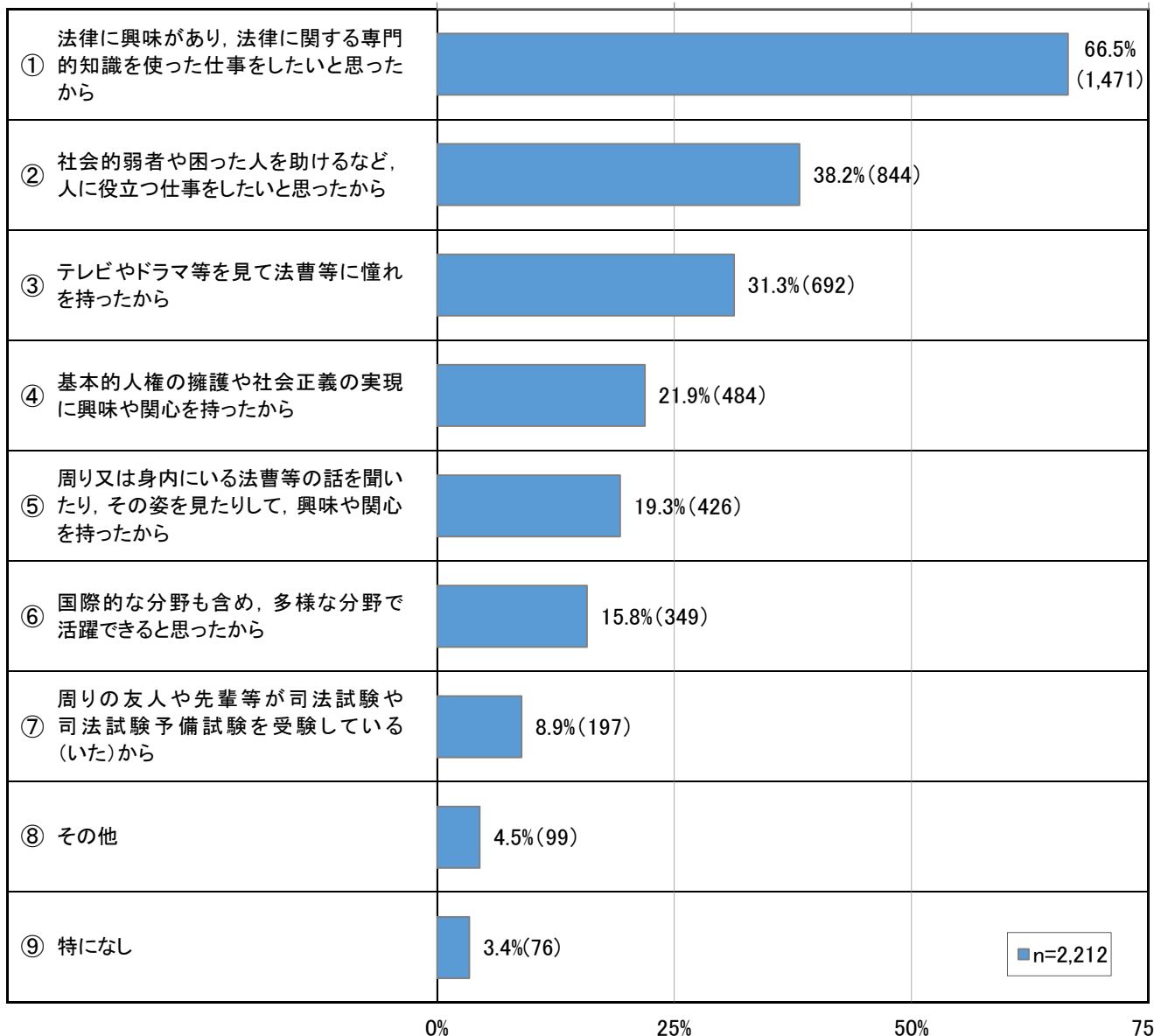
3.法曹等志望の契機(複数選択可)

(1)現在志望・選択肢の1つとして考えている学生

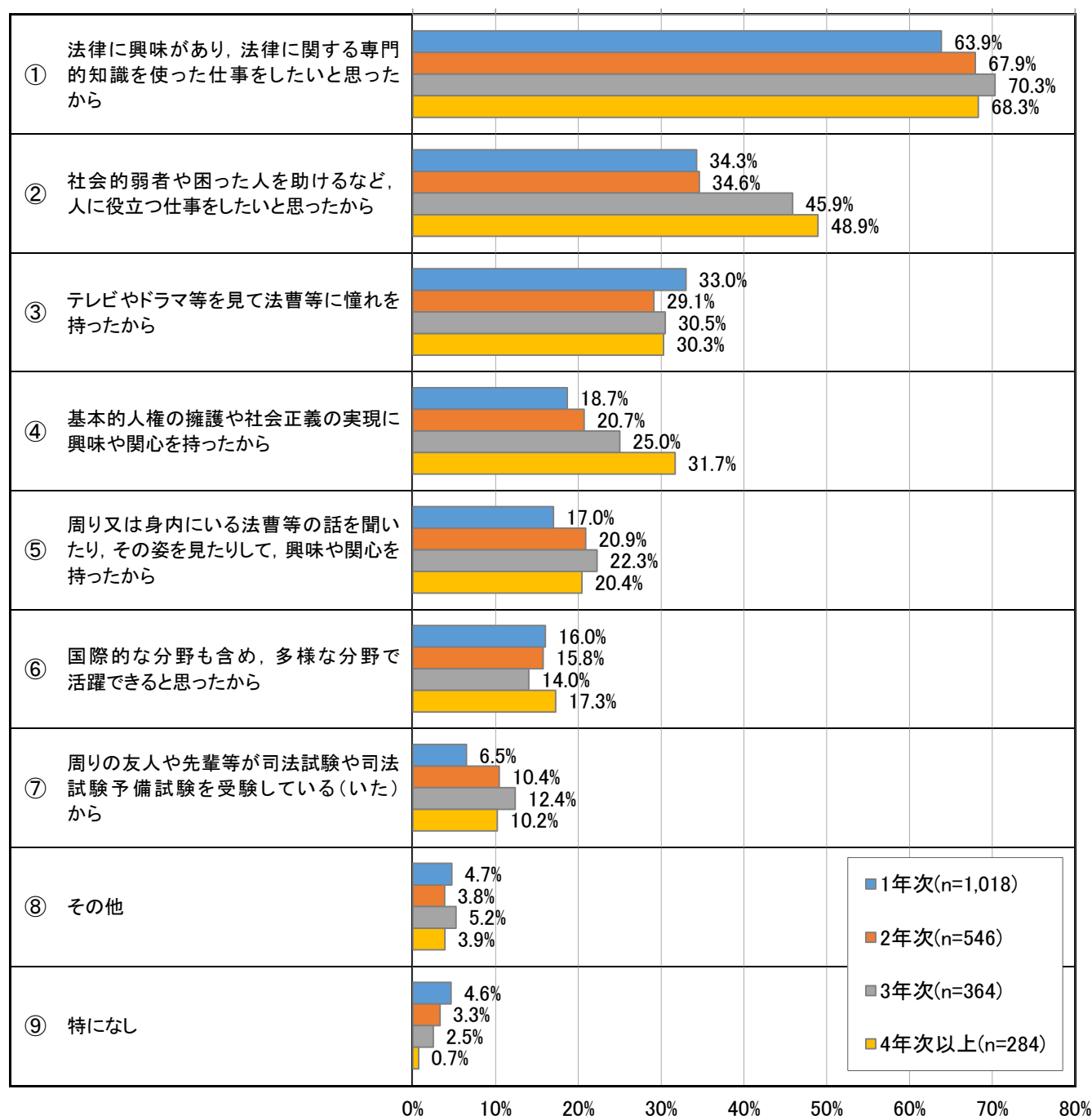
法曹等志望の契機は「法律に興味があり、法律に関する専門的知識を使った仕事をしたいと思ったから」が66.5%で最も高く、唯一過半数となっている。次いで「社会的弱者や困った人を助けるなど、人に役立つ仕事をしたいと思ったから」の38.2%、「テレビやドラマ等を見て法曹等に憧れを持ったから」が31.3%となっている。

(上段:回答数・人/下段:割合・%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	回答者数
	法律に興味があり、法律に関する専門的知識を使った仕事をしたいと思ったから	社会的弱者や困った人を助けるなど、人に役立つ仕事をしたいと思ったから	テレビやドラマ等を見て法曹等に憧れを持ったから	基本的人権の擁護や社会正義の実現に興味や関心を持ったから	周り又は身内にいる法曹等の話を聞いたり、その姿を見たりして、興味や関心を持ったから	国際的な分野も含め、多様な分野で活躍できると思ったから	周りの友人や先輩等が司法試験や司法試験予備試験を受験している(いた)から	その他	特になし	
1 年次	650 63.9	349 34.3	336 33.0	190 18.7	173 17.0	163 16.0	66 6.5	48 4.7	47 4.6	1,018 100.0
2 年次	371 67.9	189 34.6	159 29.1	113 20.7	114 20.9	86 15.8	57 10.4	21 3.8	18 3.3	546 100.0
3 年次	256 70.3	167 45.9	111 30.5	91 25.0	81 22.3	51 14.0	45 12.4	19 5.2	9 2.5	364 100.0
4 年次 以上	194 68.3	139 48.9	86 30.3	90 31.7	58 20.4	49 17.3	29 10.2	11 3.9	2 0.7	284 100.0
全 体	1,471 66.5	844 38.2	692 31.3	484 21.9	426 19.3	349 15.8	197 8.9	99 4.5	76 3.4	2,212 100.0



(参考)学年別内訳【横棒グラフ】

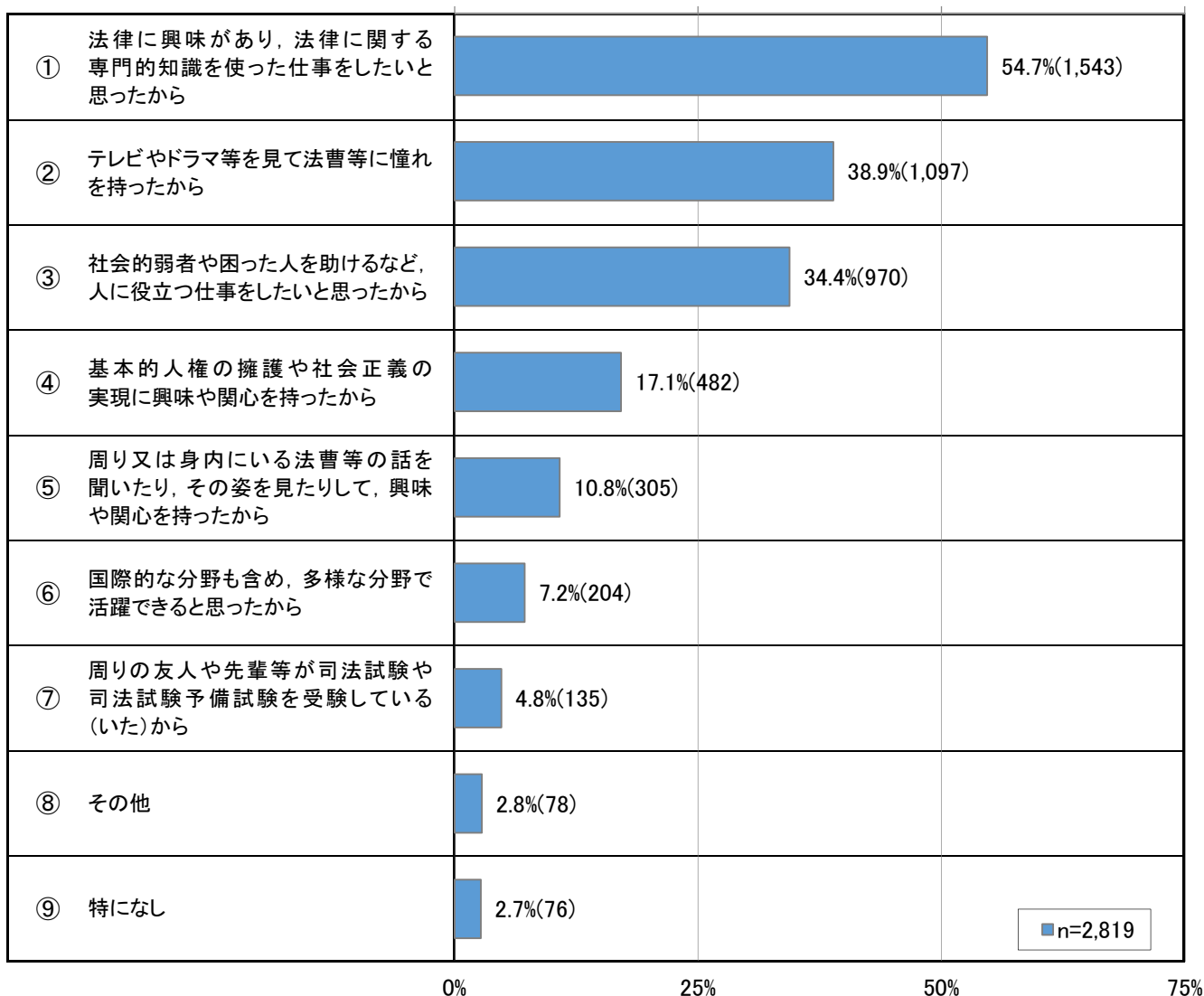


(2)過去志望・選択肢の１つとして考えていた学生

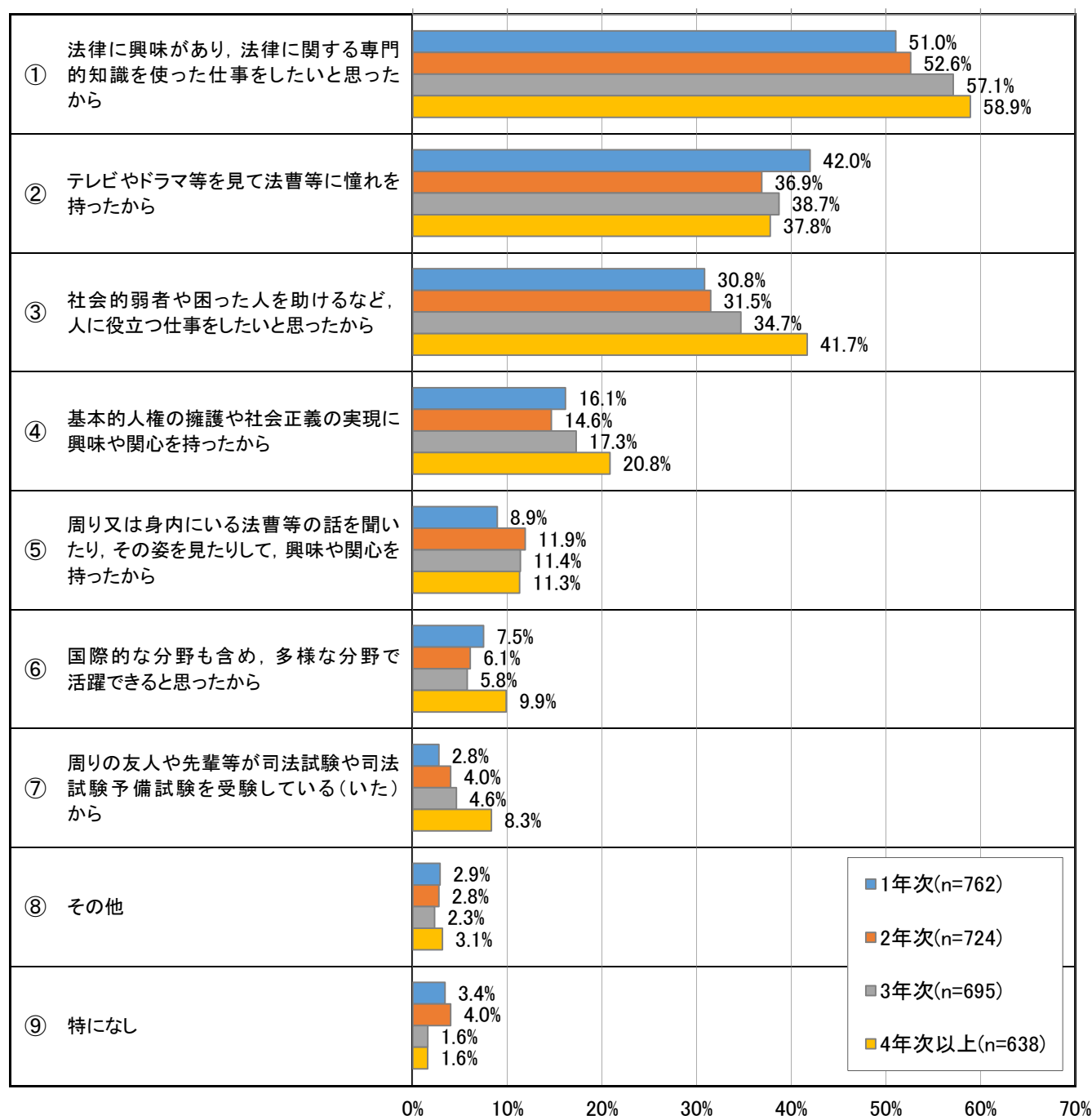
法曹等志望の契機は「法律に興味があり、法律に関する専門的知識を使った仕事をしたいと思ったから」が 54.7%で最も高く、過半数である。次いで「テレビやドラマ等を見て法曹等に憧れを持ったから」が 38.9%, 「社会的弱者や困った人を助けるなど、人に役立つ仕事をしたいと思ったから」の 34.4%の順となっている。

(上段:回答数・人/下段:割合・%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	回答者数
	法律に興味があり、法律に関する専門的知識を使った仕事をしたいと思ったから	テレビやドラマ等を見て法曹等に憧れを持ったから	社会的弱者や困った人を助けるなど、人に役立つ仕事をしたいと思ったから	基本的人権の擁護や社会正義の実現に興味や関心を持ったから	周り又は身内にいる法曹等の話を聞いたり、その姿を見たりして、興味や関心を持ったから	国際的な分野も含め、多様な分野で活躍できると思ったから	周りの友人や先輩等が司法試験や司法試験予備試験を受験している(いた)から	その他	特になし	
1 年次	389 51.0	320 42.0	235 30.8	123 16.1	68 8.9	57 7.5	21 2.8	22 2.9	26 3.4	762 100.0
2 年次	381 52.6	267 36.9	228 31.5	106 14.6	86 11.9	44 6.1	29 4.0	20 2.8	29 4.0	724 100.0
3 年次	397 57.1	269 38.7	241 34.7	120 17.3	79 11.4	40 5.8	32 4.6	16 2.3	11 1.6	695 100.0
4 年次以上	376 58.9	241 37.8	266 41.7	133 20.8	72 11.3	63 9.9	53 8.3	20 3.1	10 1.6	638 100.0
全 体	1,543 54.7	1,097 38.9	970 34.4	482 17.1	305 10.8	204 7.2	135 4.8	78 2.8	76 2.7	2,819 100.0



(参考)学年別内訳【横棒グラフ】



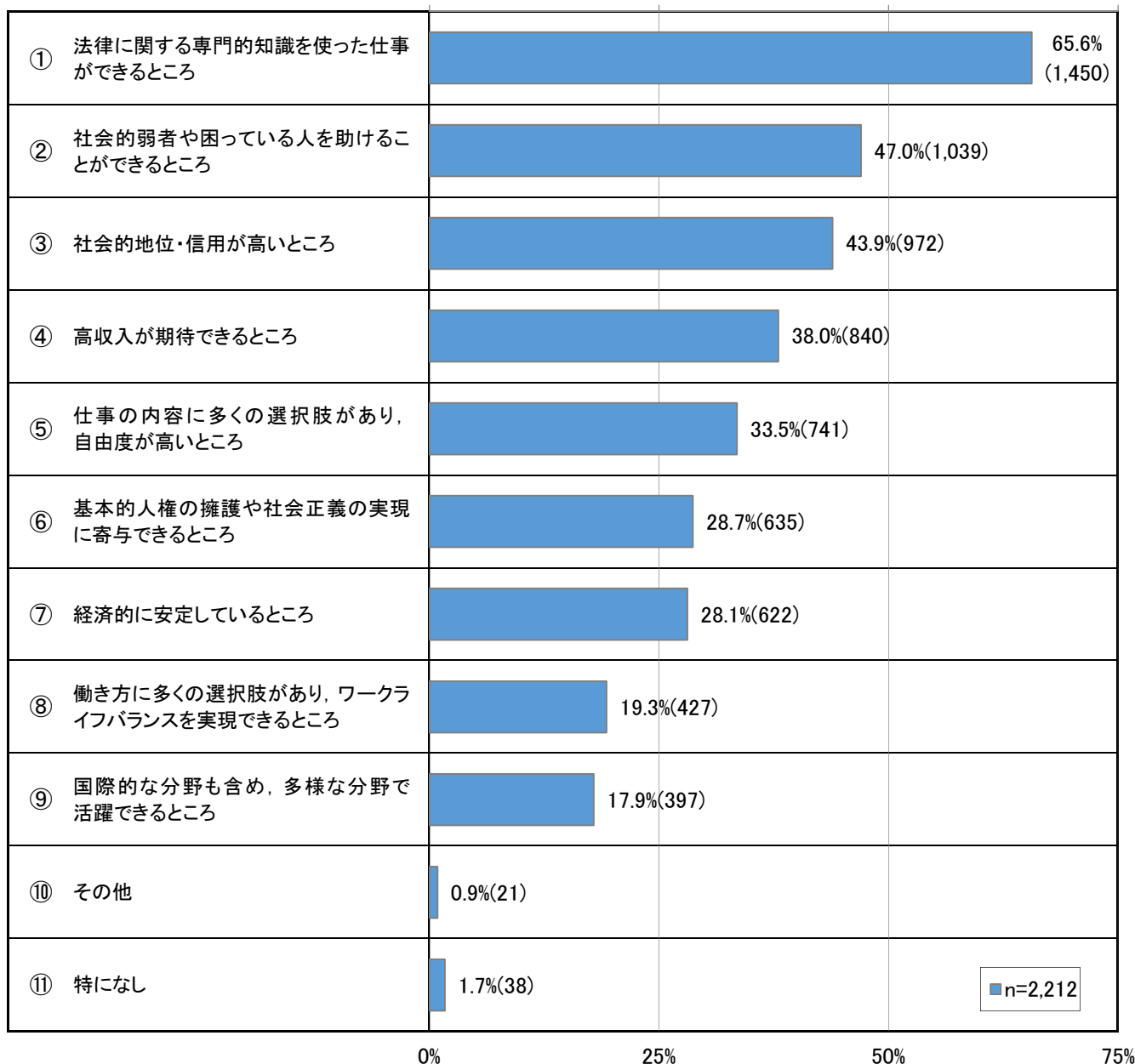
4.法曹等の魅力(複数選択可)

(1)現在志望・選択肢の1つとして考えている学生

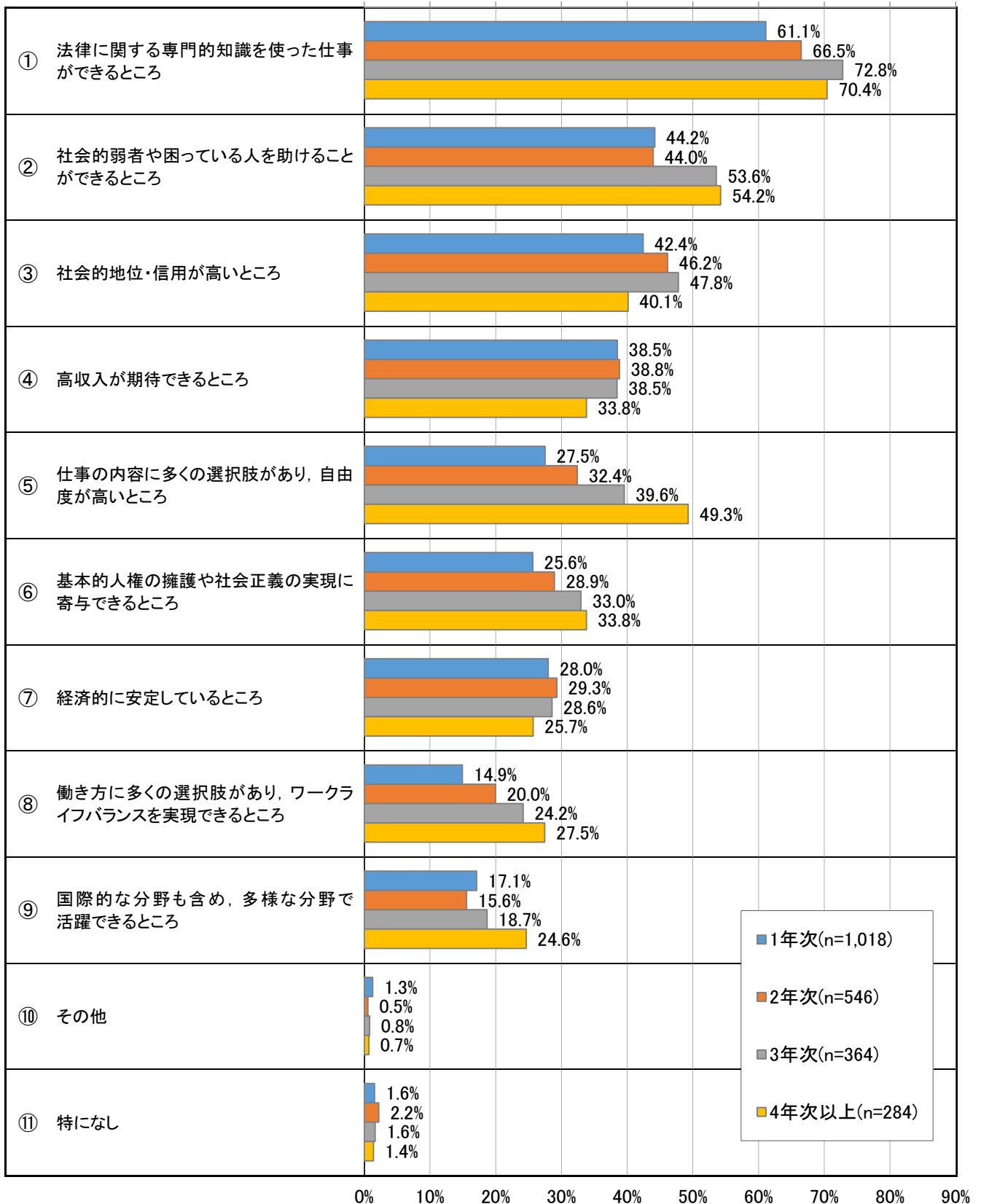
法曹等の魅力については、「法律に関する専門的知識を使った仕事ができるところ」が65.6%で最も高く、過半数で、「社会的弱者や困っている人を助けることができるところ」の47.0%、「社会的地位・信用が高いところ」が43.9%で続いている。

(上段:回答数・人/下段:割合・%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
	法律に関する専門的知識を使った仕事ができるところ	社会的弱者や困っている人を助けることができるところ	社会的地位・信用が高いところ	高収入が期待できるところ	仕事の内容に多くの選択肢があり、自由度が高いところ	基本的人権の擁護や社会正義の実現に寄与できるところ	経済的に安定しているところ	働き方に多くの選択肢があり、ワークライフバランスを実現できるところ	国際的な分野も含め、多様な分野で活躍できるところ	その他	特になし	回答者数
1 年次	622 61.1	450 44.2	432 42.4	392 38.5	280 27.5	261 25.6	285 28.0	152 14.9	174 17.1	13 1.3	16 1.6	1,018 100.0
2 年次	363 66.5	240 44.0	252 46.2	212 38.8	177 32.4	158 28.9	160 29.3	109 20.0	85 15.6	3 0.5	12 2.2	546 100.0
3 年次	265 72.8	195 53.6	174 47.8	140 38.5	144 39.6	120 33.0	104 28.6	88 24.2	68 18.7	3 0.8	6 1.6	364 100.0
4 年次 以上	200 70.4	154 54.2	114 40.1	96 33.8	140 49.3	96 33.8	73 25.7	78 27.5	70 24.6	2 0.7	4 1.4	284 100.0
全 体	1,450 65.6	1,039 47.0	972 43.9	840 38.0	741 33.5	635 28.7	622 28.1	427 19.3	397 17.9	21 0.9	38 1.7	2,212 100.0



(参考)学年別内訳【横棒グラフ】

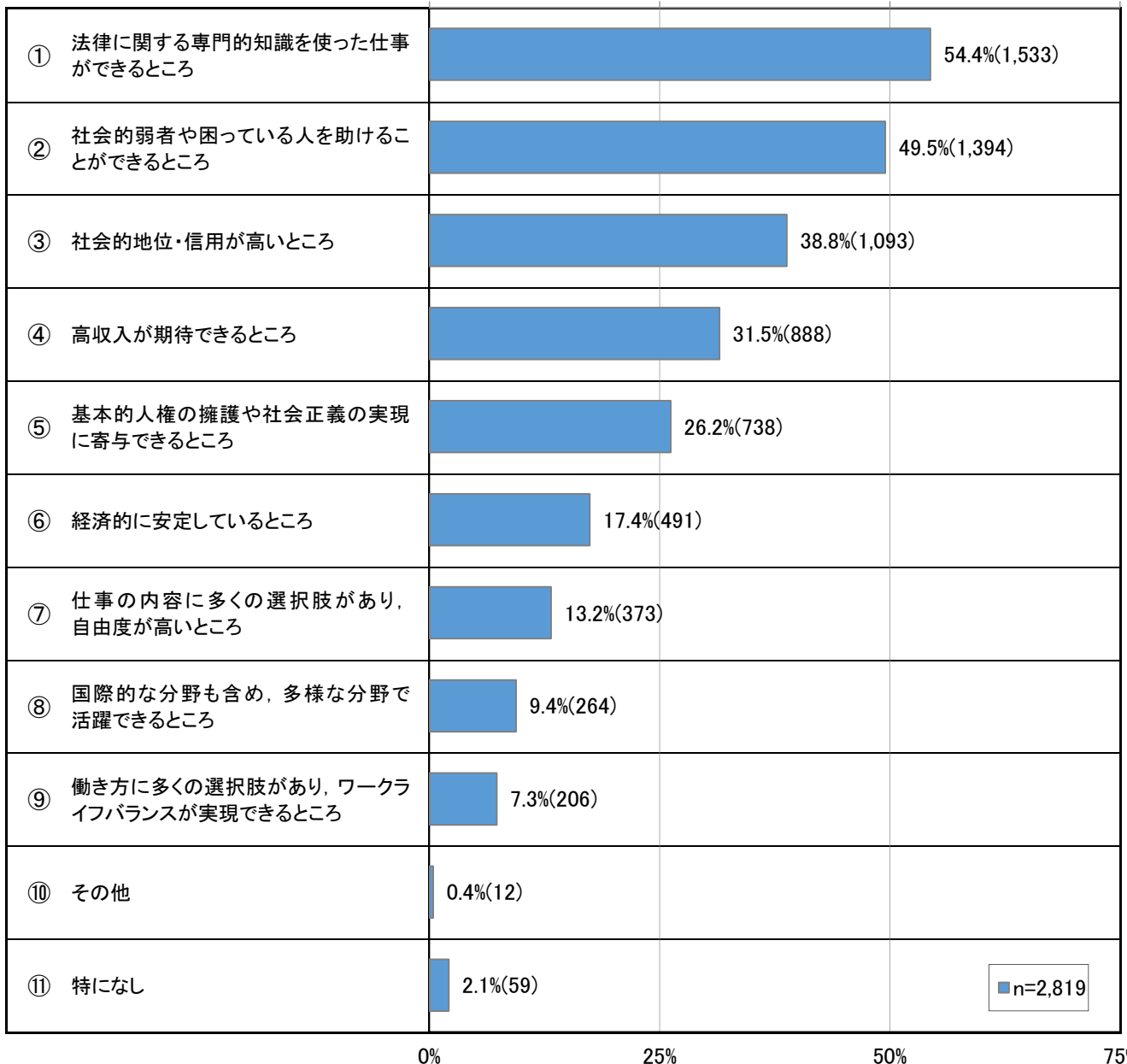


(2)過去志望・選択肢の1つとして考えていた学生

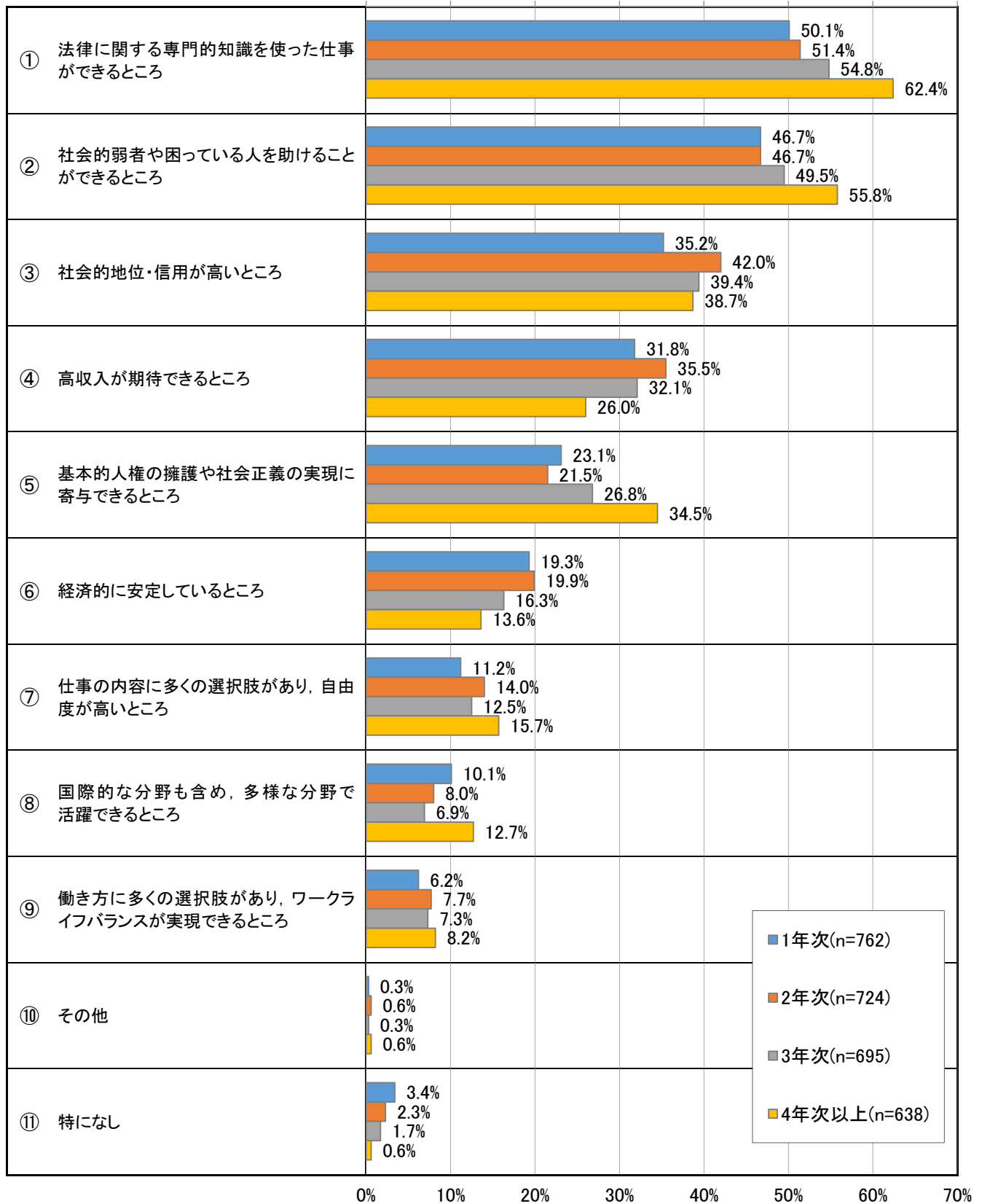
過去志望・選択肢の1つとして考えていた学生の法曹等の魅力は、「法律に関する専門的知識を使った仕事ができる」ところが54.4%で最も高く過半数、「社会的弱者や困っている人を助けることができる」ところの49.5%がほぼ半数となっている。これに、「社会的地位・信用が高いところ」の38.8%、「高収入が期待できる」ところが31.5%で続いている。

(上段:回答数・人/下段:割合・%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
	法律に関する専門的知識を使った仕事ができる	社会的弱者や困っている人を助けることができる	社会的地位・信用が高い	高収入が期待できる	基本的人権の擁護や社会正義の実現に寄与できる	経済的に安定している	仕事の内容に多くの選択肢があり、自由度が高い	国際的な分野も含め、多様な分野で活躍できる	働き方に多くの選択肢があり、ワークライフバランスが実現できる	その他	特になし	回答者数
1 年次	382 50.1	356 46.7	268 35.2	242 31.8	176 23.1	147 19.3	85 11.2	77 10.1	47 6.2	2 0.3	26 3.4	762 100.0
2 年次	372 51.4	338 46.7	304 42.0	257 35.5	156 21.5	144 19.9	101 14.0	58 8.0	56 7.7	4 0.6	17 2.3	724 100.0
3 年次	381 54.8	344 49.5	274 39.4	223 32.1	186 26.8	113 16.3	87 12.5	48 6.9	51 7.3	2 0.3	12 1.7	695 100.0
4 年次 以上	398 62.4	356 55.8	247 38.7	166 26.0	220 34.5	87 13.6	100 15.7	81 12.7	52 8.2	4 0.6	4 0.6	638 100.0
全 体	1,533 54.4	1,394 49.5	1,093 38.8	888 31.5	738 26.2	491 17.4	373 13.2	264 9.4	206 7.3	12 0.4	59 2.1	2,819 100.0



(参考) 学年別内訳【横棒グラフ】



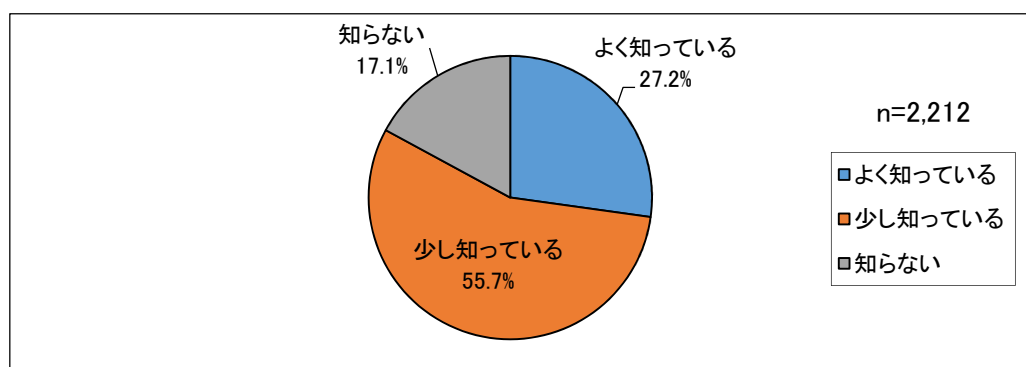
5.法曹有資格者の活動領域の拡大

(1)法曹等の活動領域が拡大していることに対する現状認識

ア.現在志望・選択肢の1つとして考えている学生

現在志望・選択肢の1つとして考えている学生では、「少し知っている」が55.7%、「よく知っている」が27.2%で8割以上が知っている。

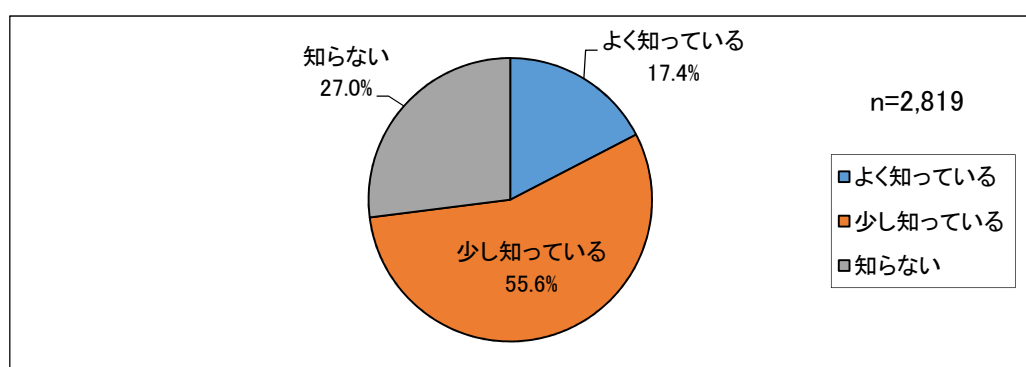
	よく知っている	少し知っている	知らない	回答者数
回答数(人)	602	1,232	378	2,212
割合(%)	27.2	55.7	17.1	100.0



イ.過去に志望・選択肢の1つとして考えていた学生

過去に志望・選択肢の1つとして考えていた学生では、「少し知っている」が55.6%、「よく知っている」が17.4%となっている。「少し知っている」は現在志望・選択肢の1つと考えている学生と同程度であるが、「よく知っている」は約10ポイント低くなっている。

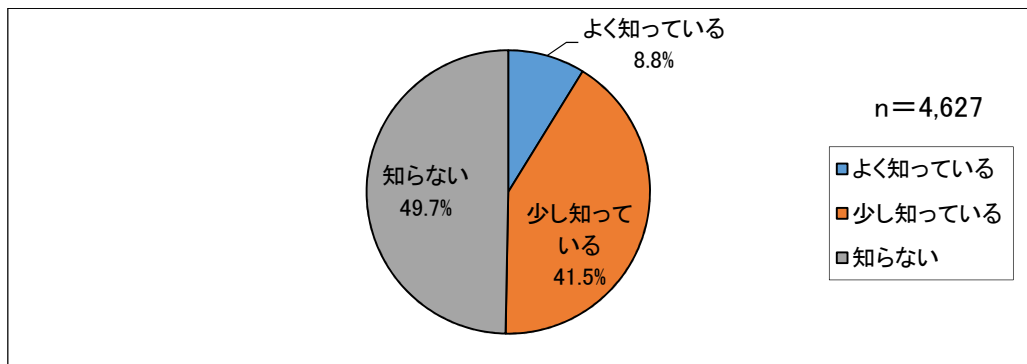
	よく知っている	少し知っている	知らない	回答者数
回答数(人)	490	1,567	762	2,819
割合(%)	17.4	55.6	27.0	100.0



ウ.法曹等を選択肢の1つとして考えたこともない学生

法曹等を選択肢の1つとして考えたこともない学生では、「知らない」が49.7%でほぼ半数と高くなっている。次いで「少し知っている」が41.5%で、「よく知っている」が8.8%となっている。

	よく知っている	少し知っている	知らない	回答者数
回答数(人)	406	1,921	2,300	4,627
割合(%)	8.8	41.5	49.7	100.0

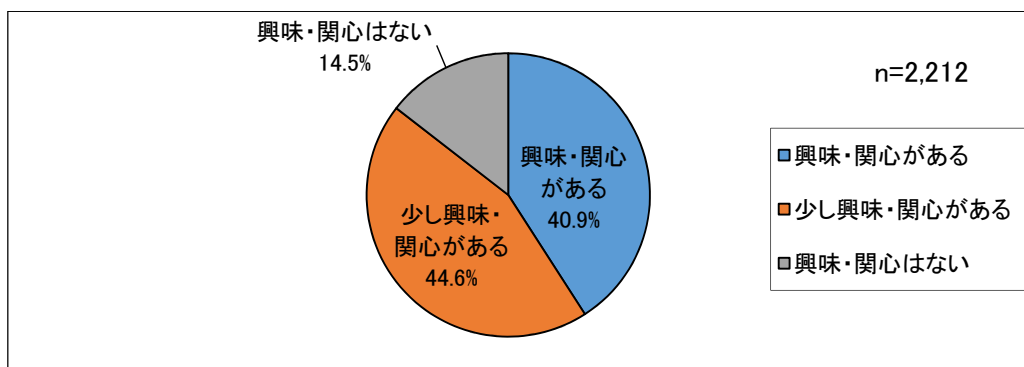


(2)法曹等の活動領域が拡大している分野(海外、企業、国・自治体等)で働くことに対する興味・関心の有無

ア.現在志望・選択肢の1つとして考えている学生

現在志望・選択肢の1つとして考えている学生が、法曹等の活動領域が拡大している分野で働くことについては、「少し興味・関心がある」が44.6%、「興味・関心がある」が40.9%である。「興味・関心はない」は14.5%となっている。

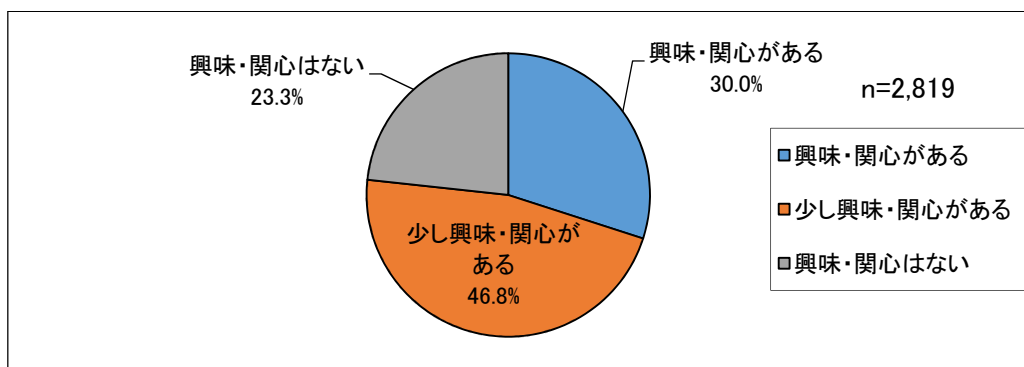
	興味・関心がある	少し興味・関心がある	興味・関心はない	回答者数
回答数(人)	904	987	321	2,212
割合(%)	40.9	44.6	14.5	100.0



イ.過去に志望・選択肢の1つとして考えていた学生

過去に志望・選択肢の1つとしていた学生では、「少し興味・関心がある」が46.8%、「興味・関心がある」が30.0%である。「興味・関心はない」は23.3%となっている。

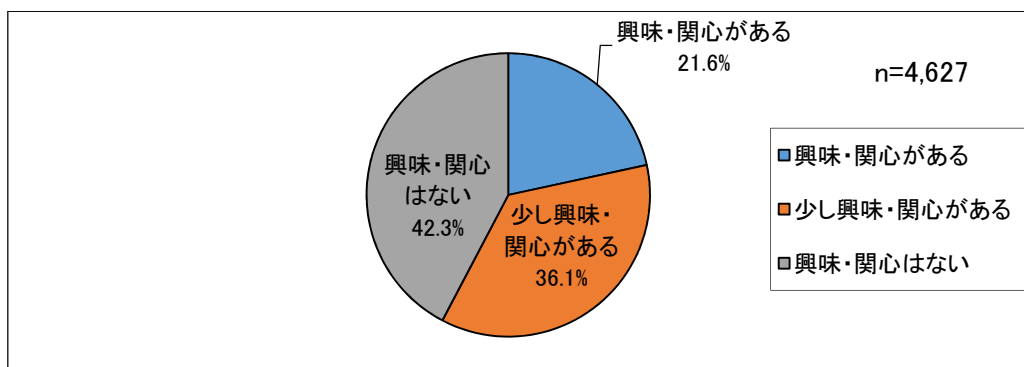
	興味・関心がある	少し興味・関心がある	興味・関心はない	回答者数
回答数(人)	845	1,318	656	2,819
割合(%)	30.0	46.8	23.3	100.0



ウ.法曹等を選択肢の１つとして考えたこともない学生

法曹等を選択肢の１つとして考えたこともない学生では、「興味・関心はない」が 42.3%,「少し興味・関心がある」が 36.1%,「興味・関心がある」が 21.6%となっている。

	興味・関心がある	少し興味・関心がある	興味・関心はない	回答者数
回答数(人)	1,000	1,671	1,956	4,627
割合(%)	21.6	36.1	42.3	100.0

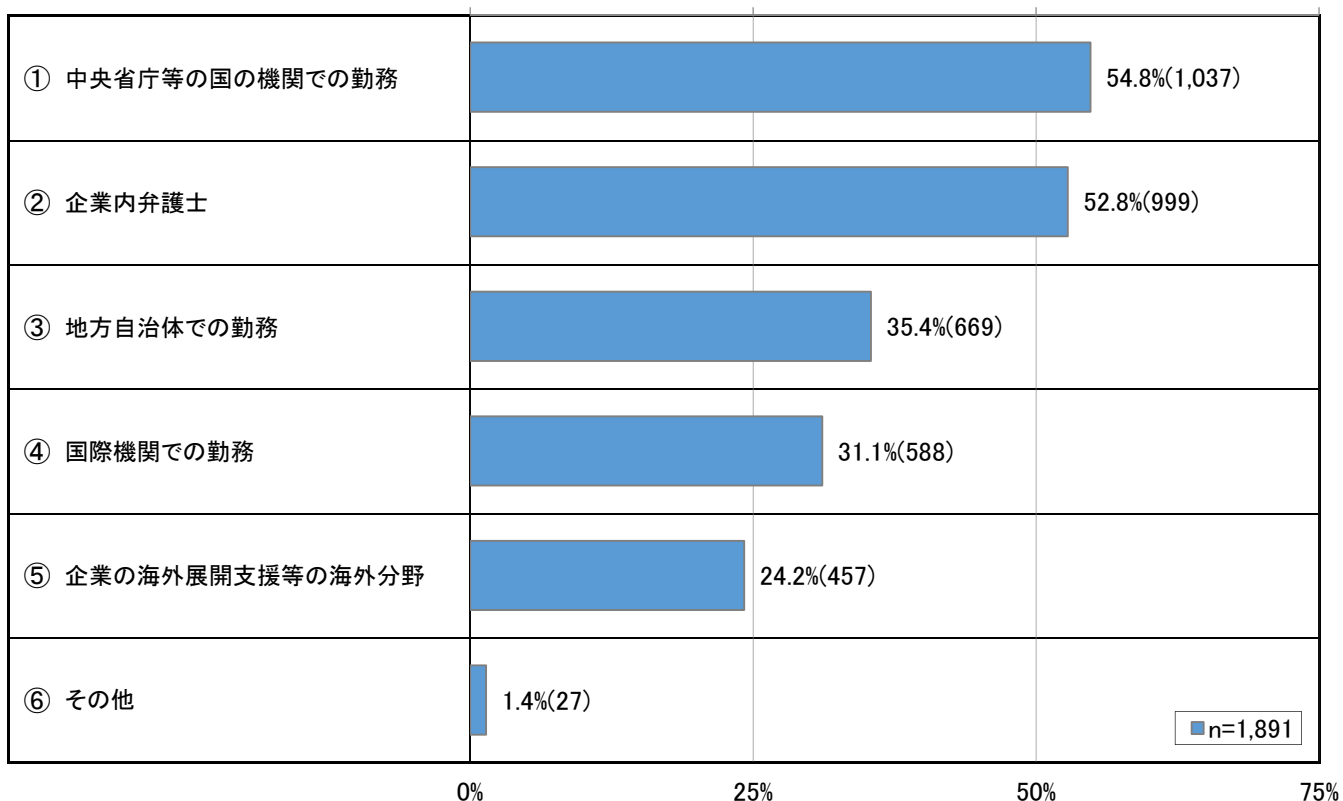


(3)法曹等の活動領域が拡大している分野のうち興味・関心がある分野(複数選択可)

ア.現在志望・選択肢の１つとして考えている学生

現在志望・選択肢の１つとしている学生が、法曹等の活動領域が拡大している分野のうち興味・関心がある分野は、「中央省庁等の国の機関での勤務」と「企業内弁護士」がそれぞれ 54.8%, 52.8%と過半数で高くなっている。

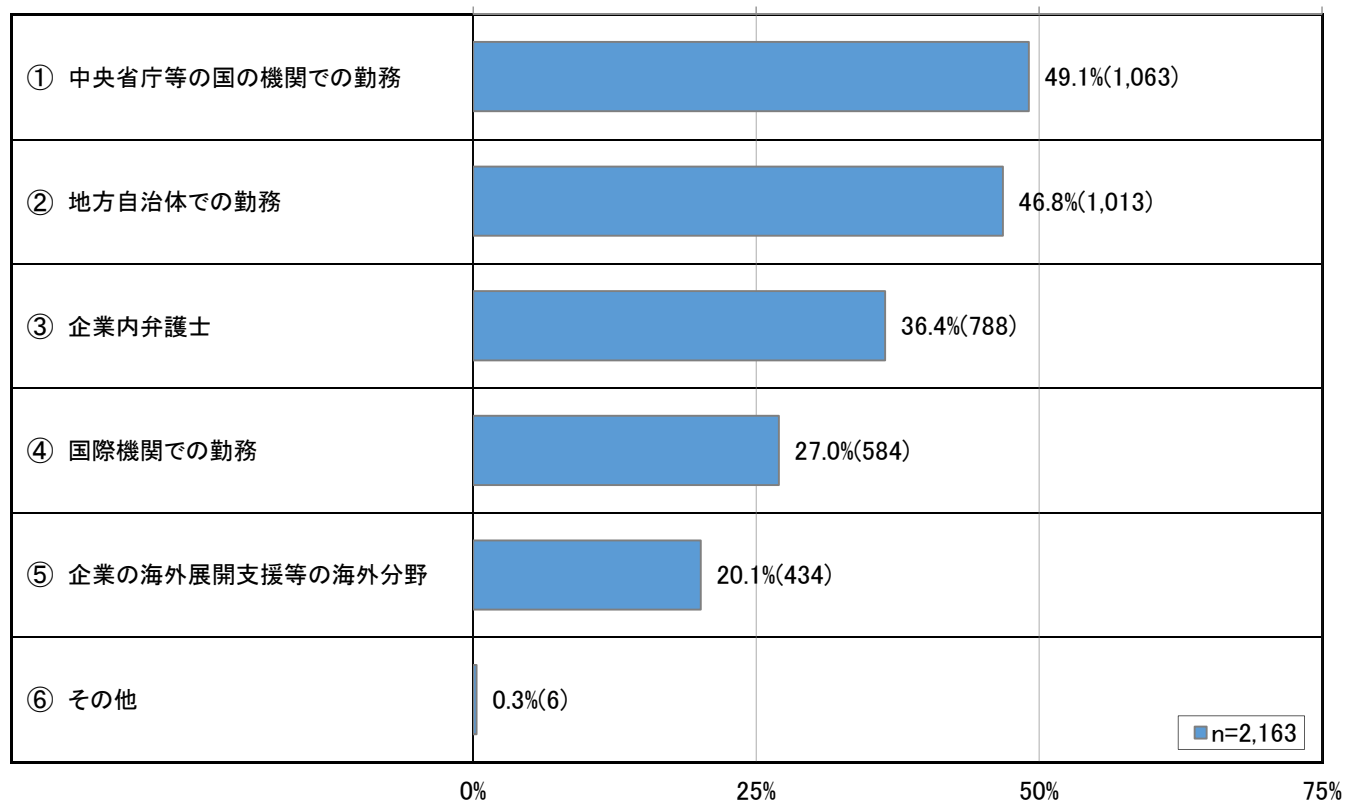
	①	②	③	④	⑤	⑥	
	中央省庁等の 国の機関での 勤務	企業内弁護士	地方自治体で の勤務	国際機関での 勤務	企業の海外展 開支援等の海 外分野	その他	回答者数
回答数(人)	1,037	999	669	588	457	27	1,891
割合(%)	54.8	52.8	35.4	31.1	24.2	1.4	100.0



イ.過去に志望・選択肢の1つとして考えていた学生

過去に志望・選択肢の1つとしていた学生では、「中央省庁等の国の機関での勤務」が49.1%で最も高く、次いで「地方自治体での勤務」が46.8%となっている。

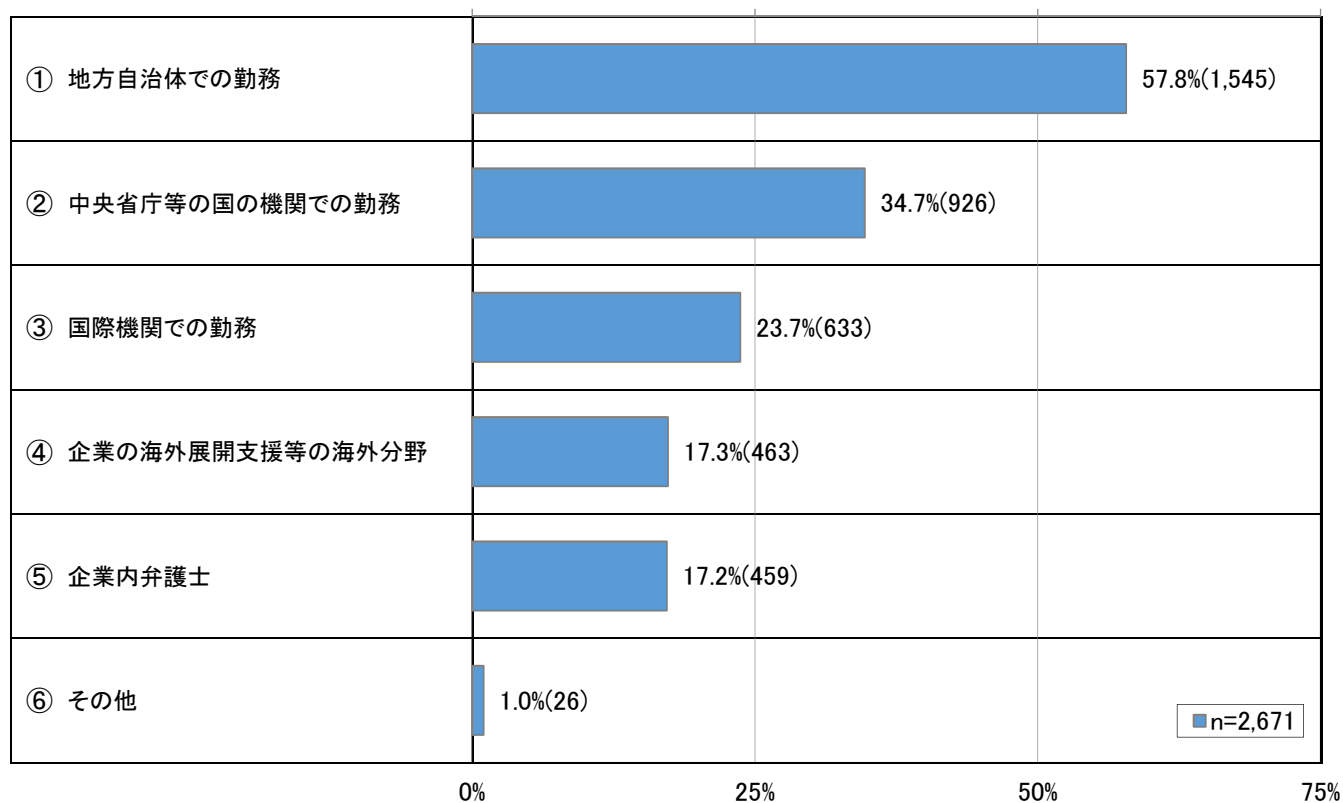
	①	②	③	④	⑤	⑥	
	中央省庁等の 国の機関での 勤務	地方自治体で の勤務	企業内弁護士	国際機関での 勤務	企業の海外展 開支援等の海 外分野	その他	回答者数
回答数(人)	1,063	1,013	788	584	434	6	2,163
割合(%)	49.1	46.8	36.4	27.0	20.1	0.3	100.0



ウ.法曹等を選択肢の1つとして考えたこともない学生

法曹等を選択肢の1つとして考えたこともない学生では、「地方自治体での勤務」が57.8%と6割近くなっている。次いで「中央省庁等の国の機関での勤務」が34.7%であるが1位との差が20ポイント以上と大きくなっている。

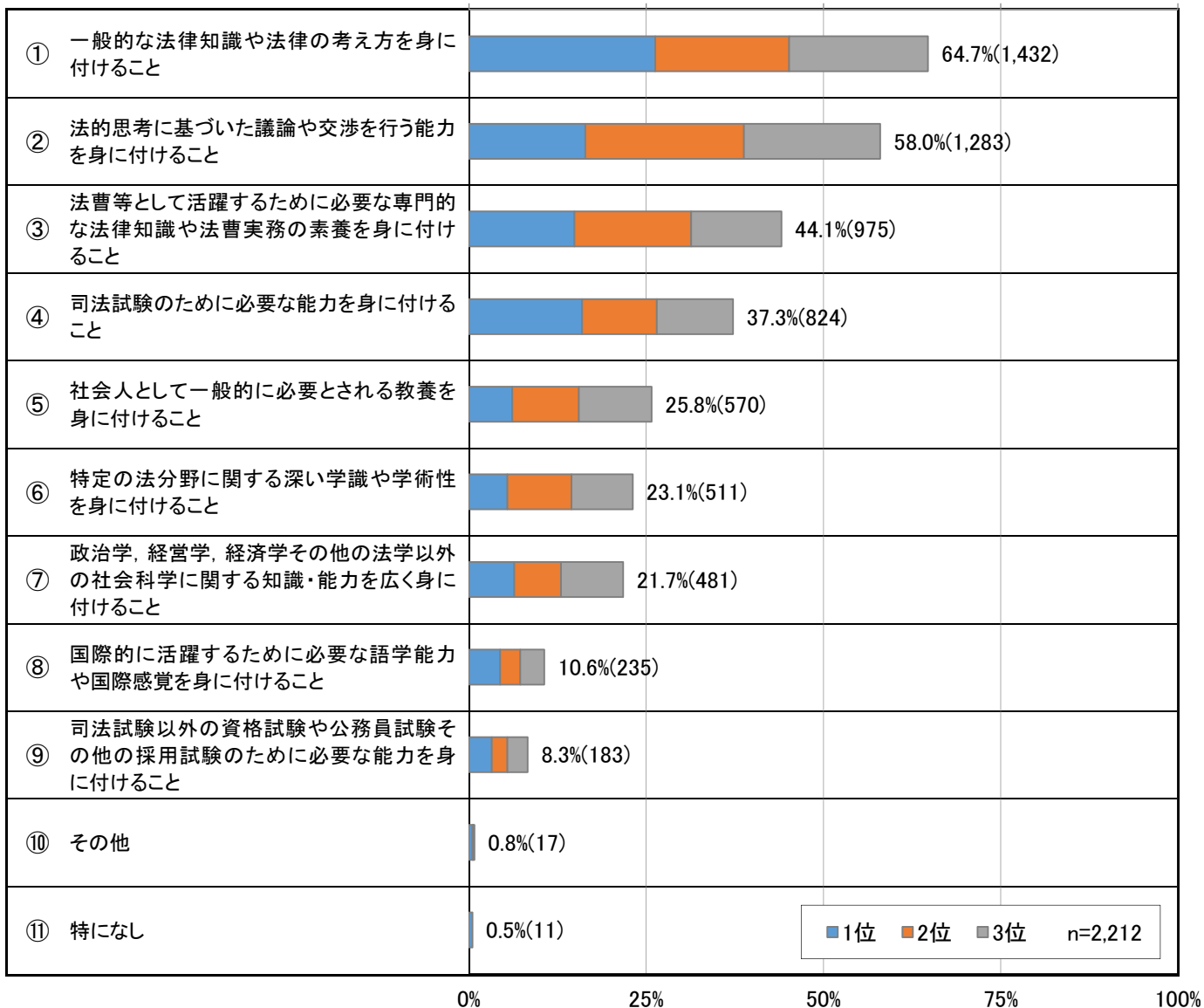
	①	②	③	④	⑤	⑥	
	地方自治体での勤務	中央省庁等の国の機関での勤務	国際機関での勤務	企業の海外展開支援等の海外分野	企業内弁護士	その他	回答者数
回答数(人)	1,545	926	633	463	459	26	2,671
割合(%)	57.8	34.7	23.7	17.3	17.2	1.0	100.0



6.法学部教育に期待すること(上位3つまで選択/現在志望・選択肢の1つとして考えている学生)

法曹等を現在志望・選択肢の1つとして考えている学生が、法学部教育に期待することは「一般的な法律知識や法律の考え方を身に付けること」が64.7%で最も高く、「法的思考に基づいた議論や交渉を行う能力を身に付けること」の58.0%が続いている。

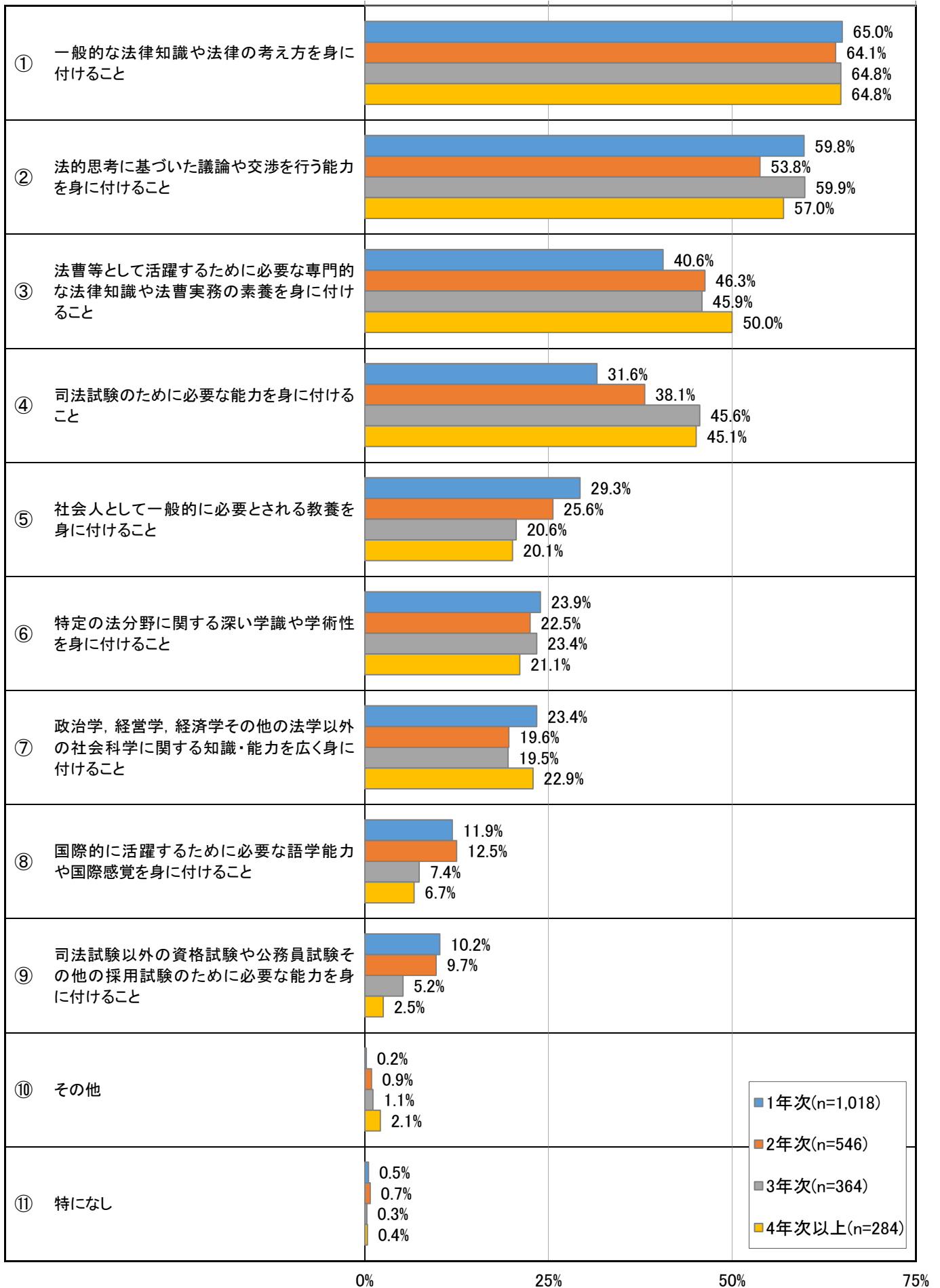
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	-	回答者数
	一般的な法律知識や法律の考え方を身に付けること	法的思考に基づいた議論や交渉を行う能力を身に付けること	法曹等として活躍するために必要な専門的な法律知識や法曹実務の素養を身に付けること	司法試験のために必要な能力を身に付けること	社会人として一般的に必要な教養を身に付けること	特定の法分野に関する深い学識や学術性を身に付けること	政治学、経営学、経済学その他の法学以外の社会科学に関する知識・能力を広く身に付けること	国際的に活躍するために必要な語学能力や国際感覚を身に付けること	司法試験以外の資格試験や公務員試験その他の採用試験のために必要な能力を身に付けること	その他	特になし	選択なし	
1位	581	363	329	353	135	120	141	97	71	11	11	0	2,212
2位	418	495	364	233	208	200	146	63	49	2	0	34	2,212
3位	433	425	282	238	227	191	194	75	63	4	0	80	2,212
合計(人)	1,432	1,283	975	824	570	511	481	235	183	17	11	114	2,212
割合(%)	64.7	58.0	44.1	37.3	25.8	23.1	21.7	10.6	8.3	0.8	0.5	-	100.0



(参考)学年別内訳【表】

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	-	回答者数
		一般的な法律知識や法律の考え方を身に付けること	法的思考に基づいた議論や交渉を行う能力を身に付けること	法曹等として活躍するために必要な専門的な法律知識や法曹実務の素養を身に付けること	司法試験のために必要な能力を身に付けること	社会人として一般的に必要な教養を身に付けること	特定の法分野に関する深い学識や学術性を身に付けること	政治学、経済学、その他の法学以外の社会科学に関する知識・能力を広く身に付けること	国際的に活躍するために必要な語学能力や国際感覚を身に付けること	司法試験以外の資格試験や公務員試験その他の採用試験のために必要な能力を身に付けること	その他	特になし	選択なし	
1位	全体	581	363	329	353	135	120	141	97	71	11	11	0	2,212
	1年次	247	181	143	137	73	56	73	61	41	1	5	0	1,018
	2年次	150	71	98	94	34	24	31	20	17	3	4	0	546
	3年次	109	64	39	71	21	17	19	10	10	3	1	0	364
	4年次以上	75	47	49	51	7	23	18	6	3	4	1	0	284
2位	全体	418	495	364	233	208	200	146	63	49	2	0	34	2,212
	1年次	207	218	157	84	107	97	73	32	30	0	0	13	1,018
	2年次	95	133	83	62	52	47	34	17	14	0	0	9	546
	3年次	64	78	71	46	29	35	23	7	4	0	0	7	364
	4年次以上	52	66	53	41	20	21	16	7	1	2	0	5	284
3位	全体	433	425	282	238	227	191	194	75	63	4	0	80	2,212
	1年次	208	210	113	101	118	90	92	28	33	1	0	24	1,018
	2年次	105	90	72	52	54	52	42	31	22	2	0	24	546
	3年次	63	76	57	49	25	33	29	10	5	1	0	16	364
	4年次以上	57	49	40	36	30	16	31	6	3	0	0	16	284
合計(上段・実数／下段・割合%)	全体	1,432	1,283	975	824	570	511	481	235	183	17	11	114	2,212
		64.7	58.0	44.1	37.3	25.8	23.1	21.7	10.6	8.3	0.8	0.5	-	100.0
	1年次	662	609	413	322	298	243	238	121	104	2	5	37	1,018
		65.0	59.8	40.6	31.6	29.3	23.9	23.4	11.9	10.2	0.2	0.5	-	100.0
	2年次	350	294	253	208	140	123	107	68	53	5	4	33	546
		64.1	53.8	46.3	38.1	25.6	22.5	19.6	12.5	9.7	0.9	0.7	-	100.0
	3年次	236	218	167	166	75	85	71	27	19	4	1	23	364
		64.8	59.9	45.9	45.6	20.6	23.4	19.5	7.4	5.2	1.1	0.3	-	100.0
	4年次以上	184	162	142	128	57	60	65	19	7	6	1	21	284
		64.8	57.0	50.0	45.1	20.1	21.1	22.9	6.7	2.5	2.1	0.4	-	100.0

(参考)学年別内訳【横棒グラフ/1位～3位の合計】

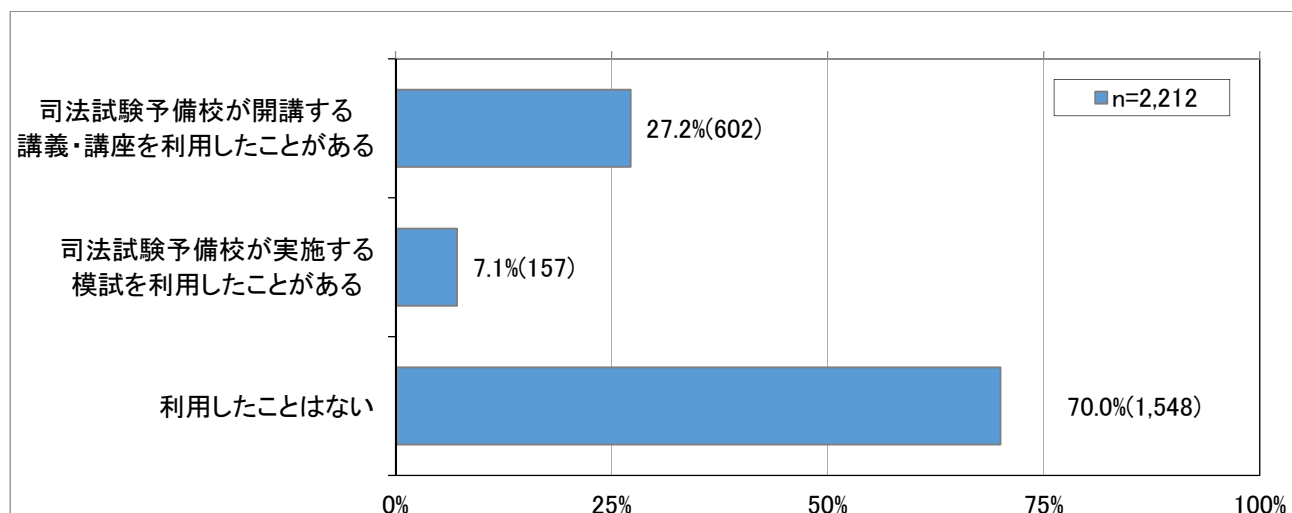


7.司法試験予備校の利用の有無(現在志望・選択肢の1つとして考えている学生/複数選択可)

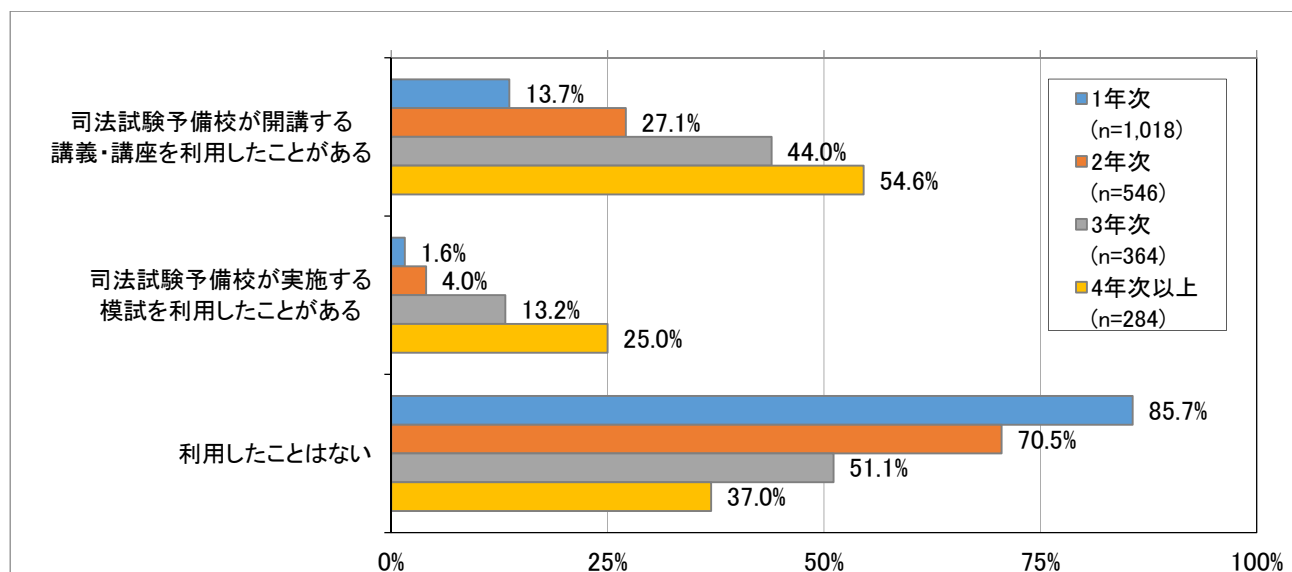
法曹等を現在志望・選択肢の1つとして考えている学生の司法試験予備校の利用の有無は「利用したことはない」が70.0%で最も高い。利用したことがある場合では「司法試験予備校が開講する講義・講座を利用したことがある」が27.2%となっている。

(上段:回答数・人/下段:割合・%)

	司法試験予備校が開講する講義・講座を利用したことがある	司法試験予備校が実施する模試を利用したことがある	利用したことはない	回答者数
1 年次	139 13.7	16 1.6	872 85.7	1,018 100.0
2 年次	148 27.1	22 4.0	385 70.5	546 100.0
3 年次	160 44.0	48 13.2	186 51.1	364 100.0
4 年次以上	155 54.6	71 25.0	105 37.0	284 100.0
全 体	602 27.2	157 7.1	1,548 70.0	2,212 100.0



(参考)学年別内訳【横棒グラフ】

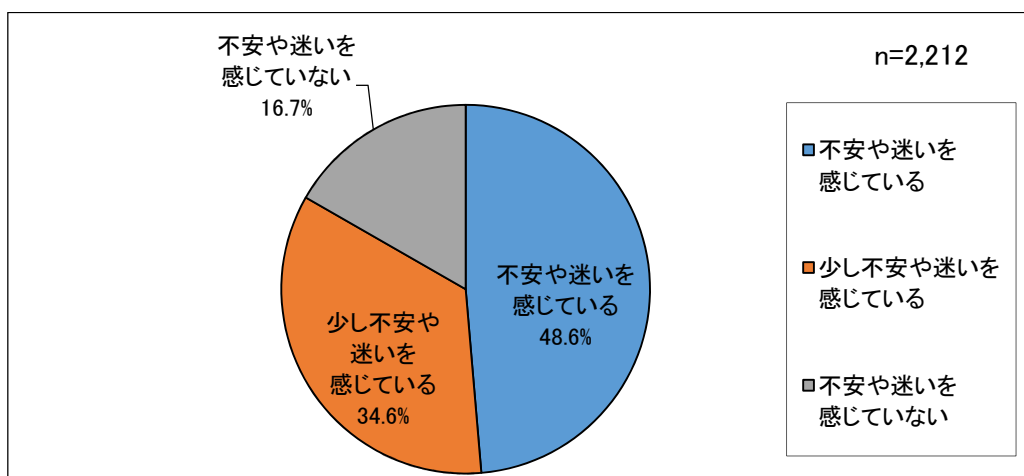


8.法曹等を志望するに当たっての不安や迷い，断念の理由等

(1)法曹等を志望するに当たっての不安や迷いについて(現在志望・選択肢の1つとして考えている学生)

法曹等を志望するに当たっての不安や迷いについては、「不安や迷いを感じている」は48.6%で半数近くなっている。これに「少し不安や迷いを感じている」の34.6%を加えると、8割以上が不安や迷いを感じている。「不安や迷いを感じていない」は16.7%にとどまっている。

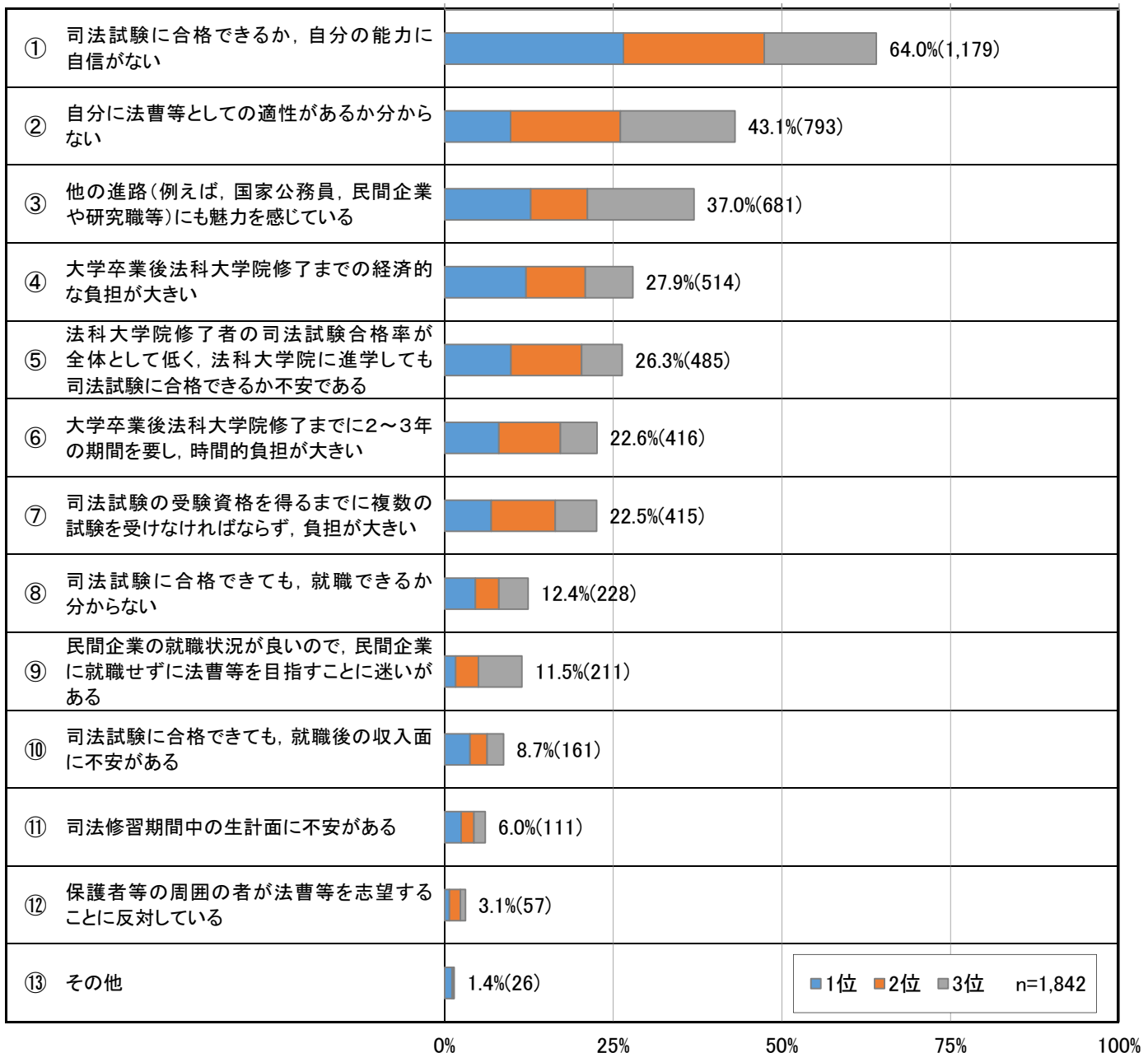
	不安や迷いを感じている	少し不安や迷いを感じている	不安や迷いを感じていない	回答者数
回答数(人)	1,076	766	370	2,212
割合(%)	48.6	34.6	16.7	100.0



(2)現在志望・選択肢の1つとして考えている学生の不安や迷い(上位3つまで選択)

現在志望・選択肢の1つとして考えている学生の不安や迷いは「司法試験に合格できるか、自分の能力に自信がない」が64.0%で最も高く6割を超えている。次いで「自分に法曹等としての適性があるか分からない」が43.1%となっている。

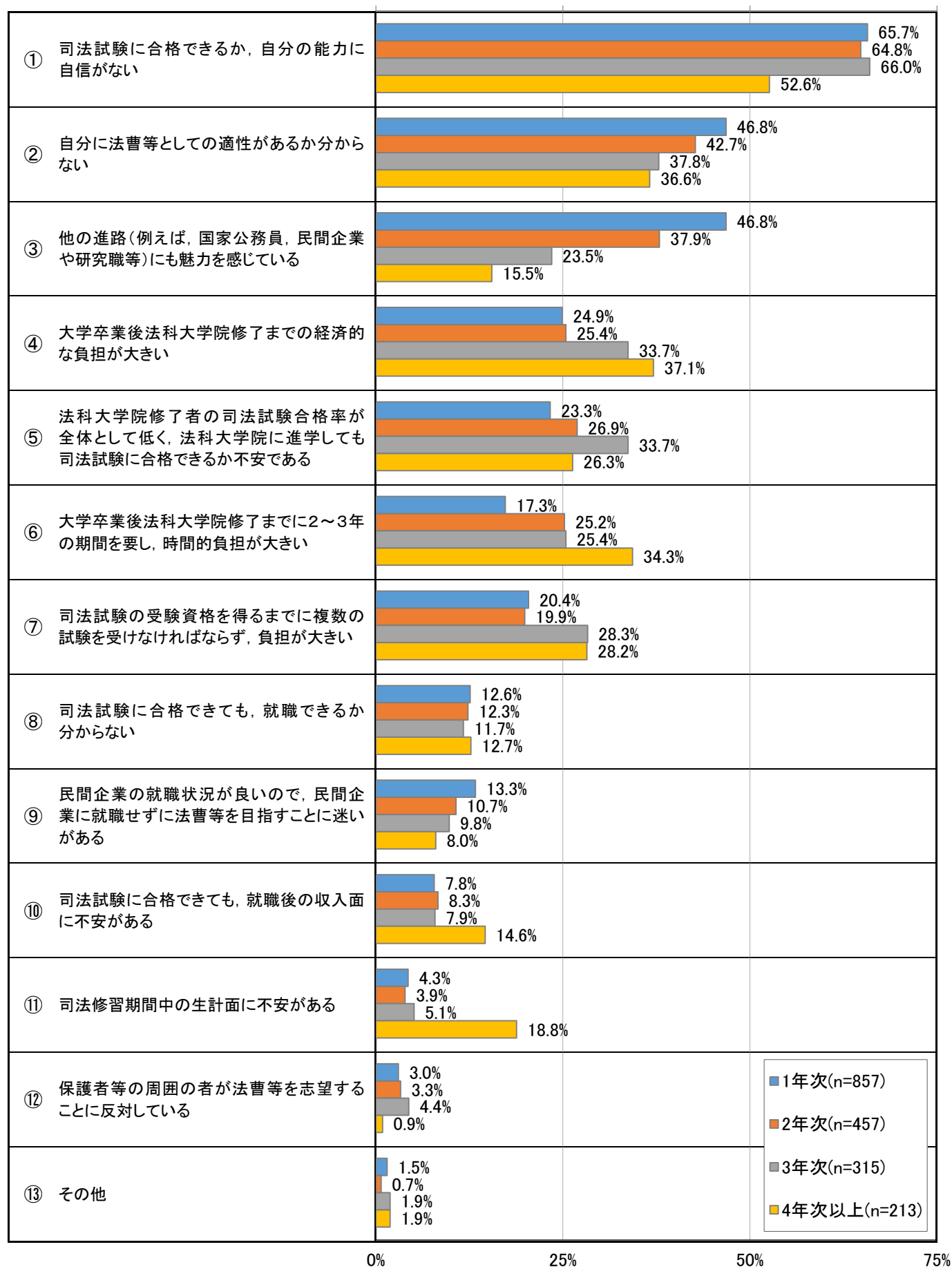
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	-	
	司法試験に合格できるか、自分の能力に自信がない	自分に法曹等としての適性があるか分からない	他の進路(例えば、国家公務員、民間企業や研究職等)にも魅力を感じている	大学卒業後法科大学院修了までの経済的な負担が大きい	法科大学院修了者の司法試験合格率が全体として低く、法科大学院に進学しても司法試験に合格できるか不安である	大学卒業後法科大学院修了までに2～3年の期間を要し、時間的負担が大きい	司法試験の受験資格を得るまでに複数の試験を受けなければならない、負担が大きい	司法試験に合格できても、就職できるか分からない	民間企業の就職状況が良いので、民間企業に就職せずに法曹等を目指すことに迷いがある	司法試験に合格できても、就職後の収入面に不安がある	司法修習期間中の生計面に不安がある	保護者等の周囲の者が法曹等を志望することに反対している	その他	選択なし	回答者数
1位	488	180	235	222	181	148	127	84	30	69	45	13	20	0	1,842
2位	385	300	155	162	193	168	175	64	62	47	35	30	4	62	1,842
3位	306	313	291	130	111	100	113	80	119	45	31	14	2	187	1,842
合計(人)	1,179	793	681	514	485	416	415	228	211	161	111	57	26	249	1,842
割合(%)	64.0	43.1	37.0	27.9	26.3	22.6	22.5	12.4	11.5	8.7	6.0	3.1	1.4	-	100.0



(参考)学年別内訳【表】

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	-	
		司法試験に合格できるか、自分の能力に自信がない	自分に法曹等としての適性があるか分からない	他の進路(例えば、国家公務員、民間企業や研究職等)にも魅力を感じている	大学卒業後法科大学院修了までの経済的な負担が大きい	法科大学院修了者の司法試験合格率が全体として低く、法科大学院に進学しても司法試験に合格できるか不安である	大学卒業後法科大学院修了までに2～3年の期間を要し、時間的負担が大きい	司法試験の受験資格を得るまでに複数の試験を受けなければならない、負担が大きい	司法試験に合格できても、就職できるか分からない	民間企業の就職状況が良いので、民間企業に就職せずに法曹等を目指すことに迷いがある	司法試験に合格できても、就職後の収入面に不安がある	司法修習期間中の生計面に不安がある	保護者等の周囲の者が法曹等を志望することに反対している	その他	選択なし	回答者数
1位	全体	488	180	235	222	181	148	127	84	30	69	45	13	20	0	1,842
	1年次	210	96	142	100	78	56	62	40	11	31	18	3	10	0	857
	2年次	139	35	65	46	43	39	28	24	11	12	10	3	2	0	457
	3年次	93	30	22	39	39	24	21	12	5	13	7	5	5	0	315
	4年次以上	46	19	6	37	21	29	16	8	3	13	10	2	3	0	213
2位	全体	385	300	155	162	193	168	175	64	62	47	35	30	4	62	1,842
	1年次	208	160	93	58	79	56	67	29	34	18	9	17	2	27	857
	2年次	82	84	43	37	47	46	40	11	18	14	5	7	1	22	457
	3年次	65	39	11	37	45	36	43	11	6	5	4	6	0	7	315
	4年次以上	30	17	8	30	22	30	25	13	4	10	17	0	1	6	213
3位	全体	306	313	291	130	111	100	113	80	119	45	31	14	2	187	1,842
	1年次	145	145	166	55	43	36	46	39	69	18	10	6	1	78	857
	2年次	75	76	65	33	33	30	23	21	20	12	3	5	0	61	457
	3年次	50	50	41	30	22	20	25	14	20	7	5	3	1	27	315
	4年次以上	36	42	19	12	13	14	19	6	10	8	13	0	0	21	213
合計(上段・実数／下段・割合(%))	全体	1,179	793	681	514	485	416	415	228	211	161	111	57	26	249	1,842
		64.0	43.1	37.0	27.9	26.3	22.6	22.5	12.4	11.5	8.7	6.0	3.1	1.4	-	100.0
	1年次	563	401	401	213	200	148	175	108	114	67	37	26	13	105	857
		65.7	46.8	46.8	24.9	23.3	17.3	20.4	12.6	13.3	7.8	4.3	3.0	1.5	-	100.0
	2年次	296	195	173	116	123	115	91	56	49	38	18	15	3	83	457
		64.8	42.7	37.9	25.4	26.9	25.2	19.9	12.3	10.7	8.3	3.9	3.3	0.7	-	100.0
	3年次	208	119	74	106	106	80	89	37	31	25	16	14	6	34	315
		66.0	37.8	23.5	33.7	33.7	25.4	28.3	11.7	9.8	7.9	5.1	4.4	1.9	-	100.0
	4年次以上	112	78	33	79	56	73	60	27	17	31	40	2	4	27	213
		52.6	36.6	15.5	37.1	26.3	34.3	28.2	12.7	8.0	14.6	18.8	0.9	1.9	-	100.0

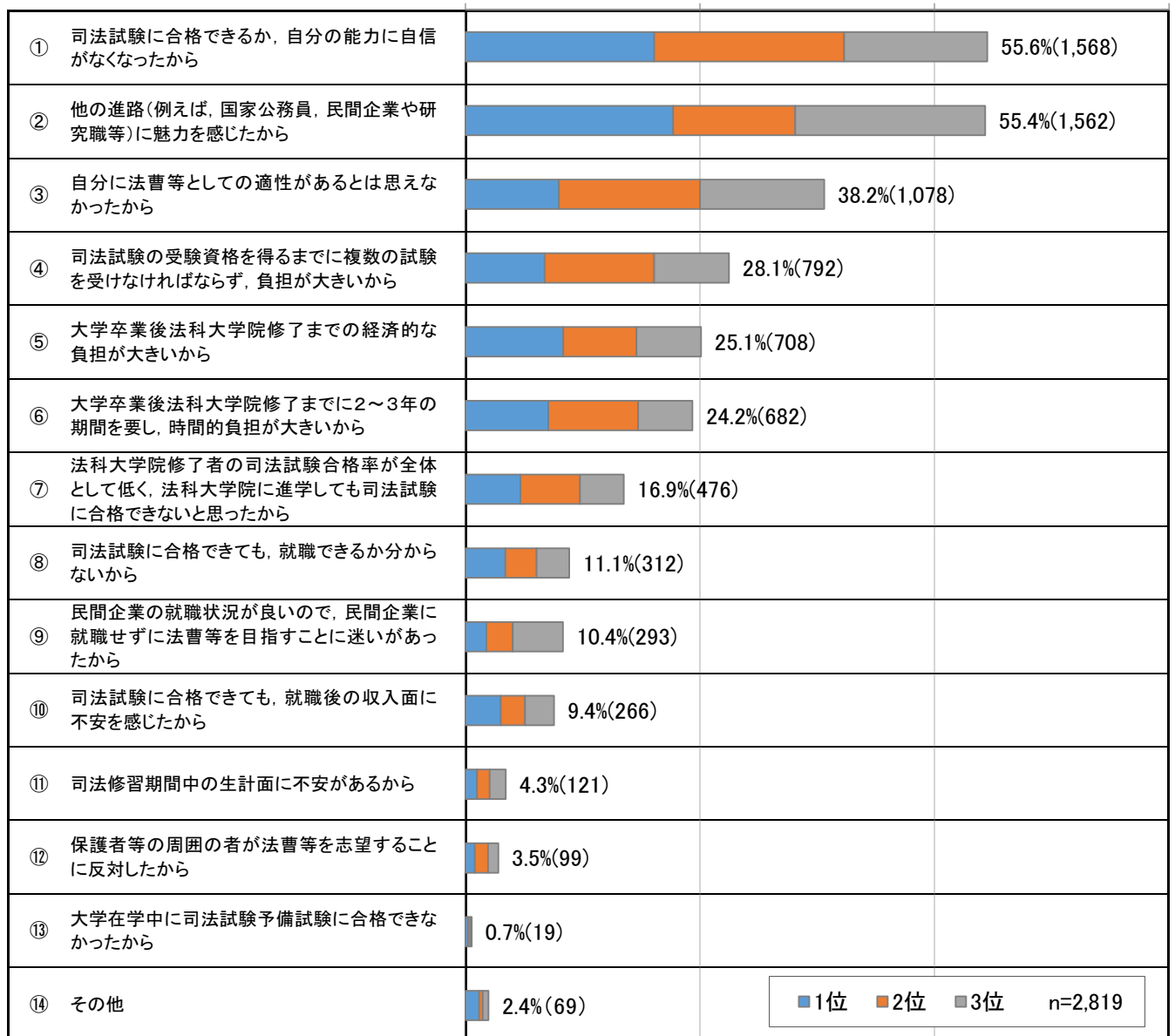
(参考)学年別内訳【横棒グラフ/1位～3位の合計】



(3)過去に志望・選択肢の1つとして考えていた学生の不安や迷い(上位3つまで選択)

過去に志望・選択肢の1つとして考えていた学生では「司法試験に合格できるか、自分の能力に自信がなくなったから」と「他の進路に魅力を感じたから」がそれぞれ 55.6%, 55.4%とほぼ同じ割合で高くなっている。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	-	
	司法試験に合格できるか、自分の能力に自信がなくなったから	他の進路(例えば、国家公務員、民間企業や研究職等)に魅力を感じたから	自分に法曹等としての適性があるとは思えなかったから	司法試験の受験資格を得るまでに複数の試験を受けなければならない、負担が大きいから	大学卒業後法科大学院修了までの経済的な負担が大きいから	大学卒業後法科大学院修了までに2～3年の期間を要し、時間的負担が大きいから	法科大学院修了者の司法試験合格率が全体として低く、法科大学院に進学しても司法試験に合格できないと思ったから	司法試験に合格できても、就職できるか分からないから	民間企業の就職状況が良いので、民間企業に就職せずに法曹等を目指すことに迷いがあったから	司法試験に合格できても、就職後の収入面に不安を感じたから	司法修習期間中の生計面に不安があるから	保護者等の周囲の者が法曹等を志望することに反対したから	大学在学中に司法試験予備試験に合格できなかったから	その他	選択なし	回答者数
1 位	567	624	281	238	294	249	165	120	63	106	35	28	8	41	0	2,819
2 位	571	367	424	329	220	270	179	94	79	73	38	40	7	11	117	2,819
3 位	430	571	373	225	194	163	132	98	151	87	48	31	4	17	295	2,819
合計(人)	1,568	1,562	1,078	792	708	682	476	312	293	266	121	99	19	69	412	2,819
割合(%)	55.6	55.4	38.2	28.1	25.1	24.2	16.9	11.1	10.4	9.4	4.3	3.5	0.7	2.4	-	100.0



0%

25%

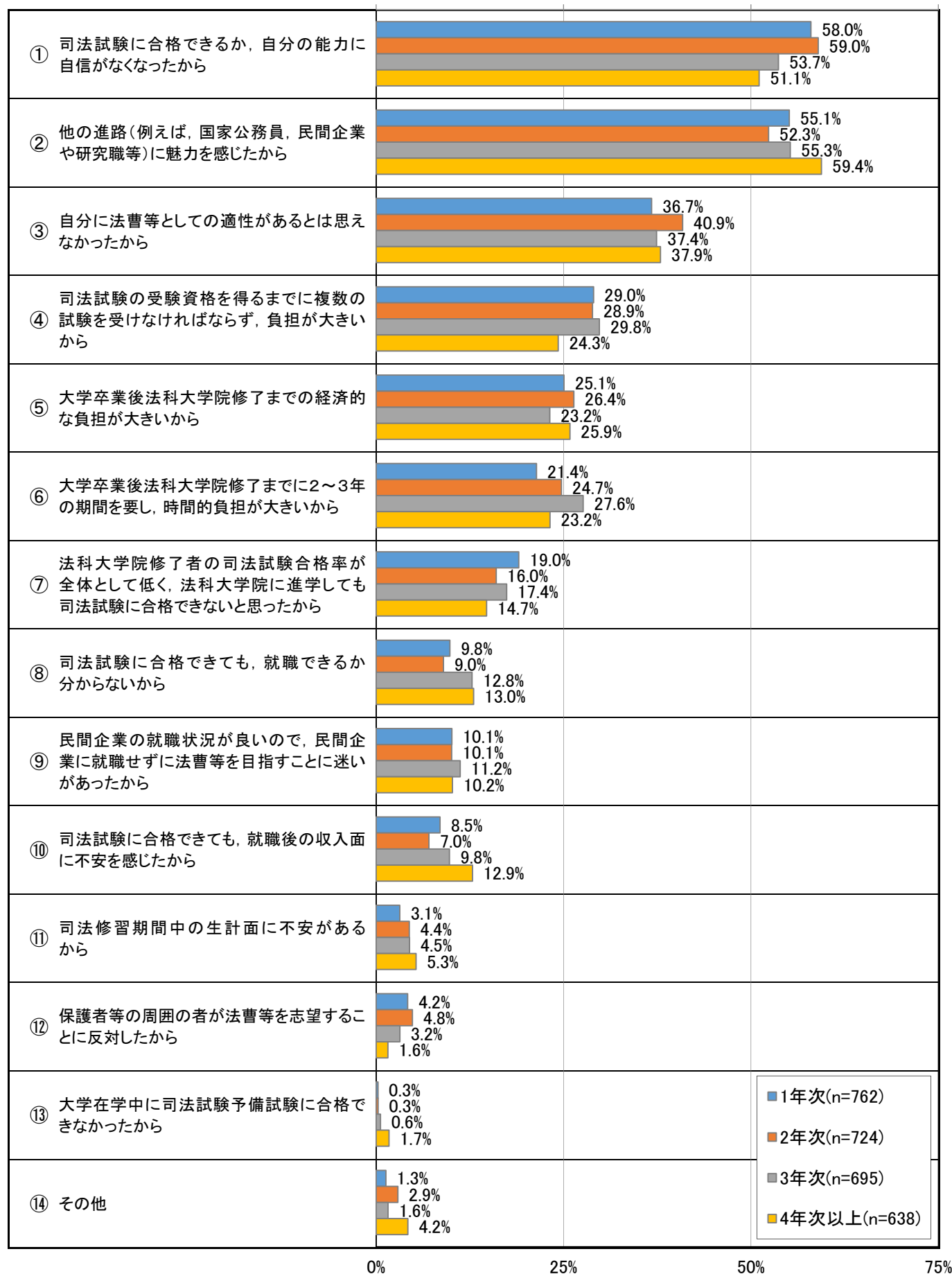
50%

75%

(参考)学年別内訳【表】

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	-	
		司法試験に合格できるか、自分の能力に自信がなかったから	他の進路(例えば、国家公務員、民間企業や研究職等)に魅力を感じたから	自分に法曹等としての適性があるとは思えなかったから	司法試験の受験資格を得るまでに複数の試験を受けなければならず、負担が大きいため	大学卒業後法科大学院修了までの経済的な負担が大きいため	大学卒業後法科大学院修了までに2～3年の期間を要し、時間的負担が大きいため	法科大学院修了者の司法試験合格率が全体として低く、法科大学院に進学しても司法試験に合格できないと思ったから	司法試験に合格できても、就職できないから	民間企業の就職状況が良いので、民間企業に就職せずに法曹等を目指すことに迷ったから	司法試験に合格できても、就職後の収入面に不安を感じたから	司法修習期間中の生計面に不安があるから	保護者等の周囲の者が法曹等を志望することに反対したから	大学在学中に司法試験予備試験に合格できなかったから	その他	選択なし	回答者数
1位	全体	567	624	281	238	294	249	165	120	63	106	35	28	8	41	0	2,819
	1年次	149	179	77	67	81	55	55	31	20	26	8	9	1	4	0	762
	2年次	160	146	64	62	78	72	47	27	17	18	9	10	1	13	0	724
	3年次	140	143	68	61	67	77	39	36	14	27	8	7	0	8	0	695
	4年次以上	118	156	72	48	68	45	24	26	12	35	10	2	6	16	0	638
2位	全体	571	367	424	329	220	270	179	94	79	73	38	40	7	11	117	2,819
	1年次	163	97	102	92	59	61	53	26	18	20	9	14	1	1	46	762
	2年次	151	89	123	82	61	70	42	18	19	15	10	13	1	2	28	724
	3年次	137	93	107	81	50	71	43	26	22	21	10	9	2	1	22	695
	4年次以上	120	88	92	74	50	68	41	24	20	17	9	4	3	7	21	638
3位	全体	430	571	373	225	194	163	132	98	151	87	48	31	4	17	295	2,819
	1年次	130	144	101	62	51	47	37	18	39	19	7	9	0	5	93	762
	2年次	116	144	109	65	52	37	27	20	37	18	13	12	0	6	68	724
	3年次	96	148	85	65	44	44	39	27	42	20	13	6	2	2	62	695
	4年次以上	88	135	78	33	47	35	29	33	33	30	15	4	2	4	72	638
合計(上段・実数／下段・割合(%))	全体	1568	1562	1078	792	708	682	476	312	293	266	121	99	19	69	412	2,819
		55.6	55.4	38.2	28.1	25.1	24.2	16.9	11.1	10.4	9.4	4.3	3.5	0.7	2.4	-	100.0
	1年次	442	420	280	221	191	163	145	75	77	65	24	32	2	10	139	762
		58.0	55.1	36.7	29.0	25.1	21.4	19.0	9.8	10.1	8.5	3.1	4.2	0.3	1.3	-	100.0
	2年次	427	379	296	209	191	179	116	65	73	51	32	35	2	21	96	724
		59.0	52.3	40.9	28.9	26.4	24.7	16.0	9.0	10.1	7.0	4.4	4.8	0.3	2.9	-	100.0
	3年次	373	384	260	207	161	192	121	89	78	68	31	22	4	11	84	695
		53.7	55.3	37.4	29.8	23.2	27.6	17.4	12.8	11.2	9.8	4.5	3.2	0.6	1.6	-	100.0
	4年次以上	326	379	242	155	165	148	94	83	65	82	34	10	11	27	93	638
		51.1	59.4	37.9	24.3	25.9	23.2	14.7	13.0	10.2	12.9	5.3	1.6	1.7	4.2	-	100.0

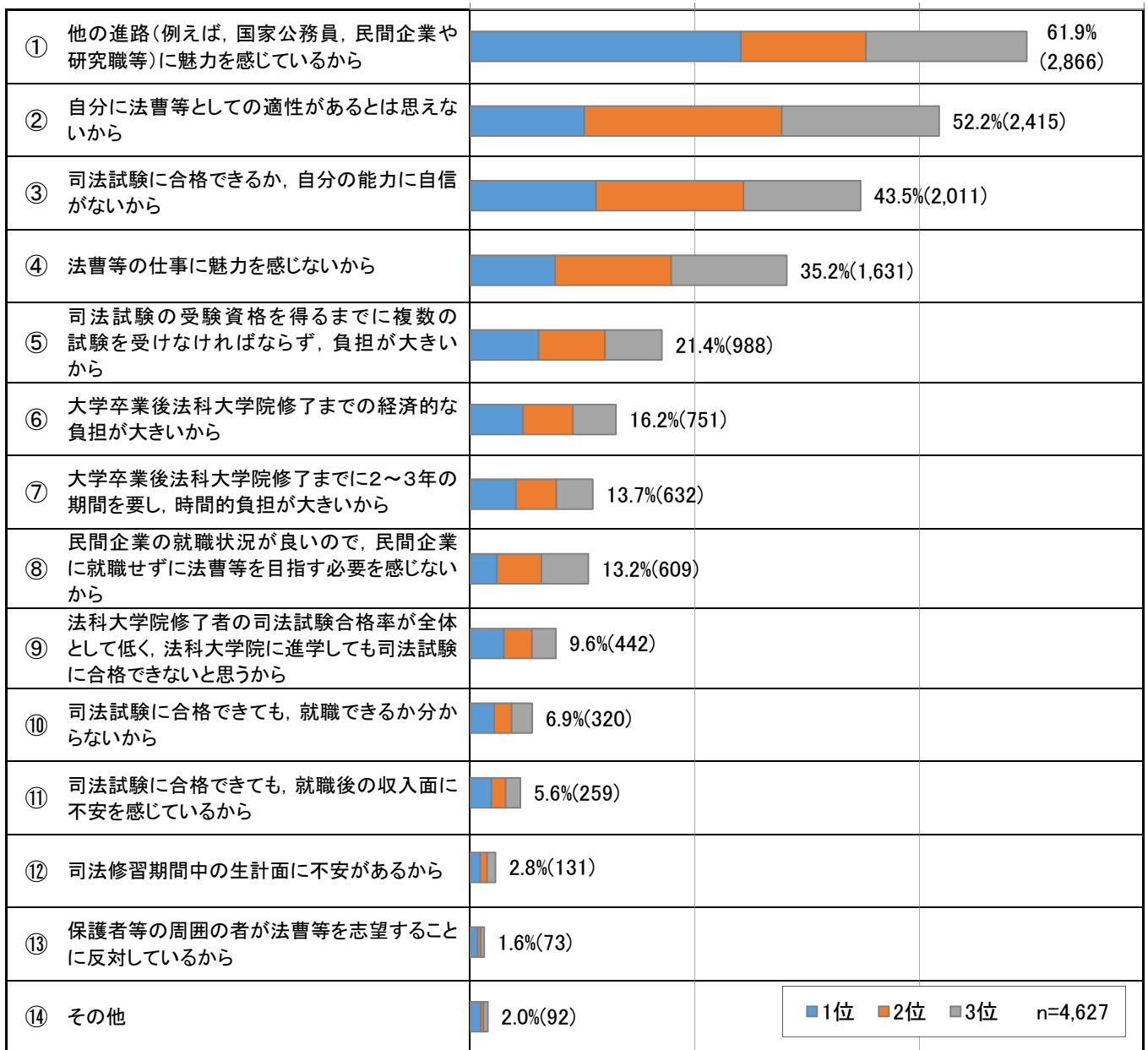
(参考)学年別内訳【横棒グラフ/1位～3位の合計】



(4)法曹等を選択肢の1つとして考えたこともない学生の法曹等を志望しない理由(上位3つまで選択)

法曹等を選択肢の1つとして考えたこともない学生が法曹等を志望しない理由は、「他の進路に魅力を感じているから」が61.9%で最も高くなっている。次いで「自分に法曹等としての適性があるとは思えないから」が52.2%で高い。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	-	
	他の進路 (例えば、 国家公務員、民間 企業や研究職等) に魅力を感じて いるから	自分に法 曹等とし ての適性 がある とは思え ないから	司法試験 に合格で きるか、 自分の能 力に自信 がないか ら	法曹等の 仕事に魅 れを感じ ないから	司法試験 の受験資 格を得る までに複 数の試験 を受けな ければな らず、負 担が大き いから	大学卒業 後法科大 学院修了 までの経 済的な負 担が大き いから	大学卒業 後法科大 学院修了 までに2 ～3年の 期間を要 し、時間 的負担が 大きいから	民間企業 の就職状 況が良い ので、民 間企業に 就職せず に法曹等 を目指す 必要を感じ ないから	法科大学 院修了者 の司法試 験合格率 が全体と して低く、 法科大学 院に進学 しても司法 試験に合 格できな いと思う から	司法試験 に合格で きても、 就職でき るか分か らないから	司法試験 に合格で きても、 就職後の 収入面に 不安を感じ ているから	司法修習 期間中の 生計面に 不安があ るから	保護者等 の周囲の 者が法曹 等を志望 することに 反対してい るから	その他	選択なし	回答者数
1 位	1,395	588	648	438	353	273	236	139	174	125	110	53	39	56	0	4,627
2 位	643	1,017	760	598	342	257	208	229	145	89	73	35	16	14	201	4,627
3 位	828	810	603	595	293	221	188	241	123	106	76	43	18	22	460	4,627
合計(人)	2,866	2,415	2,011	1,631	988	751	632	609	442	320	259	131	73	92	661	4,627
割合(%)	61.9	52.2	43.5	35.2	21.4	16.2	13.7	13.2	9.6	6.9	5.6	2.8	1.6	2.0	-	100.0



0%

25%

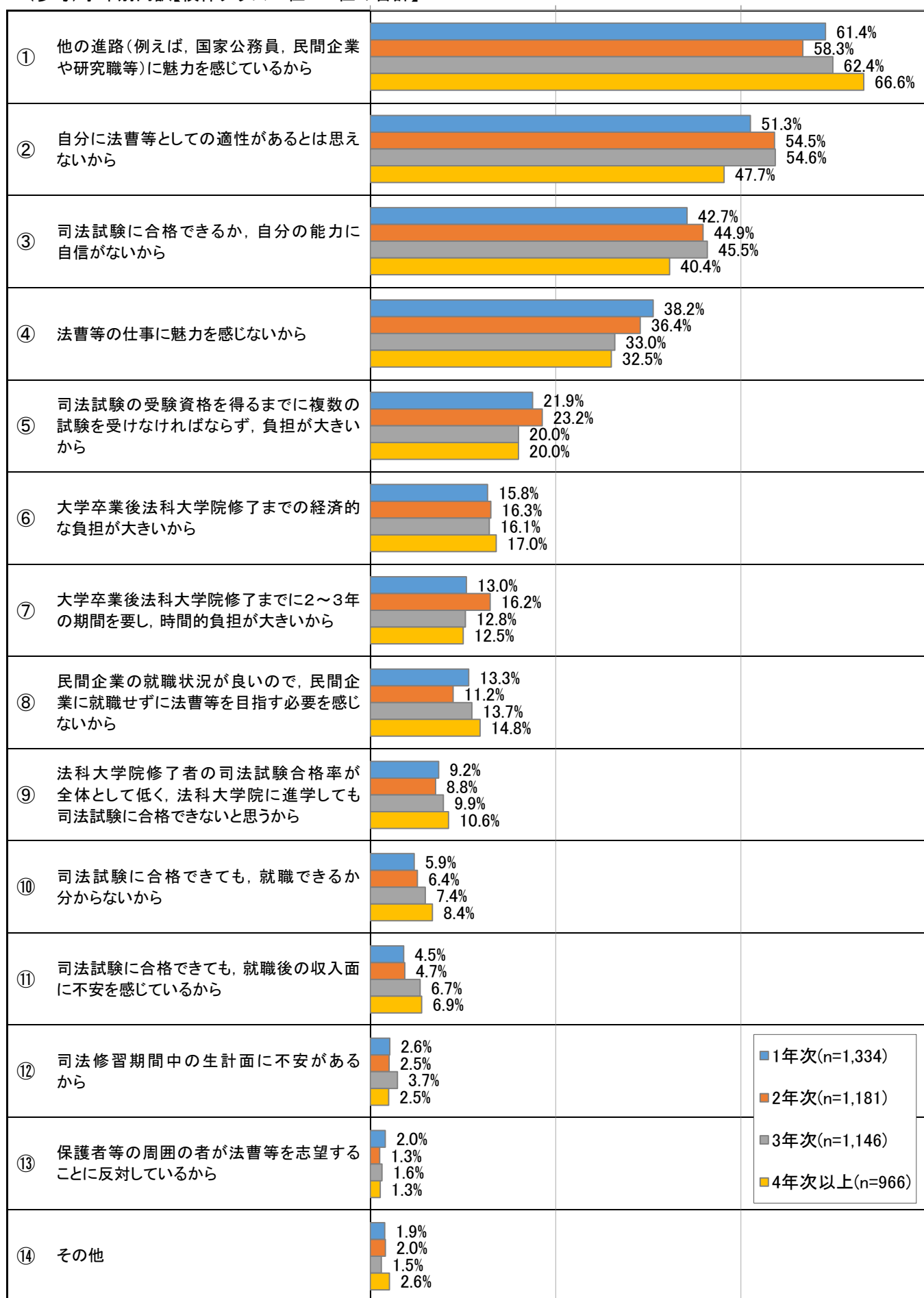
50%

75%

(参考) 学年別内訳【表】

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	-	
		他の進路(例えば、国家公務員、民間企業や研究職等)に魅力を感じているから	自分に法曹としての適性があるとは思えないから	司法試験に合格できるか、自分の能力に自信がないから	法曹等の仕事に魅力を感じないから	司法試験の受験資格を得るまでに複数の試験を受けなければならず、負担が大きいか	大学卒業後法科大学院修了までの経済的な負担が大きいか	大学卒業後法科大学院修了までに2～3年の期間を要し、時間的負担が大きいか	民間企業の就職状況が良いので、民間企業に就職せず、法曹等を目指す必要を感じないから	法科大学院修了者の司法試験合格率が全体として低く、法科大学院に進学しても司法試験に合格できないと思うから	司法試験に合格できても、就職できるか分からないから	司法試験に合格できても、就職後の収入面に不安を感じているから	司法修習期間中の生計面に不安があるから	保護者等の周囲の者が法曹等を志望することに反対しているから	その他	選択なし	回答者数
1位	全体	1,395	588	648	438	353	273	236	139	174	125	110	53	39	56	0	4,627
	1年次	402	157	187	138	105	72	79	41	57	32	24	10	14	16	0	1,334
	2年次	322	162	181	117	100	75	72	27	39	25	27	13	7	14	0	1,181
	3年次	341	151	161	99	84	65	45	41	47	36	35	20	10	11	0	1,146
	4年次以上	330	118	119	84	64	61	40	30	31	32	24	10	8	15	0	966
2位	全体	643	1017	760	598	342	257	208	229	145	89	73	35	16	14	201	4,627
	1年次	187	283	211	191	114	73	46	65	38	16	20	12	6	4	68	1,334
	2年次	161	279	181	155	92	65	59	54	34	20	15	10	4	4	48	1,181
	3年次	151	284	200	130	69	61	61	53	37	30	23	8	4	1	34	1,146
	4年次以上	144	171	168	122	67	58	42	57	36	23	15	5	2	5	51	966
3位	全体	828	810	603	595	293	221	188	241	123	106	76	43	18	22	460	4,627
	1年次	230	244	172	180	73	66	48	71	28	31	16	13	7	6	149	1,334
	2年次	206	203	168	158	82	52	60	51	31	30	13	7	4	6	110	1,181
	3年次	223	191	160	149	76	58	41	63	29	19	19	14	4	5	95	1,146
	4年次以上	169	172	103	108	62	45	39	56	35	26	28	9	3	5	106	966
合計(上段・実数／下段・割合)	全体	2,866	2,415	2,011	1,631	988	751	632	609	442	320	259	131	73	92	661	4,627
		61.9	52.2	43.5	35.2	21.4	16.2	13.7	13.2	9.6	6.9	5.6	2.8	1.6	2.0	-	100.0
	1年次	819	684	570	509	292	211	173	177	123	79	60	35	27	26	217	1,334
		61.4	51.3	42.7	38.2	21.9	15.8	13.0	13.3	9.2	5.9	4.5	2.6	2.0	1.9	-	100.0
	2年次	689	644	530	430	274	192	191	132	104	75	55	30	15	24	158	1,181
		58.3	54.5	44.9	36.4	23.2	16.3	16.2	11.2	8.8	6.4	4.7	2.5	1.3	2.0	-	100.0
	3年次	715	626	521	378	229	184	147	157	113	85	77	42	18	17	129	1,146
		62.4	54.6	45.5	33.0	20.0	16.1	12.8	13.7	9.9	7.4	6.7	3.7	1.6	1.5	-	100.0
	4年次以上	643	461	390	314	193	164	121	143	102	81	67	24	13	25	157	966
		66.6	47.7	40.4	32.5	20.0	17.0	12.5	14.8	10.6	8.4	6.9	2.5	1.3	2.6	-	100.0

(参考)学年別内訳【横棒グラフ/1位～3位の合計】



0%

25%

50%

75%

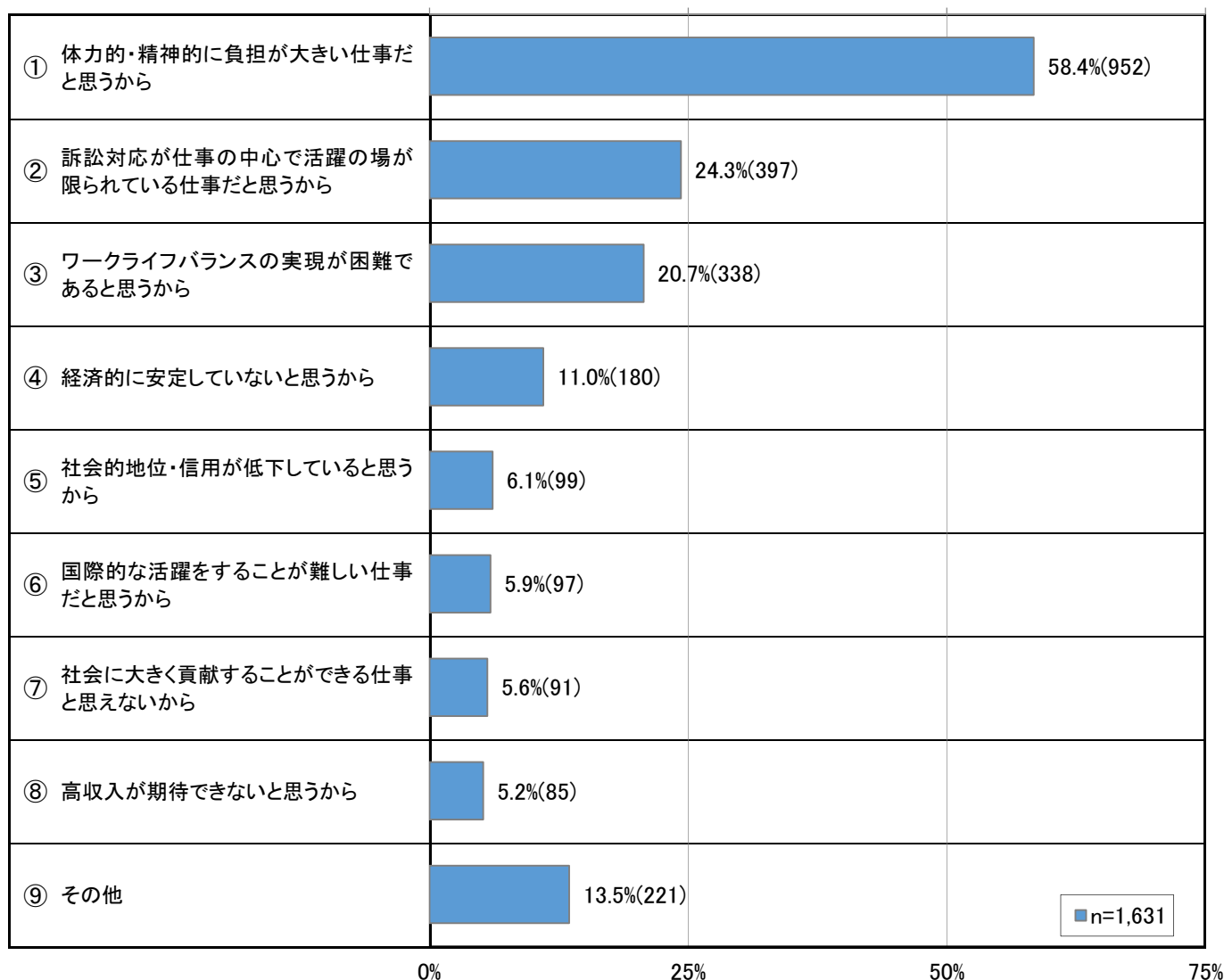
(5)法曹等の仕事に魅力を感じない理由について

(「法曹等を選択肢の1つとして考えていたこともない」かつ法曹等を志望しない理由として「法曹等の仕事に魅力を感じないから」と回答した学生/複数選択可)

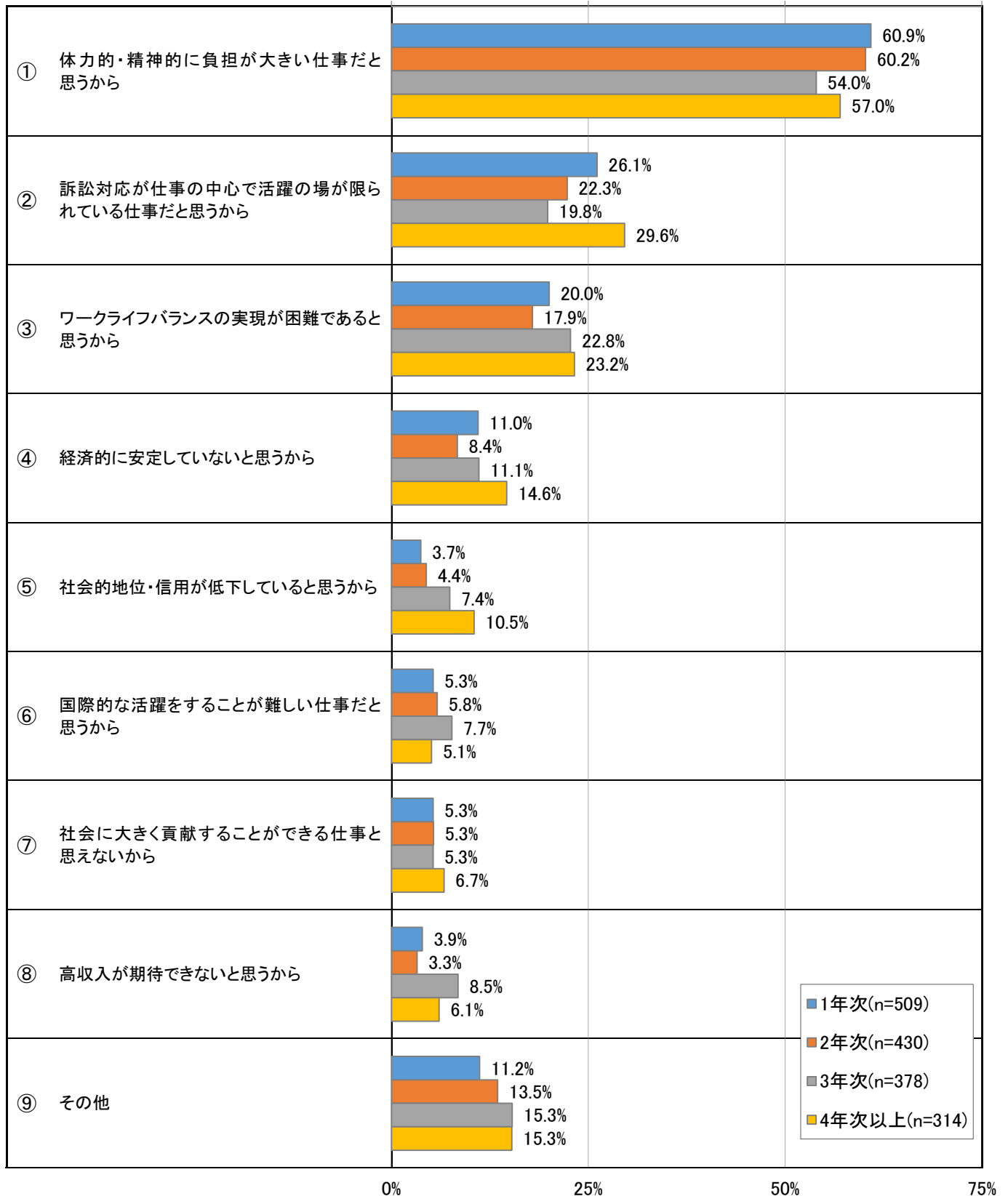
法曹等の仕事に魅力を感じない理由については、「体力的・精神的に負担が大きい仕事だと思うから」が58.4%で最も高く、6割近くになっている。2番目は「訴訟対応が仕事の中心で活躍の場が限られている仕事だと思うから」の24.3%であるが、その差は30ポイント以上と大きく、体力的・精神的な負担が魅力を感じない理由として大きくなっている。

(上段:回答数・人/下段:割合・%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
	体力的・精神的に負担が大きい仕事だと思うから	訴訟対応が仕事の中心で活躍の場が限られている仕事だと思うから	ワークライフバランスの実現が困難であると思うから	経済的に安定していないと思うから	社会的地位・信用が低下していると思うから	国際的な活躍をすることが難しい仕事だと思うから	社会に大きく貢献することができる仕事と思えないから	高収入が期待できないと思うから	その他	回答者数
1年次	310 60.9	133 26.1	102 20.0	56 11.0	19 3.7	27 5.3	27 5.3	20 3.9	57 11.2	509 100.0
2年次	259 60.2	96 22.3	77 17.9	36 8.4	19 4.4	25 5.8	23 5.3	14 3.3	58 13.5	430 100.0
3年次	204 54.0	75 19.8	86 22.8	42 11.1	28 7.4	29 7.7	20 5.3	32 8.5	58 15.3	378 100.0
4年次以上	179 57.0	93 29.6	73 23.2	46 14.6	33 10.5	16 5.1	21 6.7	19 6.1	48 15.3	314 100.0
全 体	952 58.4	397 24.3	338 20.7	180 11.0	99 6.1	97 5.9	91 5.6	85 5.2	221 13.5	1,631 100.0



(参考) 学年別内訳【横棒グラフ】

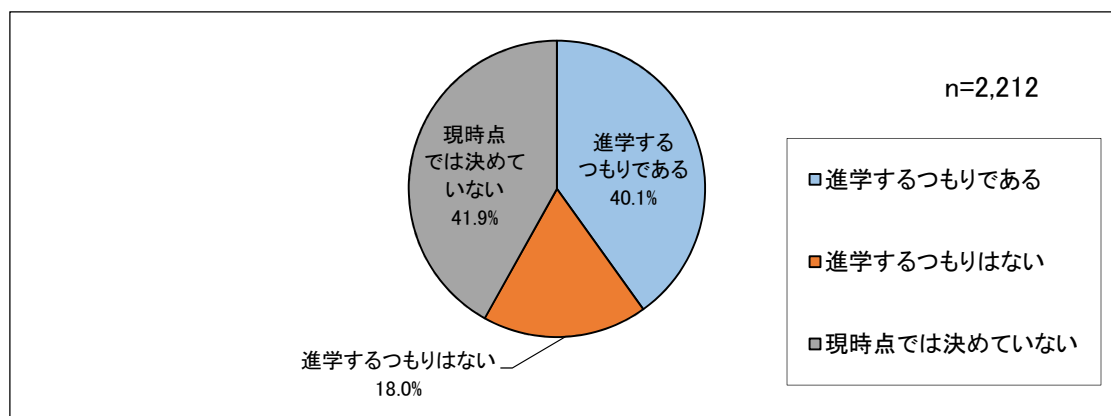


9.法科大学院への進学, 大学在学中の予備試験の受験
(現在志望・選択肢の1つとして考えている学生のみ回答)

(1)法科大学院への進学予定

法科大学院への進学予定については、「進学するつもりである」が40.1%、「現時点では決めていない」が41.9%でほぼ同じ割合となっている。「進学するつもりはない」は18.0%と2割以下となっている。

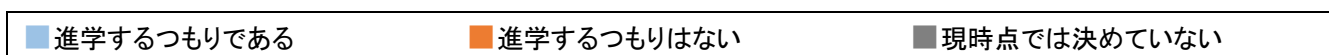
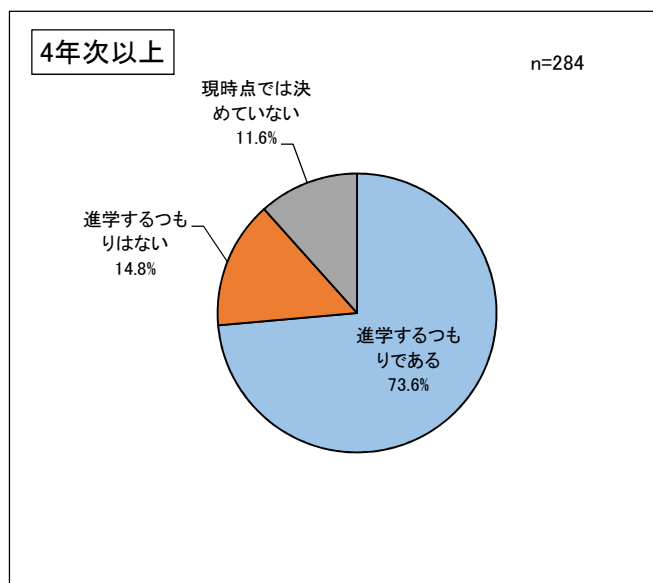
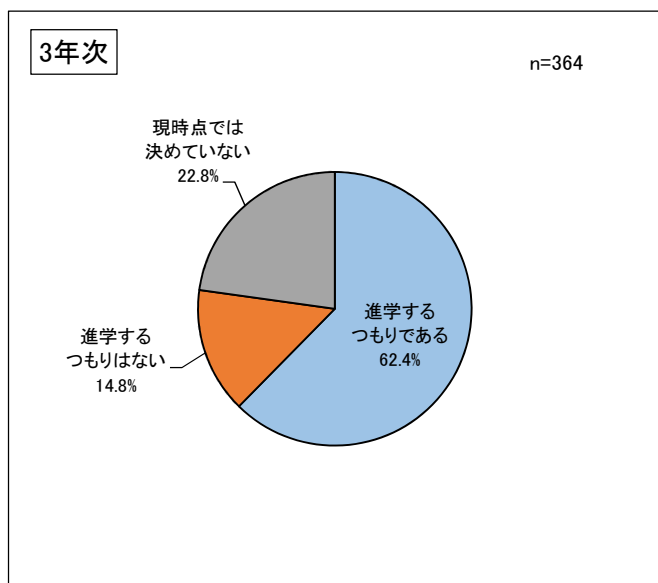
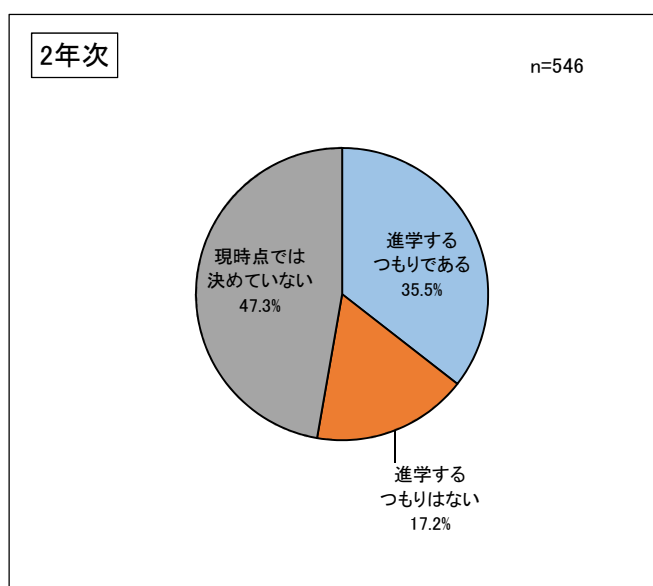
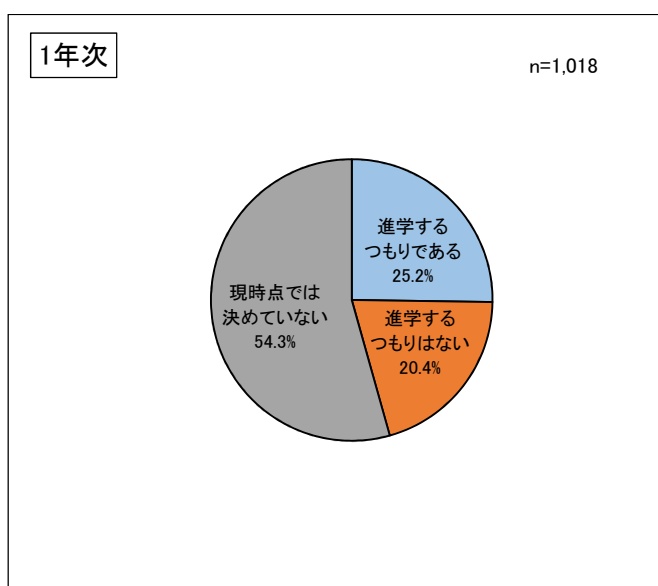
	進学する つもりである	進学する つもりはない	現時点では 決めていない	回答者数
回答数(人)	887	398	927	2,212
割合(%)	40.1	18.0	41.9	100.0



(参考)学年別内訳【表・円グラフ】

(上段:回答数・人/下段:割合・%)

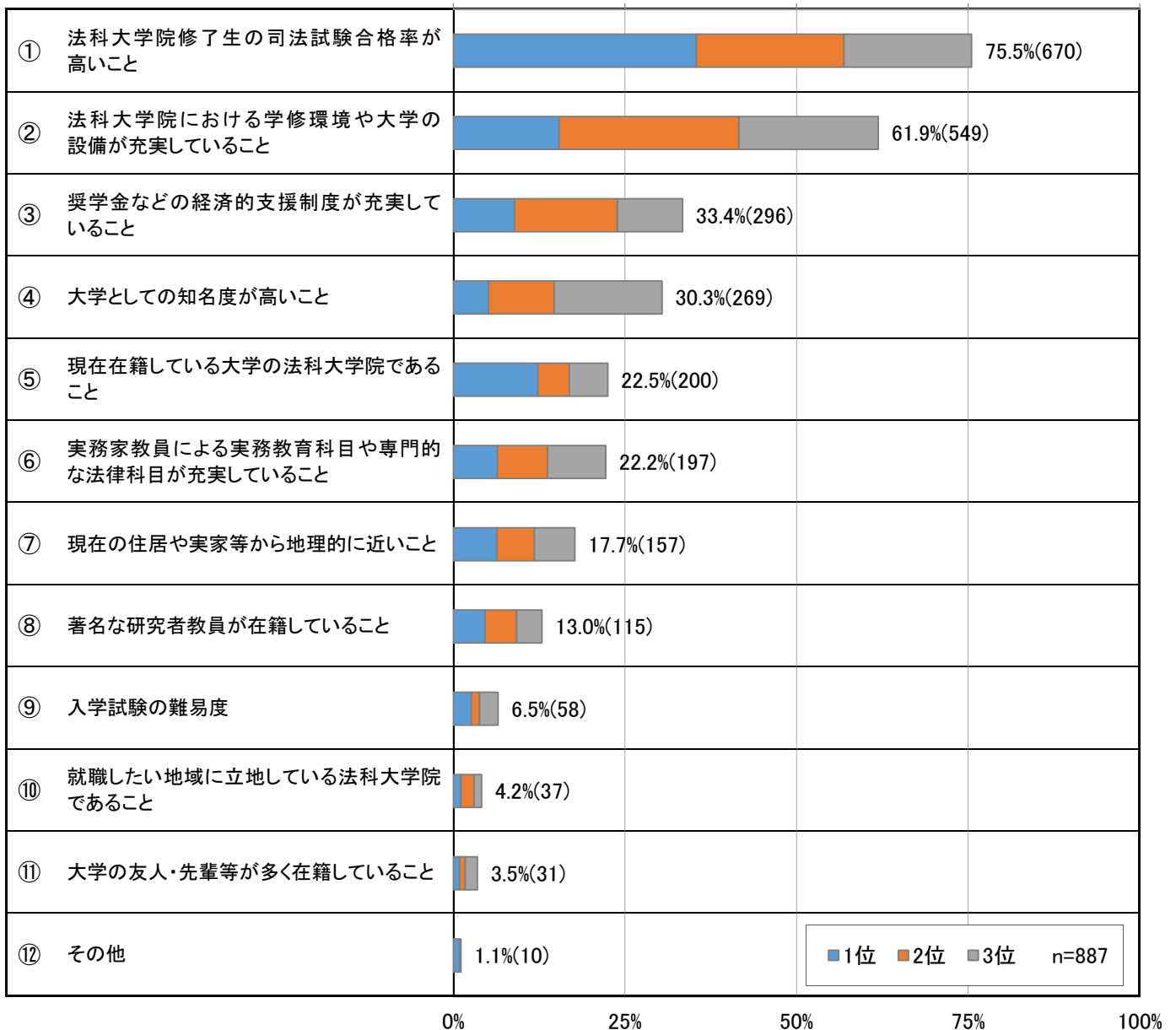
	進学する つもりである	進学する つもりはない	現時点では 決めていない	回答者数
1 年次	257 25.2	208 20.4	553 54.3	1,018 100.0
2 年次	194 35.5	94 17.2	258 47.3	546 100.0
3 年次	227 62.4	54 14.8	83 22.8	364 100.0
4 年次以上	209 73.6	42 14.8	33 11.6	284 100.0
全 体	887 40.1	398 18.0	927 41.9	2,212 100.0



(2)法科大学院の選択において重視する点(上位3つまで選択/法科大学院に進学予定がある学生)

法科大学院の選択で重視する点は、上位3位までの合計で「法科大学院修了生の司法試験合格率が高いこと」が75.5%で最も高く、次いで「法科大学院における学修環境や大学の設備が充実していること」が61.9%で高くなっている。これ以下の項目は3割台以下と低くなっている。

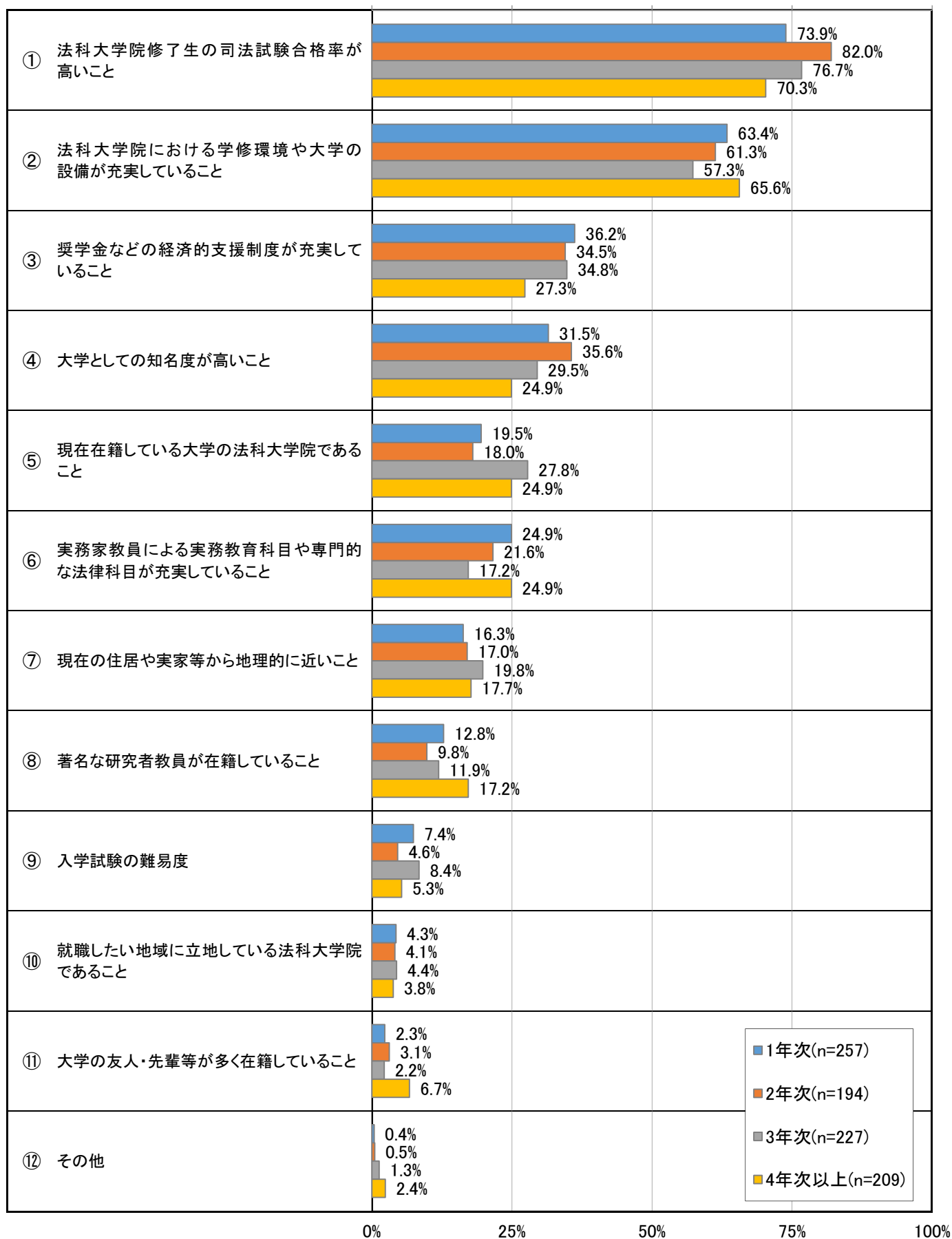
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	-	
	法科大学院修了生の司法試験合格率が高いこと	法科大学院における学修環境や大学の設備が充実していること	奨学金などの経済的支援制度が充実していること	大学としての知名度が高いこと	現在在籍している大学の法科大学院であること	実務家教員による実務教育科目や専門的な法律科目が充実していること	現在の住居や実家等から地理的に近いこと	著名な研究者教員が在籍していること	入学試験の難易度	就職したい地域に立地している法科大学院であること	大学の友人・先輩等が多く在籍していること	その他	選択なし	回答者数
1位	314	137	79	45	109	57	56	41	23	10	8	8	0	887
2位	191	232	133	85	41	65	49	41	11	17	7	0	15	887
3位	165	180	84	139	50	75	52	33	24	10	16	2	57	887
合計(人)	670	549	296	269	200	197	157	115	58	37	31	10	72	887
割合(%)	75.5	61.9	33.4	30.3	22.5	22.2	17.7	13.0	6.5	4.2	3.5	1.1	-	100.0



(参考)学年別内訳【表】

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	-	回答者数
		法科大学院修了生の司法試験合格率が高いこと	法科大学院における学修環境や大学の設備が充実していること	奨学金などの経済的支援制度が充実していること	大学としての知名度が高いこと	現在在籍している大学の法科大学院であること	実務家教員による実務教育科目や専門的な法律科目が充実していること	現在の住居や実家等から地理的に近いこと	著名な研究者教員が在籍していること	入学試験の難易度	就職したい地域に立地している法科大学院であること	大学の友人・先輩等が多く在籍していること	その他	選択なし	
1位	全体	314	137	79	45	109	57	56	41	23	10	8	8	0	887
	1年次	87	39	28	21	27	16	16	13	6	2	1	1	0	257
	2年次	83	30	16	8	16	12	10	9	5	3	1	1	0	194
	3年次	75	38	17	10	37	14	13	8	8	2	2	3	0	227
	4年次以上	69	30	18	6	29	15	17	11	4	3	4	3	0	209
2位	全体	191	232	133	85	41	65	49	41	11	17	7	0	15	887
	1年次	56	75	35	19	10	19	12	14	4	7	2	0	4	257
	2年次	43	52	31	25	6	13	12	4	0	4	2	0	2	194
	3年次	52	53	39	23	12	12	15	9	4	2	2	0	4	227
	4年次以上	40	52	28	18	13	21	10	14	3	4	1	0	5	209
3位	全体	165	180	84	139	50	75	52	33	24	10	16	2	57	887
	1年次	47	49	30	41	13	29	14	6	9	2	3	0	14	257
	2年次	33	37	20	36	13	17	11	6	4	1	3	0	13	194
	3年次	47	39	23	34	14	13	17	10	7	6	1	0	16	227
	4年次以上	38	55	11	28	10	16	10	11	4	1	9	2	14	209
合計(上段・実数／下段・割合(%))	全体	670	549	296	269	200	197	157	115	58	37	31	10	72	887
		75.5	61.9	33.4	30.3	22.5	22.2	17.7	13.0	6.5	4.2	3.5	1.1	-	100.0
	1年次	190	163	93	81	50	64	42	33	19	11	6	1	18	257
		73.9	63.4	36.2	31.5	19.5	24.9	16.3	12.8	7.4	4.3	2.3	0.4	-	100.0
	2年次	159	119	67	69	35	42	33	19	9	8	6	1	15	194
		82.0	61.3	34.5	35.6	18.0	21.6	17.0	9.8	4.6	4.1	3.1	0.5	-	100.0
	3年次	174	130	79	67	63	39	45	27	19	10	5	3	20	227
		76.7	57.3	34.8	29.5	27.8	17.2	19.8	11.9	8.4	4.4	2.2	1.3	-	100.0
	4年次以上	147	137	57	52	52	52	37	36	11	8	14	5	19	209
		70.3	65.6	27.3	24.9	24.9	24.9	17.7	17.2	5.3	3.8	6.7	2.4	-	100.0

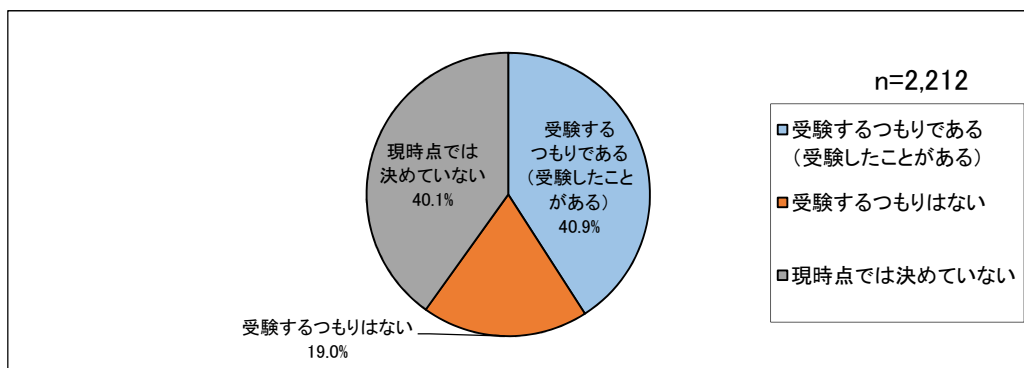
(参考)学年別内訳【横棒グラフ/1位～3位の合計】



(3)大学在学中の予備試験の受験予定

大学在学中の予備試験の受験予定は、「受験するつもりである(受験したことがある)」が 40.9%,「現時点では決めていない」が 40.1%でほぼ同じ割合である。「受験するつもりはない」は 19.0%となっている。

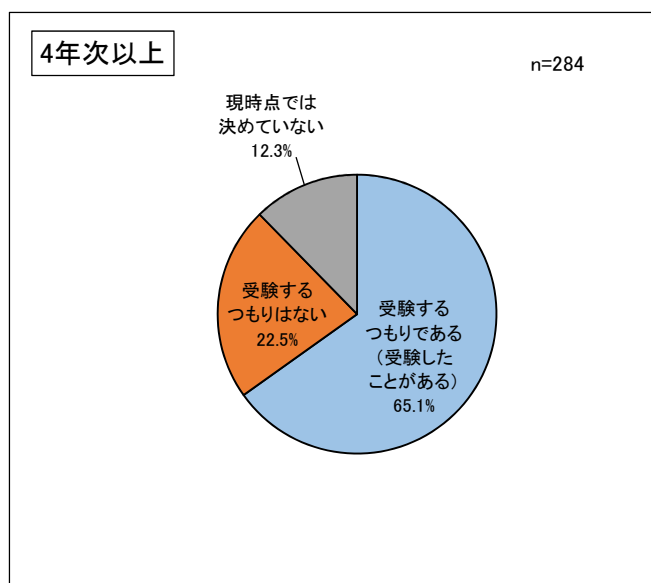
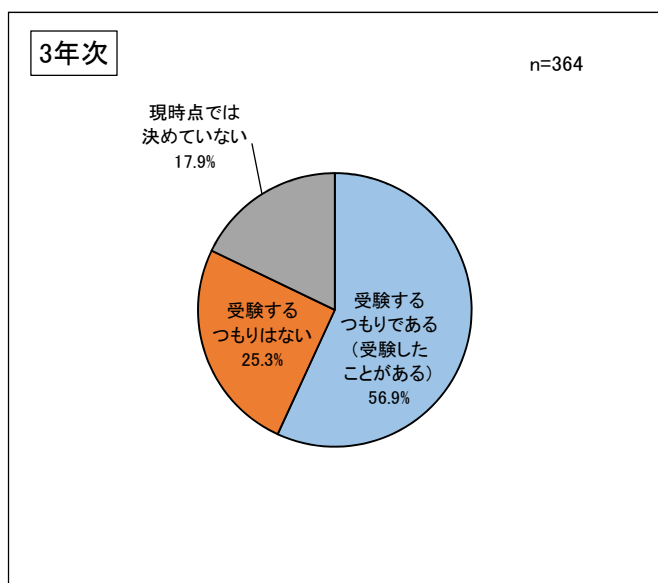
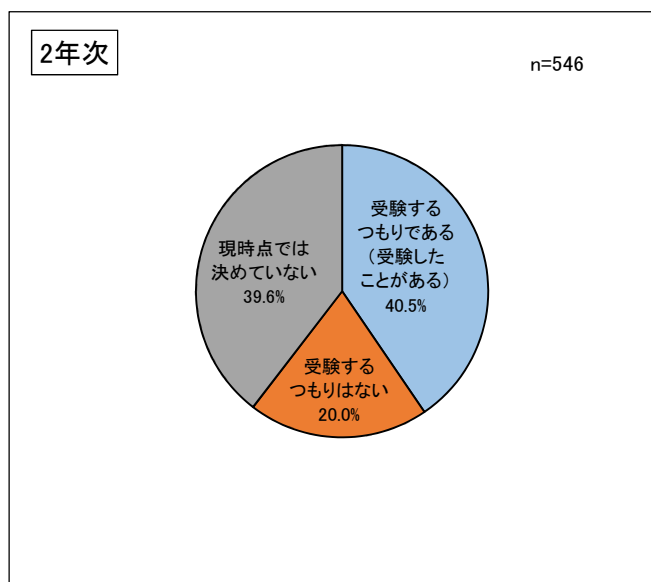
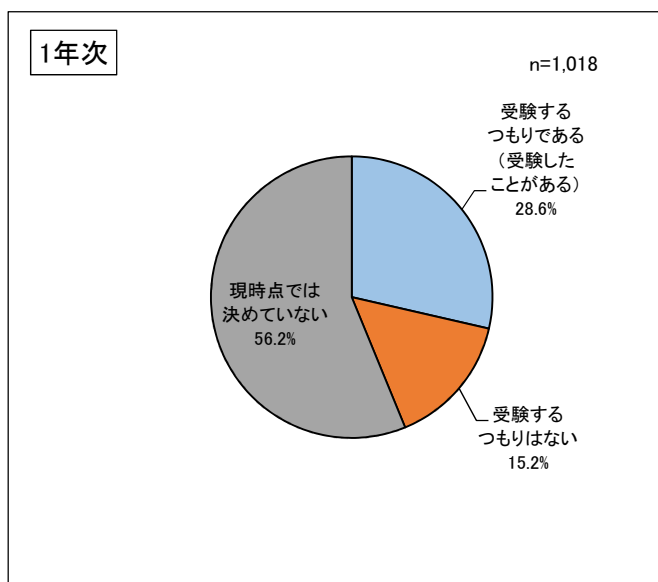
	受験するつもりである (受験したことがある)	受験するつもりはない	現時点では 決めていない	回答者数
回答数(人)	904	420	888	2,212
割合(%)	40.9	19.0	40.1	100.0



(参考)学年別内訳【表・円グラフ】

(上段:回答数・人/下段:割合・%)

	受験するつもりである (受験したことがある)	受験するつもりはない	現時点では 決めていない	回答者数
1 年次	291 28.6	155 15.2	572 56.2	1,018 100.0
2 年次	221 40.5	109 20.0	216 39.6	546 100.0
3 年次	207 56.9	92 25.3	65 17.9	364 100.0
4 年次以上	185 65.1	64 22.5	35 12.3	284 100.0
全 体	904 40.9	420 19.0	888 40.1	2,212 100.0



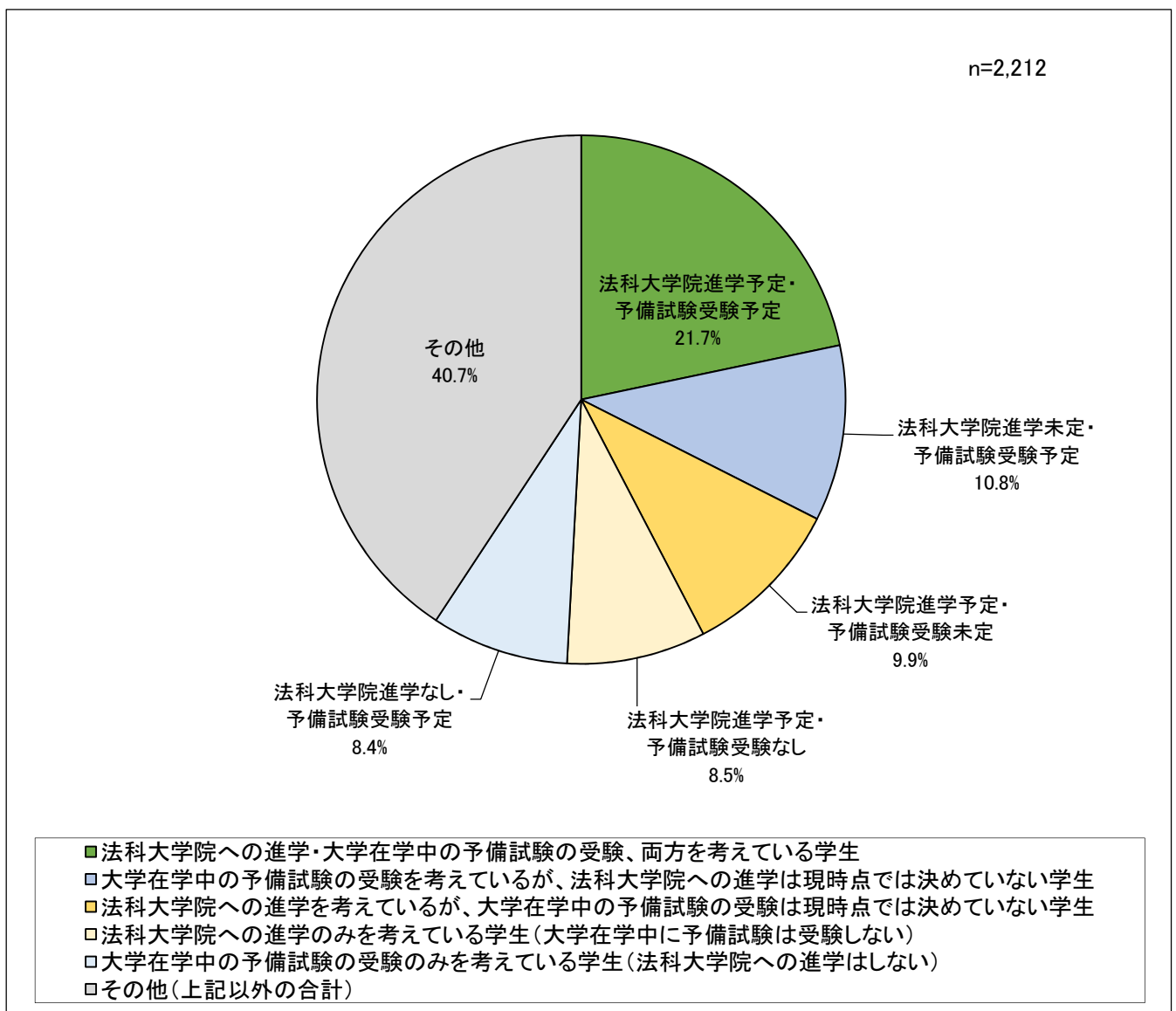
■ 進学するつもりである
 ■ 進学するつもりはない
 ■ 現時点では決めていない

(4)法科大学院への進学予定・大学在学中の予備試験の受験予定

法科大学院への進学と、大学在学中の予備試験の受験予定との関係については、「法科大学院進学予定・予備試験受験予定」が21.7%となっている。法科大学院への進学、予備試験の受験とも未定であるのが26.0%となっている。

(上段:回答数・人/下段:割合・%)

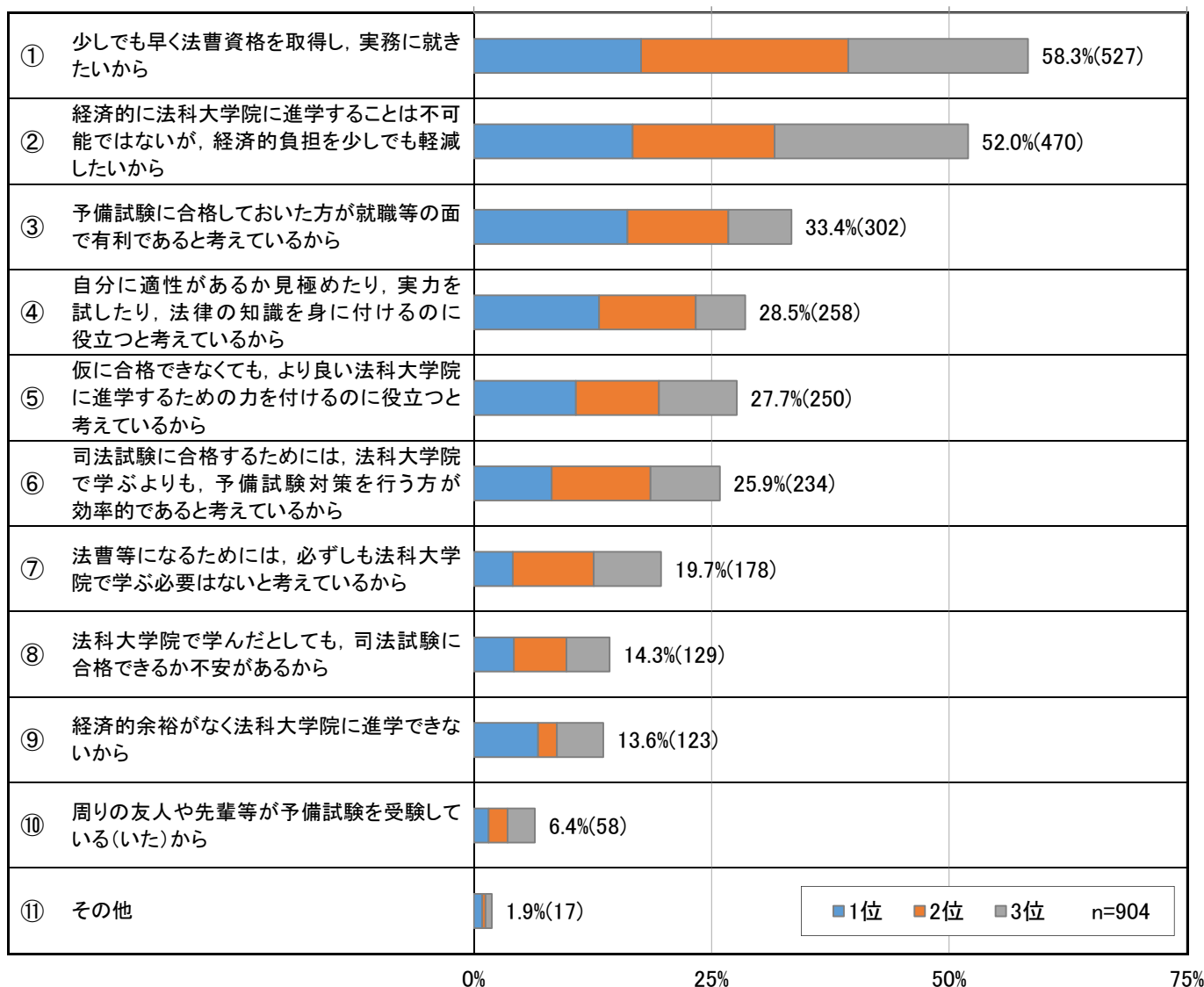
		回答数	法科大学院への進学予定		
			進学する つもりである	進学する つもりはない	現時点では 決めていない
全体		2,212	887	398	927
		100.0	40.1	18.0	41.9
在 学 中 の 予 備 試 験 受 験 予 定	受験するつもりである (受験したことがある)	904	480	186	238
		40.9	21.7	8.4	10.8
	受験するつもりはない	420	188	119	113
		19.0	8.5	5.4	5.1
	現時点では決めていない	888	219	93	576
		40.1	9.9	4.2	26.0



(5)在学中の予備試験の受験理由(上位3つまで選択/在学中に予備試験を受ける予定がある学生)

在学中の予備試験の受験理由については、「少しでも早く法曹資格を取得し、実務に就きたいから」、「経済的に法科大学院に進学することは不可能ではないが、経済的負担を少しでも軽減したいから」が58.3%、52.0%で多く過半数である。

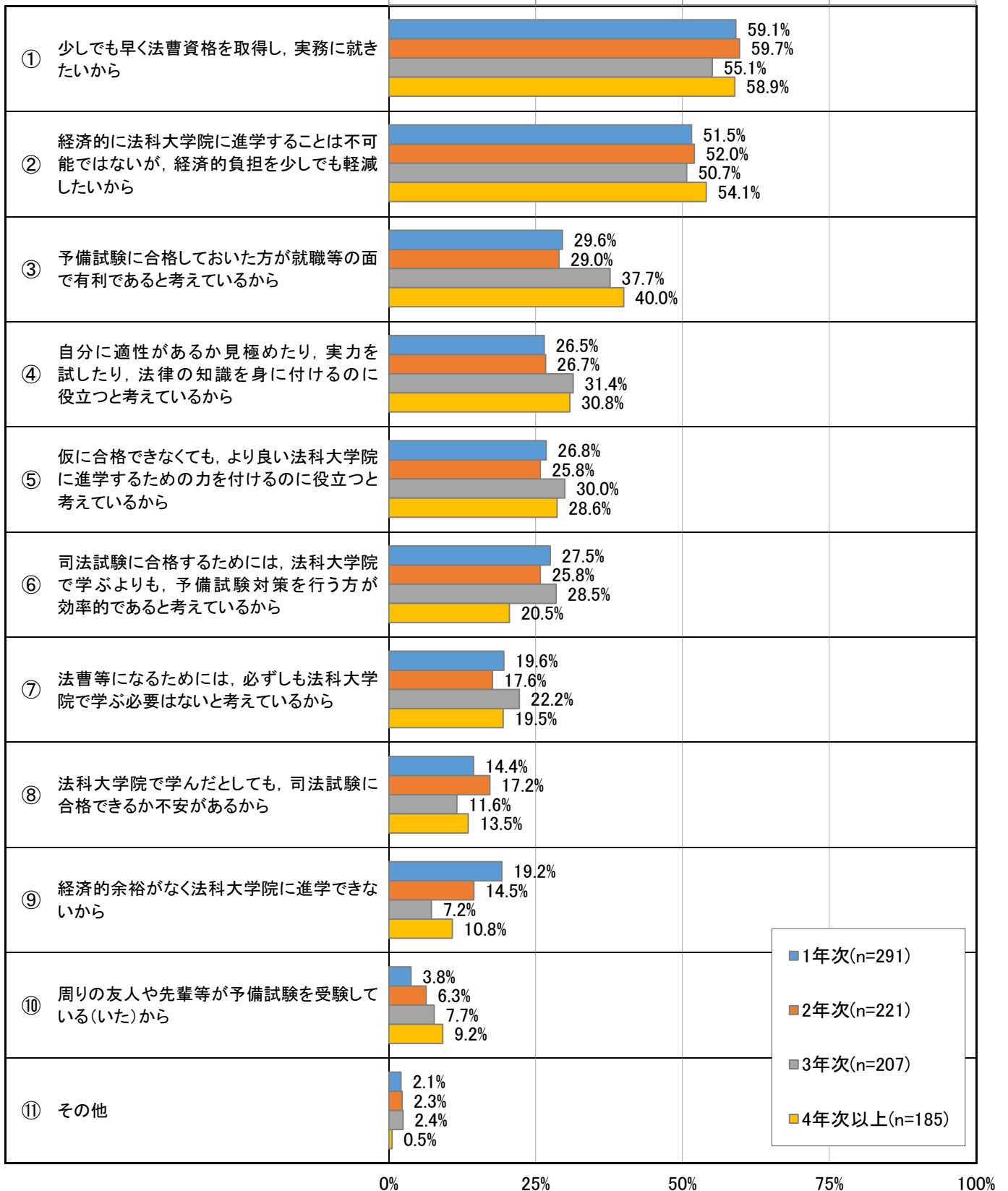
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	-	
	少しでも早く法曹資格を取得し、実務に就きたいから	経済的に法科大学院に進学することは不可能ではないが、経済的負担を少しでも軽減したいから	予備試験に合格しておいた方が就職等の面で有利であると考えているから	自分に適性があるか見極めたり、実力を試したり、法律の知識を身に付けるのに役立つと考えているから	仮に合格できなくても、より良い法科大学院に進学するための力を付けるのに役立つと考えているから	司法試験に合格するためには、法科大学院で学ぶよりも、予備試験対策を行う方が効率的であると考えているから	法曹等になるためには、必ずしも法科大学院で学ぶ必要はないと考えているから	法科大学院で学んだとしても、司法試験に合格できるか不安があるから	経済的余裕がなく法科大学院に進学できないから	周りの友人や先輩等が予備試験を受験している(いた)から	その他	選択なし	回答者数
1位	159	151	146	119	97	74	37	38	61	14	8	0	904
2位	197	135	96	92	79	94	77	50	18	18	3	45	904
3位	171	184	60	47	74	66	64	41	44	26	6	121	904
合計(人)	527	470	302	258	250	234	178	129	123	58	17	166	904
割合(%)	58.3	52.0	33.4	28.5	27.7	25.9	19.7	14.3	13.6	6.4	1.9	-	100.0



(参考)学年別内訳【表】

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	-	回答者数
		少しでも早く法曹資格を取得し、実務に就きたいから	経済的に法科大学院に進学することは不可能ではないが、経済的負担を少しでも軽減したいから	予備試験に合格しておいた方が就職等の面で有利であると考えているから	自分に適性があるか見極めたり、実力を試したり、法律の知識を身に付けるのに役立つと考えているから	仮に合格できなくても、より良い法科大学院に進学するための力を付けるのに役立つと考えているから	司法試験に合格するためには、法科大学院で学ぶよりも、予備試験対策を行う方が効率的であると考えているから	法曹等になるためには、必ずしも法科大学院で学ぶ必要はないと考えているから	法科大学院で学んだとしても、司法試験に合格できるか不安があるから	経済的余裕がなく法科大学院に進学できないから	周りの友人や先輩等が予備試験を受験している(いた)から	その他	選択なし	
1位	全体	159	151	146	119	97	74	37	38	61	14	8	0	904
	1年次	50	45	45	36	28	27	14	15	27	1	3	0	291
	2年次	41	27	32	34	25	17	9	11	18	4	3	0	221
	3年次	39	46	31	23	24	16	7	5	10	5	1	0	207
	4年次以上	29	33	38	26	20	14	7	7	6	4	1	0	185
2位	全体	197	135	96	92	79	94	77	50	18	18	3	45	904
	1年次	67	39	23	30	31	36	25	18	6	3	1	12	291
	2年次	51	40	24	19	16	20	14	13	4	3	1	16	221
	3年次	33	23	30	23	19	29	20	10	1	6	1	12	207
	4年次以上	46	33	19	20	13	9	18	9	7	6	0	5	185
3位	全体	171	184	60	47	74	66	64	41	44	26	6	121	904
	1年次	55	66	18	11	19	17	18	9	23	7	2	46	291
	2年次	40	48	8	6	16	20	16	14	10	7	1	35	221
	3年次	42	36	17	19	19	14	19	9	4	5	3	20	207
	4年次以上	34	34	17	11	20	15	11	9	7	7	0	20	185
合計(上段・実数／下段・割合)(%)	全体	527	470	302	258	250	234	178	129	123	58	17	166	904
		58.3	52.0	33.4	28.5	27.7	25.9	19.7	14.3	13.6	6.4	1.9	-	100.0
	1年次	172	150	86	77	78	80	57	42	56	11	6	58	291
		59.1	51.5	29.6	26.5	26.8	27.5	19.6	14.4	19.2	3.8	2.1	-	100.0
	2年次	132	115	64	59	57	57	39	38	32	14	5	51	221
		59.7	52.0	29.0	26.7	25.8	25.8	17.6	17.2	14.5	6.3	2.3	-	100.0
	3年次	114	105	78	65	62	59	46	24	15	16	5	32	207
		55.1	50.7	37.7	31.4	30.0	28.5	22.2	11.6	7.2	7.7	2.4	-	100.0
	4年次以上	109	100	74	57	53	38	36	25	20	17	1	25	185
		58.9	54.1	40.0	30.8	28.6	20.5	19.5	13.5	10.8	9.2	0.5	-	100.0

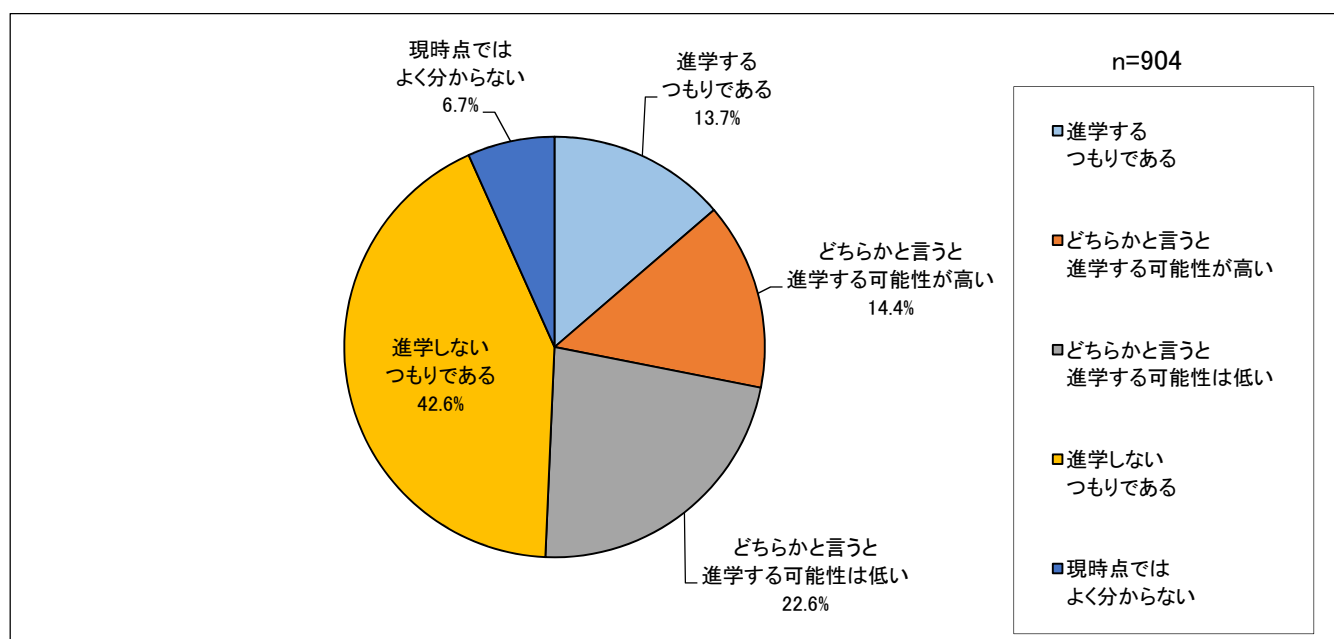
(参考)学年別内訳【横棒グラフ/1位～3位の合計】



(6)在学中に予備試験に合格した場合の法科大学院への進学(在学中に予備試験を受験予定のある学生)

在学中に予備試験に合格した場合の法科大学院への進学については、「進学しないつもりである」が 42.6%で最も高くなっている。これに「どちらかと言うと進学する可能性は低い」の 22.6%を加えると、予備試験に合格した場合に法科大学院に進学しない可能性がある学生は 6 割以上となっている。

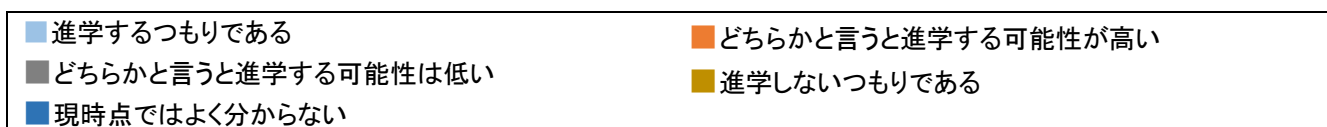
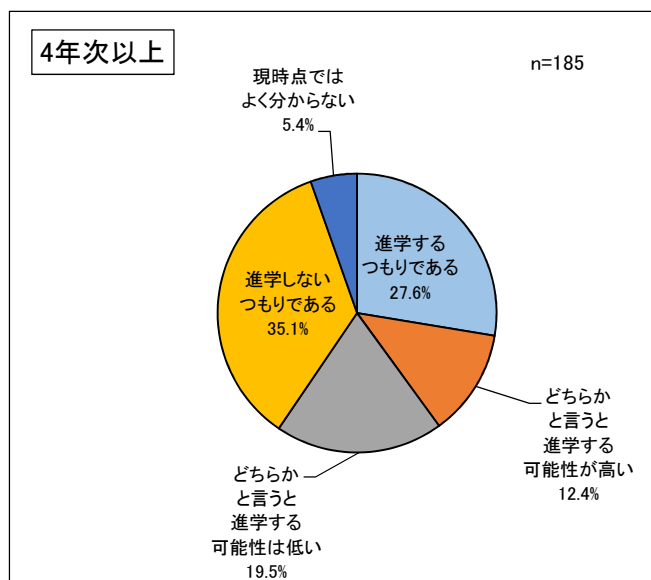
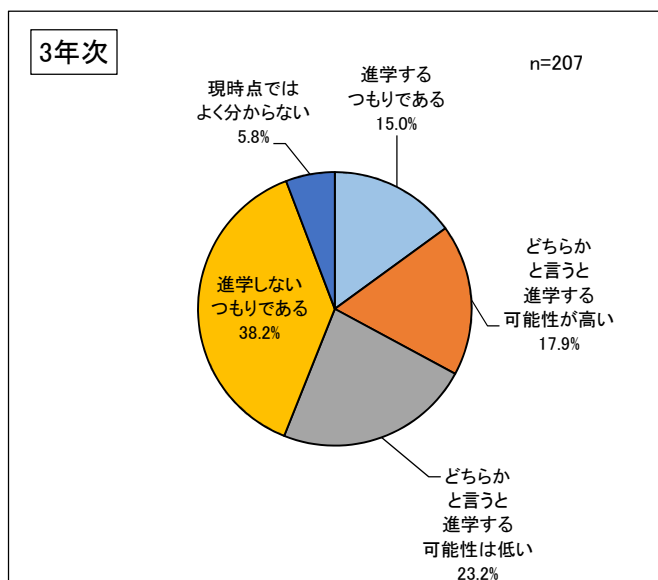
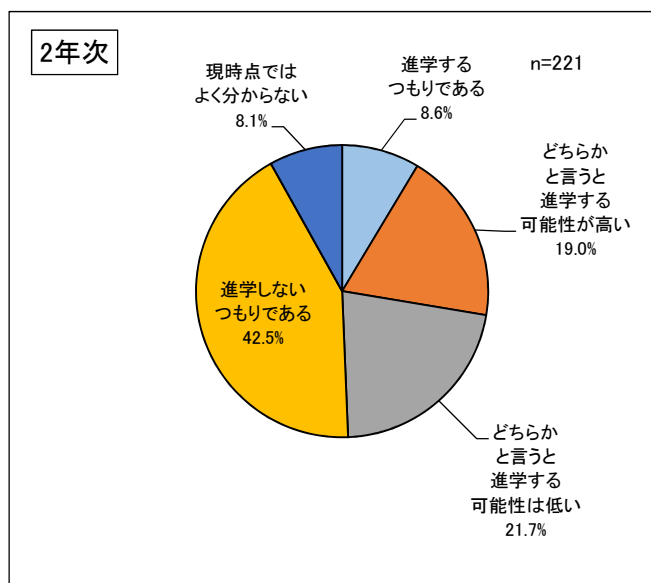
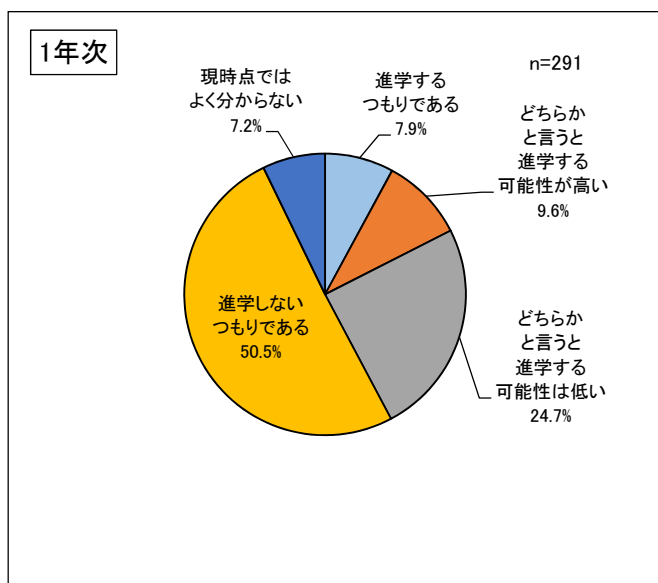
	進学するつもりである	どちらかと言うと進学する可能性が高い	どちらかと言うと進学する可能性は低い	進学しないつもりである	現時点ではよく分からない	回答者数
回答数(人)	124	130	204	385	61	904
割合(%)	13.7	14.4	22.6	42.6	6.7	100.0



(参考) 学年別内訳【表・円グラフ】

(上段: 回答数・人 / 下段: 割合・%)

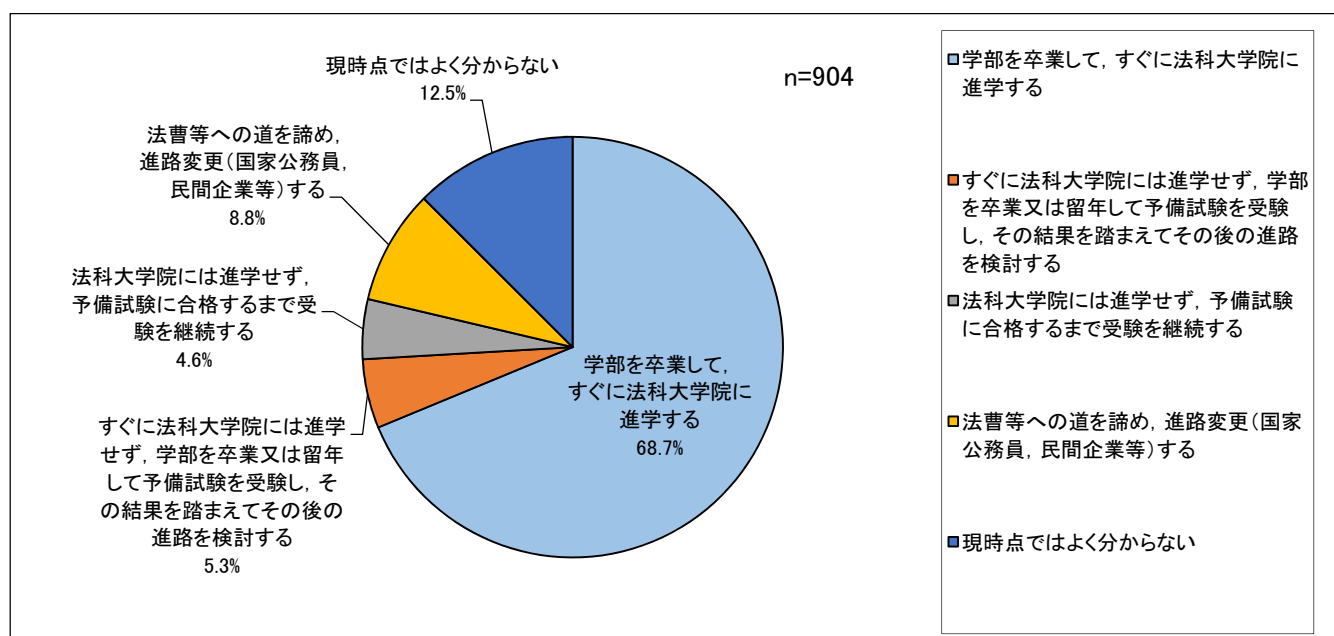
	進学するつもりである	どちらかと言うと進学する可能性が高い	どちらかと言うと進学する可能性は低い	進学しないつもりである	現時点ではよく分からない	回答者数
1 年次	23 7.9	28 9.6	72 24.7	147 50.5	21 7.2	291 100.0
2 年次	19 8.6	42 19.0	48 21.7	94 42.5	18 8.1	221 100.0
3 年次	31 15.0	37 17.9	48 23.2	79 38.2	12 5.8	207 100.0
4 年次以上	51 27.6	23 12.4	36 19.5	65 35.1	10 5.4	185 100.0
全 体	124 13.7	130 14.4	204 22.6	385 42.6	61 6.7	904 100.0



(7)大学4年次までに予備試験に合格しなかった場合の進路（在学中に予備試験を受験予定のある学生）

大学4年次までに予備試験に合格しなかった場合の進路については、「学部を卒業して、すぐに法科大学院に進学する」が68.7%で7割近くになっている。また「現時点ではよく分からない」も12.5%で1割を超えている。なお、「法曹等への道を諦め、進路変更する」は8.8%となっている。

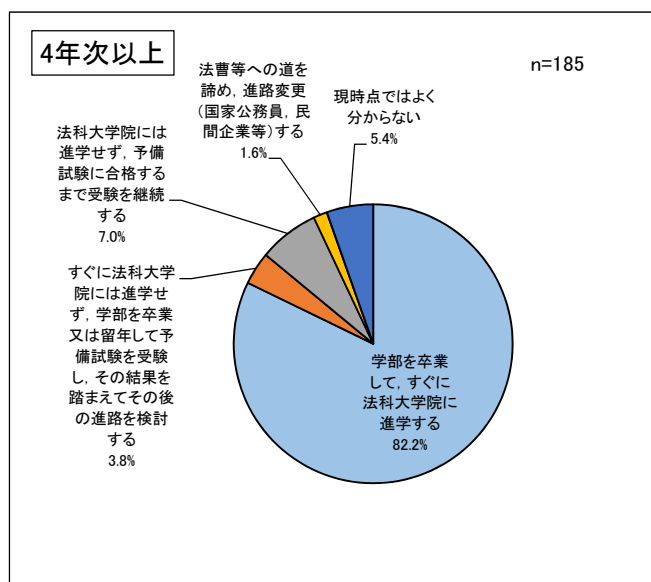
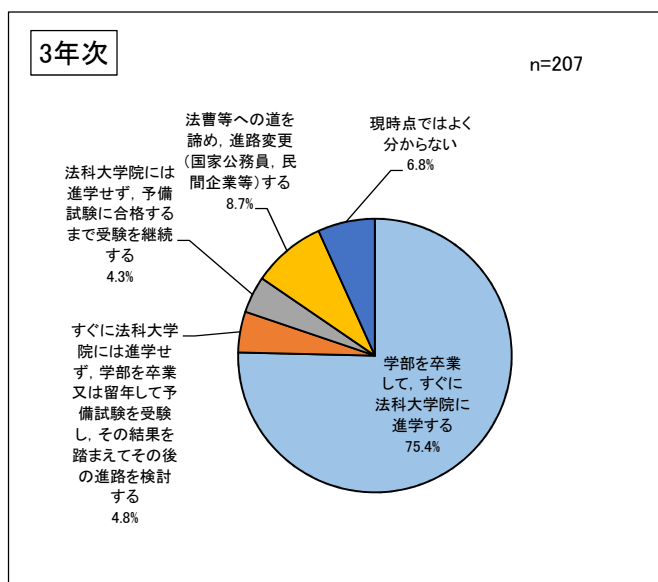
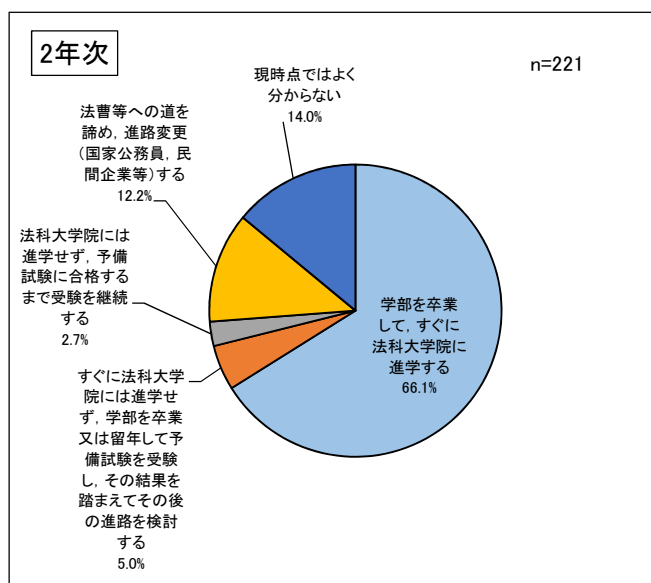
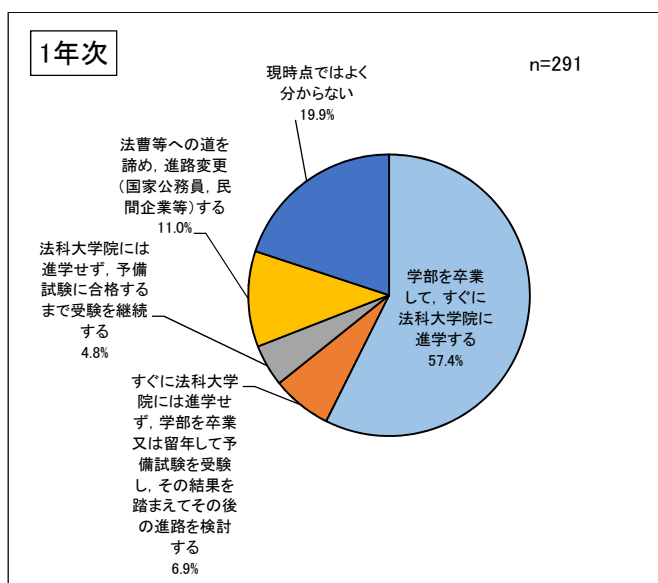
	学部を卒業して、すぐに法科大学院に進学する	すぐに法科大学院には進学せず、学部を卒業又は留年して予備試験を受験し、その結果を踏まえてその後の進路を検討する	法科大学院には進学せず、予備試験に合格するまで受験を継続する	法曹等への道を諦め、進路変更（国家公務員、民間企業等）する	現時点ではよく分からない	回答者数
回答数(人)	621	48	42	80	113	904
割合(%)	68.7	5.3	4.6	8.8	12.5	100.0



(参考)学年別内訳【表・円グラフ】

(上段:回答数・人/下段:割合・%)

	学部を卒業して、すぐに法科大学院に進学する	すぐに法科大学院には進学せず、学部を卒業又は留年して予備試験を受験し、その結果を踏まえてその後の進路を検討する	法科大学院には進学せず、予備試験に合格するまで受験を継続する	法曹等への道を諦め、進路変更(国家公務員、民間企業等)する	現時点ではよく分からない	回答者数
1 年次	167 57.4	20 6.9	14 4.8	32 11.0	58 19.9	291 100.0
2 年次	146 66.1	11 5.0	6 2.7	27 12.2	31 14.0	221 100.0
3 年次	156 75.4	10 4.8	9 4.3	18 8.7	14 6.8	207 100.0
4 年次以上	152 82.2	7 3.8	13 7.0	3 1.6	10 5.4	185 100.0
全 体	621 68.7	48 5.3	42 4.6	80 8.8	113 12.5	904 100.0



- 学部を卒業して、すぐに法科大学院に進学する
- すぐに法科大学院には進学せず、学部を卒業又は留年して予備試験を受験し、その結果を踏まえてその後の進路を検討する
- 法科大学院には進学せず、予備試験に合格するまで受験を継続する
- 法曹等への道を諦め、進路変更(国家公務員、民間企業等)する
- 現時点ではよく分からない

参考資料（調査票）

平成29年度法学部に在籍されている皆様に対する志望アンケート

法 務 省
文部科学省

※ 法学部（法学系課程を含む。）に在籍されているあなたの法曹志望等についてお聞きします。所要10分程度で終了しますので、御協力をお願いします。

※ 結果については、個人が特定できないように集計した上で、法曹養成制度の充実のために活用させていただく予定です。

問1 年齢（平成29年9月末日現在）について、以下の選択肢から当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- | | |
|---|-------|
| 1 | 18歳以下 |
| 2 | 19歳 |
| 3 | 20歳 |
| 4 | 21歳 |
| 5 | 22歳 |
| 6 | 23歳 |
| 7 | 24歳 |
| 8 | 25歳以上 |

問2 性別について、以下の選択肢から当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- | | |
|---|----|
| 1 | 男性 |
| 2 | 女性 |

問3 通学中の大学名、学部、学科、コース・専攻と在籍学年を教えてください。
学科、コース・専攻については、設置されていない場合やまだ選択していない場合、記載不要です。

大学名		学部		学年		年次
-----	----------------------	----	----------------------	----	----------------------	----

学科		コース・専攻	
----	----------------------	--------	----------------------

問 4 将来の職業として現時点で第一志望として考えているものについて、以下の選択肢から当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- 1 国内企業
- 2 外資系企業
- 3 国家公務員
- 4 地方公務員
- 5 国際機関職員（NGOを含む）
- 6 公益法人・特定非営利活動法人（NPO法人）職員
- 7 法曹等（法曹（裁判官、検察官及び弁護士）のみならず、司法試験合格後法曹資格を取得せず活動する場合を含む）
- 8 法曹以外の隣接法律専門職（司法書士、行政書士、弁理士など）
- 9 経営者、自営・自由業
- 10 研究者
- 11 その他（具体的に ）
- 12 特になし

問 5 将来の職業を選択するに当たって重視することについて、以下の選択肢から当てはまる番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- 1 仕事の内容に多くの選択肢があること
- 2 自分の興味・関心のある分野で活躍できること
- 3 身に付けた専門的知識をいかせること
- 4 社会への貢献度が高いこと
- 5 国際的な分野で活躍できること
- 6 社会的地位・信用が高いこと
- 7 高収入が期待できること
- 8 経済的に安定していること
- 9 働き方に多くの選択肢があり、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）を実現できること（結婚、出産や育児等のライフイベントに有利であることを含む）
- 10 その他（具体的に ）

問 6 将来の職業として、法曹等（法曹（裁判官、検察官及び弁護士）のみならず、司法試験合格後法曹資格を取得せず活動する場合を含む、以下同じ。）を志望したことがありますか。

以下の選択肢から当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。
なお、法曹になるルートについては3頁の「参考」参照。

- 1 現在、志望している（→問 7，8のみ回答）
- 2 現在、選択肢の1つとして考えている（→問 7，8のみ回答）
- 3 過去に志望していた（→問 9のみ回答）
- 4 過去に選択肢の1つとして考えていた（→問 9のみ回答）
- 5 志望していない（選択肢の1つとして考えていたこともない）（→問 10のみ回答）

参 考

法曹になるには、司法試験に合格する必要があります。

司法試験の受験資格を得るためには、法科大学院を修了するほか、経済的事情や実社会で十分な経験を経ているなどの理由により法科大学院を経由しない方のために設けられている司法試験予備試験（以下、「予備試験」という。）（※１）に合格する必要があります。

司法試験合格後、法曹資格を取得せずに社会で活躍されている方のほか、司法試験合格後１年間の司法修習（※２）を経て裁判官、検察官及び弁護士等として活躍されている方がいます。

（※１）

予備試験とは、法科大学院課程の修了者と同等の学識及びその応用能力並びに法律に関する実務の基礎的素養を有するかどうかを判定することを目的とした試験です。同試験の合格者については、法科大学院修了者と同様、司法試験の受験資格を得ることができます。

（※２）

司法修習生に対する経済的支援については、これまでは、希望者全員に対して修習資金を無利息で貸与する制度（貸与制）が実施されていましたが、平成２９年１１月に修習を開始する第７１期司法修習生からは、修習給付金を支給する制度が実施されます（貸与制については、貸与額を月額１０万円程度に見直した上で併存）。

〔修習給付金の額〕

- ・ 基本給付金（司法修習生に対して一律に支給）
月額１３．５万円
- ・ 住居給付金（住宅を借り受け、家賃を支払っている場合に支給）
月額３．５万円
- ・ 移転給付金（修習に伴い住所・居所を移転する必要がある場合に支給）
移動距離に応じた額

問 7 問 6 で「1 現在、志望している」又は「2 現在、選択肢の 1 つとして考えている」を選択した方にお聞きします。

- (1) 法曹等を志望した（選択肢の 1 つとして考えるようになった）のはいつ頃ですか。
以下の選択肢から当てはまる番号を 1 つ選び、○で囲んでください。

- | | |
|-------------|---|
| 1 中学生以前 | |
| 2 高校生になってから | |
| 3 大学生になってから | |
| 4 その他（具体的に | ） |

- (2) 法曹等を志望した（選択肢の 1 つとして考えるようになった）きっかけは何ですか。

以下の選択肢から当てはまる番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- | | |
|---|---|
| 1 法律に興味があり、法律に関する専門的知識を使った仕事をしたいと思ったから | |
| 2 社会的弱者や困った人を助けるなど、人に役立つ仕事をしたいと思ったから | |
| 3 基本的人権の擁護や社会正義の実現に興味や関心を持ったから | |
| 4 国際的な分野も含め、多様な分野で活躍できると思ったから | |
| 5 テレビやドラマ等を見て法曹等に憧れを持ったから | |
| 6 周り又は身内にいる法曹等の話を聞いたり、その姿を見たりして、興味や関心を持ったから | |
| 7 周りの友人や先輩等が司法試験や司法試験予備試験を受験している（いた）から | |
| 8 その他（具体的に | ） |
| 9 特になし | |

- (3) あなたは、法曹等の仕事のどのようなところに魅力を感じていますか。
以下の選択肢から当てはまる番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- | | |
|---|---|
| 1 仕事の内容に多くの選択肢があり、自由度が高いところ | |
| 2 法律に関する専門的知識を使った仕事ができるところ | |
| 3 社会的弱者や困っている人を助けることができるところ | |
| 4 基本的人権の擁護や社会正義の実現に寄与できるところ | |
| 5 国際的な分野も含め、多様な分野で活躍できるところ | |
| 6 社会的地位・信用が高いところ | |
| 7 高収入が期待できるところ | |
| 8 経済的に安定しているところ | |
| 9 働き方に多くの選択肢があり、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）を実現できるところ（結婚、出産や育児等のライフイベントに有利であることを含む） | |
| 10 その他（具体的に | ） |
| 11 特になし | |

- (4) 法曹等として、どのような進路を考えていますか。
以下の選択肢から当てはまる番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- | | |
|------------|---|
| 1 裁判官 | |
| 2 検察官 | |
| 3 弁護士 | |
| 4 その他（具体的に | ） |
| 5 まだ決めていない | |

- (5) 法曹等の活動領域の拡大に関し、以下の各質問にお答えください。

ア 国内の裁判の分野だけにとどまらず、渉外弁護士や企業内弁護士、弁護士資格をもって国や地方自治体の公務員になる、司法試験合格後法曹資格を取得せずに企業等で活躍するなど、法曹等がその専門性をいかして多様な役割を果たすことができる領域が広がっていますが、このように法曹等の活動領域が拡大している現状をご存じですか。

以下の選択肢から当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- | |
|-----------|
| 1 よく知っている |
| 2 少し知っている |
| 3 知らない |

イ 将来の進路を考える上で、アのような活動領域（海外、企業、国・地方自治体の分野等）で働くことに興味や関心はありますか。

以下の選択肢から当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- | |
|-------------------|
| 1 興味・関心がある（→ウへ） |
| 2 少し興味・関心がある（→ウへ） |
| 3 興味・関心はない（→(6)へ） |

ウ イで「1 興味・関心がある」又は「2 少し興味・関心がある」を選択した方にお聞きます。

将来、アのような活動領域のうち、具体的にどのような分野で働くことに興味・関心がありますか。

以下の選択肢から当てはまる番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- | | |
|-------------------|---|
| 1 中央省庁等の国の機関での勤務 | |
| 2 地方自治体での勤務 | |
| 3 企業内弁護士 | |
| 4 企業の海外展開支援等の海外分野 | |
| 5 国際機関での勤務 | |
| 6 その他（具体的に | ） |

- (6) 法曹等を志望するに当たって法学部での教育に期待するものは何ですか。
以下の選択肢から当てはまる番号を3つまで選び、期待が大きい順に1位～3位まで順位を付けて番号でお答えください（1位のみ、2位まででも可）。

- 1 一般的な法律知識や法律の考え方を身に付けること
- 2 法的思考に基づいた議論や交渉を行う能力を身に付けること
- 3 特定の法分野に関する深い学識や学術性を身に付けること
- 4 社会人として一般的に必要な教養を身に付けること
- 5 政治学、経営学、経済学その他の法学以外の社会科学に関する知識・能力を広く身に付けること
- 6 国際的に活躍するために必要な語学能力や国際感覚を身に付けること
- 7 法曹等として活躍するために必要な専門的な法律知識や法曹実務の素養を身に付けること
- 8 司法試験のために必要な能力を身に付けること
- 9 司法試験以外の資格試験や公務員試験その他の採用試験のために必要な能力を身に付けること
- 10 その他（具体的に ）
- 11 特になし

1 位

2 位

3 位

- (7) 学部在学中に司法試験予備校を利用したことがありますか。
以下の選択肢から当てはまる番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- 1 司法試験予備校が開講する講義・講座を利用したことがある
- 2 司法試験予備校が実施する模試を利用したことがある
- 3 利用したことはない

- (8) 法曹等を志望する（選択肢の一つとして考えている）に当たって、現在、不安や迷いを感じていますか。
以下の選択肢から当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- 1 不安や迷いを感じている（→(9)へ）
- 2 少し不安や迷いを感じている（→(9)へ）
- 3 不安や迷いを感じていない（→問8へ）

(9) (8)で「1 不安や迷いを感じている」又は「2 少し不安や迷いを感じている」を選択した方にお聞きします。

あなたが法曹等を志望する（選択肢の一つとして考えている）に当たって感じている不安や迷いは何ですか。

以下の選択肢から当てはまる番号を3つまで選び、不安や迷いの大きい順に1位～3位まで順位を付けて番号でお答えください（1位のみ、2位まででも可）。

- | |
|---|
| 1 他の進路（例えば、国家公務員、民間企業や研究職等）にも魅力を感じている |
| 2 民間企業の就職状況が良いので、民間企業に就職せずに法曹等を目指すことに迷いがある |
| 3 自分に法曹等としての適性があるか分からない |
| 4 保護者等の周囲の者が法曹等を志望することに反対している |
| 5 司法試験に合格できるか、自分の能力に自信がない |
| 6 司法試験の受験資格を得るまでに複数の試験を受けなければならず、負担が大きい |
| 7 法科大学院修了者の司法試験合格率が全体として低く、法科大学院に進学しても司法試験に合格できるか不安である |
| 8 大学卒業後法科大学院修了までに2～3年の期間を要し、時間的負担が大きい |
| 9 大学卒業後法科大学院修了までの経済的な負担が大きい |
| 10 司法修習期間中の生計面に不安がある |
| 11 司法試験に合格できても、就職できるか分からない |
| 12 司法試験に合格できても、就職後の収入面に不安がある |
| 13 その他（具体的に |

)

1 位

2 位

3 位

問 8 問 6 で「1 現在、志望している」又は「2 現在、選択肢の 1 つとして考えている」を選択した方にお聞きします。

(1) 法科大学院への進学に関し、以下の各質問にお答えください。

ア 現時点において、法科大学院に進学することを予定していますか。
以下の選択肢から当てはまる番号を 1 つ選び、○で囲んでください。

- | |
|---|
| 1 進学するつもりである (→イへ)
2 進学するつもりはない (→(2)へ)
3 現時点では決めていない (→(2)へ) |
|---|

イ (1)アで「1 進学するつもりである」を選択した方にお聞きします。
あなたが進学する法科大学院を選択する時に重視していることは何ですか。
以下の選択肢から当てはまる番号を 3 つまで選び、重視する要因が強い順に 1 位～3 位まで順位を付けて番号でお答えください (1 位のみ、2 位まででも可)。

- | |
|--|
| 1 大学としての知名度が高いこと
2 法科大学院修了生の司法試験合格率が高いこと
3 法科大学院における学修環境や大学の設備が充実していること
4 奨学金などの経済的支援制度が充実していること
5 著名な研究者教員が在籍していること
6 実務家教員による実務教育科目や専門的な法律科目が充実していること
7 現在の住居や実家等から地理的に近いこと
8 現在在籍している大学の法科大学院であること
9 就職したい地域に立地している法科大学院であること
10 大学の友人・先輩等が多く在籍していること
11 入学試験の難易度
12 その他 (具体的に) |
|--|

1 位

2 位

3 位

(2) 大学在学中の予備試験の受験に関し、以下の各質問にお答えください。

ア 現時点において、大学在学中に予備試験を受験することを予定していますか。
以下の選択肢から当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- | |
|---|
| 1 受験するつもりである（受験したことがある）（→イへ）
2 受験するつもりはない（→これで終わりです）
3 現時点では決めていない（→これで終わりです） |
|---|

イ (2)アで「1 受験するつもりである（受験したことがある）」を選択した方にお聞きします。

(7) 大学在学中に予備試験を受験した又は受験しようとする理由は何ですか。
以下の選択肢から当てはまる番号を3つまで選び、要因の強い順に1位～3位まで順位を付けて番号でお答えください（1位のみ、2位まででも可）。

- | |
|---|
| 1 経済的余裕がなく法科大学院に進学できないから
2 経済的に法科大学院に進学することは不可能ではないが、経済的負担を少しでも軽減したいから
3 少しでも早く法曹資格を取得し、実務に就きたいから
4 法曹等になるためには、必ずしも法科大学院で学ぶ必要はないと考えているから
5 司法試験に合格するためには、法科大学院で学ぶよりも、予備試験対策を行う方が効率的であると考えているから
6 法科大学院で学んだとしても、司法試験に合格できるか不安があるから
7 自分に適性があるか見極めたり、実力を試したり、法律の知識を身に付けるのに役立つと考えているから
8 予備試験に合格しておいた方が就職等の面で有利であると考えているから
9 仮に合格できなくても、より良い法科大学院に進学するための力を付けるのに役立つと考えているから
10 周りの友人や先輩等が予備試験を受験している（いた）から
11 その他（具体的に |
|---|

1 位

2 位

3 位

(イ) 大学在学中に予備試験に合格した場合、法科大学院に進学する予定がありますか。

以下の選択肢から当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 進学するつもりである2 どちらかと言うと進学する可能性が高い3 どちらかと言うと進学する可能性は低い4 進学しないつもりである5 現時点ではよく分からない |
|---|

(ウ) 大学4年次までに予備試験に合格しなかった場合、どのような進路を考えていますか。

以下の選択肢から当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 学部を卒業して、すぐに法科大学院に進学する2 すぐに法科大学院には進学せず、学部を卒業又は留年して予備試験を受験し、その結果を踏まえてその後の進路を検討する3 法科大学院には進学せず、予備試験に合格するまで受験を継続する4 法曹等への道を諦め、進路変更（国家公務員、民間企業等）する5 現時点ではよく分からない |
|---|

問 9 問 6 で「3 過去に志望していた」又は「4 過去に選択肢の 1 つとして考えていた」を選択した方にお聞きます。

- (1) 法曹等を志望した（選択肢の 1 つとして考えるようになった）のはいつ頃ですか。
以下の選択肢から当てはまる番号を 1 つ選び、○で囲んでください。

- 1 中学生以前
- 2 高校生になってから
- 3 大学生になってから
- 4 その他（具体的に

)

- (2) 法曹等を志望した（選択肢の 1 つとして考えるようになった）きっかけは何か。

以下の選択肢から当てはまる番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- 1 法律に興味があり、法律に関する専門的知識を使っていた仕事をしたと思ったから
- 2 社会的弱者や困った人を助けるなど、人に役立つ仕事をしたと思ったから
- 3 基本的人権の擁護や社会正義の実現に興味や関心を持ったから
- 4 国際的な分野も含め、多様な分野で活躍できると思ったから
- 5 テレビやドラマ等を見て法曹等に憧れを持ったから
- 6 周り又は身内にいる法曹等の話を聞いたり、その姿を見たりして、興味や関心を持ったから
- 7 周りの友人や先輩等が司法試験や司法試験予備試験を受験している（いた）から
- 8 その他（具体的に
- 9 特になし

)

- (3) あなたは、法曹等の仕事のどのようなところに魅力を感じていましたか。
以下の選択肢から当てはまる番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- 1 仕事の内容に多くの選択肢があり、自由度が高いところ
- 2 法律に関する専門的知識を使っていた仕事ができるところ
- 3 社会的弱者や困っている人を助けることができるところ
- 4 基本的人権の擁護や社会正義の実現に寄与できるところ
- 5 国際的な分野も含め、多様な分野で活躍できるところ
- 6 社会的地位・信用が高いところ
- 7 高収入が期待できるところ
- 8 経済的に安定しているところ
- 9 働き方に多くの選択肢があり、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）が実現できる（結婚、出産や育児等のライフイベントに有利であることを含む）
- 10 その他（具体的に
- 11 特になし

)

- (4) 法曹等として、どのような進路を考えていましたか。
以下の選択肢から当てはまる番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- 1 裁判官
- 2 検察官
- 3 弁護士
- 4 その他（具体的に
- 5 まだ決めていなかった

)

(5) 法曹等の活動領域の拡大に関し、以下の各質問にお答えください。

ア 国内の裁判の分野だけにとどまらず、渉外弁護士や企業内弁護士、弁護士資格をもって国や地方自治体の公務員になる、司法試験合格後法曹資格を取得せずに企業等で活躍するなど、法曹等がその専門性をいかして多様な役割を果たすことができる領域が広がっていますが、このように法曹等の活動領域が拡大している現状をご存じですか。

以下の選択肢から当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- | |
|-----------|
| 1 よく知っている |
| 2 少し知っている |
| 3 知らない |

イ 将来の進路を考える上で、アのような活動領域（海外、企業、国・地方自治体の分野等）で働くことに興味や関心はありますか。

以下の選択肢から当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- | |
|-------------------|
| 1 興味・関心がある（→ウへ） |
| 2 少し興味・関心がある（→ウへ） |
| 3 興味・関心はない（→(6)へ） |

ウ イで「1 興味・関心がある」又は「2 少し興味がある・関心がある」を選択した方にお聞きします。

将来、アのような活動領域のうち、具体的にどのような分野で働くことに興味・関心がありますか。

以下の選択肢から当てはまる番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- | |
|-------------------|
| 1 中央省庁等の国の機関での勤務 |
| 2 地方自治体での勤務 |
| 3 企業内弁護士 |
| 4 企業の海外展開支援等の海外分野 |
| 5 国際機関での勤務 |
| 6 その他（具体的に |
| ） |

(6) あなたが法曹志望を断念した（選択肢の1つから外した）理由（過去に法曹等を志望していた際の不安や迷いを含む）は何ですか。

以下の選択肢から当てはまる番号を3つまで選び、要因の強い順に1位～3位まで順位を付けて番号でお答えください（1位のみ、2位まででも可）。

- | | |
|----|---|
| 1 | 他の進路（例えば、国家公務員、民間企業や研究職等）に魅力を感じたから |
| 2 | 民間企業の就職状況が良いので、民間企業に就職せずに法曹等を目指すことに迷いがあったから |
| 3 | 自分に法曹等としての適性があるとは思えなかったから |
| 4 | 保護者等の周囲の者が法曹等を志望することに反対したから |
| 5 | 司法試験に合格できるか、自分の能力に自信がなくなったから |
| 6 | 司法試験の受験資格を得るまでに複数の試験を受けなければならず、負担が大きいため |
| 7 | 法科大学院修了者の司法試験合格率が全体として低く、法科大学院に進学しても司法試験に合格できないと思ったから |
| 8 | 大学卒業後法科大学院修了までに2～3年の期間を要し、時間的負担が大きいため |
| 9 | 大学卒業後法科大学院修了までの経済的な負担が大きいため |
| 10 | 大学在学中に司法試験予備試験に合格できなかったから |
| 11 | 司法修習期間中の生計面に不安があるから |
| 12 | 司法試験に合格できても、就職できるか分からないから |
| 13 | 司法試験に合格できても、就職後の収入面に不安を感じたから |
| 14 | その他（具体的に |

1 位

2 位

3 位

問10 問6で「5 志望していない（選択肢の1つとして考えていたこともない）」を選択した方にお聞きます。

(1) あなたが法曹等を志望しない（選択肢の1つとしても考えない）理由は何ですか。

以下の選択肢から当てはまる番号を3つまで選び、要因の強い順に1位～3位まで順位を付けて番号でお答えください（1位のみ、2位まででも可）。

- 1 他の進路（例えば、国家公務員、民間企業や研究職等）に魅力を感じているから
- 2 法曹等の仕事に魅力を感じないから
- 3 民間企業の就職状況が良いので、民間企業に就職せずに法曹等を目指す必要を感じないから
- 4 自分に法曹等としての適性があるとは思えないから
- 5 保護者等の周囲の者が法曹等を志望することに反対しているから
- 6 司法試験に合格できるか、自分の能力に自信がないから
- 7 司法試験の受験資格を得るまでに複数の試験を受けなければならず、負担が大きいから
- 8 法科大学院修了者の司法試験合格率が全体として低く、法科大学院に進学しても司法試験に合格できないと思うから
- 9 大学卒業後法科大学院修了までに2～3年の期間を要し、時間的負担が大きいから
- 10 大学卒業後法科大学院修了までの経済的な負担が大きいから
- 11 司法修習期間中の生計面に不安があるから
- 12 司法試験に合格できても、就職できるか分からないから
- 13 司法試験に合格できても、就職後の収入面に不安を感じているから
- 14 その他（具体的に

1位

2位

3位

(2) (1)で「2 法曹等の仕事に魅力を感じないから」を選択した方にお聞きます。

あなたが法曹等の仕事に魅力を感じない理由について、以下の選択肢から当てはまる番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- 1 訴訟対応が仕事の中心で活躍の場が限られている仕事だと思うから
- 2 社会に大きく貢献することができる仕事と思えないから
- 3 国際的な活躍をすることが難しい仕事だと思うから
- 4 社会的地位・信用が低下していると思うから
- 5 高収入が期待できないと思うから
- 6 経済的に安定していないと思うから
- 7 ワークライフバランス（仕事と生活の調和）の実現（結婚、出産や育児等のライフイベントに有利であることを含む）が困難であると思うから
- 8 体力的・精神的に負担が大きい仕事だと思うから
- 9 その他（具体的に

(3) 法曹等の活動領域の拡大に関し、以下の各質問にお答えください。

ア 国内の裁判の分野だけにとどまらず、渉外弁護士や企業内弁護士、弁護士資格をもって国や地方自治体の公務員になる、司法試験合格後法曹資格を取得せずに企業等で活躍するなど、法曹等がその専門性をいかして多様な役割を果たすことができる領域が広がっていますが、このように法曹等の活動領域が拡大している現状をご存じですか。

以下の選択肢から当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- | |
|-----------|
| 1 よく知っている |
| 2 少し知っている |
| 3 知らない |

イ 将来の進路を考える上で、アのような活動領域（海外、企業、国・地方自治体の分野等）で働くことに興味や関心はありますか。

以下の選択肢から当てはまる番号を1つ選び、○で囲んでください。

- | |
|-----------------------|
| 1 興味・関心がある（→ウへ） |
| 2 少し興味・関心がある（→ウへ） |
| 3 興味・関心はない（→これで終わりです） |

ウ イで「1 興味・関心がある」又は「2 少し興味・関心がある」を選択した方にお聞きます。

将来、アのような活動領域のうち、具体的にどのような分野で働くことに興味・関心がありますか。

以下の選択肢から当てはまる番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- | |
|-------------------|
| 1 中央省庁等の国の機関での勤務 |
| 2 地方自治体での勤務 |
| 3 企業内弁護士 |
| 4 企業の海外展開支援等の海外分野 |
| 5 国際機関での勤務 |
| 6 その他（具体的に |
| ） |